

平成28年度
事業報告書

社会福祉法人クムレ

平成28年度　社会福祉法人 クムレ 法人事業報告

1 総括

社会福祉法人制度を大きく改革する改正社会福祉法案が国会に提出され、平成28年3月31日に成立、公布しました。社会福祉法人にとっては、戦後長く続いてきた、社会福祉法人制度の構造を変える一大改革となります。

組織経営のガバナンス強化や地域貢献活動の義務付け等、今後の社会福祉事業の展開と21世紀モデルの社会福祉法人としての在り方が求められるようになりました。発出される政令、省令、通知等を十分に吟味しながら、法人の拡充、発展の課題と重ねて、平成29年4月1日から施行するにあたり、慎重に取り組んできました。

また、制度改革の柱に「地域包括ケアシステムの構築」が位置付けられ、「地域医療連携推進法人制度」、「地域共生社会実現（高齢者福祉・障害者福祉・保育・生活困窮者支援・その他福祉サービスの丸ごと化）」などの政策や動向は、まさに「規範的統合」の渦の中に法人を巻き込もうとしています。さらに、すでに概要が公表されている「改正障害者総合支援法（障害者総合支援法の3年後の見直し）」においても新サービスの創設が相次いでおり、その内容と事業戦略上の検討が急がれるところです。

これらの政策動向を、利用者の生活とクムレの社会福祉事業の安定的運営につながる内容として捉え、第2期中期経営計画に掲げた、切れ目のない支援体制を構築するとともに、社会の進む方向に向かって事業を展開していく為に、事業再編を含めた体制整備を実施しました。

2 平成28年度の法人全体の具体的な事業成果

①拠点の管理業務の確立

事業部門の管理単位を新会計制度に対応して、拠点区分に変更しました。管理者がマネジメント業務に対応できるよう、管理者層への権限委譲を意識して人材育成ができる体制を整えました。同時に業務の標準化を進め、マニュアル作成などの仕組みづくり、職員の意識変革に取り組みました。

②事業統括機能の確立

拠点区分ラインの管理単位に対して、制度の異なる事業ごとに制度尊守や業務品質、教育などの観点から事業を制度横断的に管理する機能を確立しました。業務に即した管理体制を実現していくため、人事制度、研修制度の見直しを図りました。

③新規開所 小ざくら小規模保育園（平成 28 年 4 月 1 日）

平成 27 年 4 月 1 日施行「子ども・子育て支援新制度」で新たに設けられた地域型保育事業のうち、小規模保育事業として小ざくら小規模保育園を整備しました。倉敷・水島・玉島地区における 3 歳未満の低年齢児を中心とした入所未決定児の解消に取り組みました。

④新規開所 ひろば 栗の家（平成 28 年 4 月 1 日）

就労支援事業の就労の場とともに、地域住民が主体となって交流し合える場としての機能を充実させてきました。クムレ職員のみならず、地域の方々、行政関係者等様々な方々が集い、信頼関係による相互扶助の場となるよう継続的な取組を行ってきました。

⑤新規事業 放課後等デイサービス なないろ（平成 29 年 1 月）

重度障がい者や発達障がい者が住み慣れた地域で安心して一貫した切れ目のない支援を受けるため、多機能型事業所の整備に取り組んできました。以前であれば大きな生活環境変化を伴っていた事業所間の移動が、多機能型事業所になることで生活環境が安定します。既存事業を再編し、新たな機能を付加することで、切れ目のない支援体制の具現化を実施しました。

3 最後に

平成 30 年度診療報酬・介護報酬ダブル改定は「2025 年モデル」の実現に向けて大きな節目となります。これらの動向は社会保障、社会福祉施策の動向、関連予算編成に直接、間接に影響し、その動きが顕著になっているように映ります。この動きに対して、平成 29 年度は制度対応の準備期間として、慎重かつ確実に進めていきます。

職員一人ひとりが、理念実現のために価値観を共有し、事業計画を推進していく体制を整えましたので、地域社会の要請に応え、「切れ目のない利用者支援体制の実現」を目指してまいります。ご理解とご支援をお願いいたします。

職員の状況

単位：人

	H29.3.31	H28.3.31	増減	H27.3.31	H26.3.31	H25.3.31
正規	214	201	13	196	205	193
A	21	24	-3	27	23	25
B	125	125	0	141	150	160
派遣	17	11	6	10		
合計	377	361	16	374	378	378
平均年齢	33.8歳	32.8歳	1.0	32.0歳	31歳	36歳
平均勤続年数	5.5年	5.1年	0.4	4.7年	4.2年	

※平均年齢、平均勤続年数の対象者は正規職員のみとする。

設備投資

事業所	内容	金額
児童発達支援センタークムレ	車両購入	1,443千円
なないろ	車両購入	2,332千円
小ざくら保育園	厨房空調設備工事	1,500千円
保育園3園	保育業務支援ソフト	2,984千円
あしたば	省エネ型ガス給湯器	1,382千円
あしたば	門扉・外柵工事	2,453千円
あしたば	屋外照明工事	1,604千円
クラシス	車両購入	1,369千円

※1,000千円以上の案件に限る

設備投資 事業未使用分

事業所	内容	金額
コトノハ	ログハウス	1,284千円
共同生活	GH用中古物件	24,690千円
児童発達支援センタークムレ	駐車場用土地	28,293千円
小ざくら保育園	園庭・駐車場用土地	57,584千円

※1,000千円以上の案件に限る

資金調達

平成28年度に新たな借入はありませんでした。

新規事業

(1) ひろば栗の家

平成28年4月1日開設

住所：〒701-0113 岡山県倉敷市 栗坂 11-1

TEL 086-441-5601

敷地面積：650.76 m²

建築面積：317.16 m²

構造：木造瓦葺き2階建て

(2) 小ざくら小規模保育園

所在地：岡山県倉敷市水島青葉町1-18

事業の種類：小規模保育事業（A型）

指定年月日：平成28年4月1日

建物：賃貸借

(3) 放課後等デイサービス なないろ

所在地：倉敷市中庄 11-1 エステート大森ビル2F

サービス種類：放課後等デイサービス

事業所番号：3350200592

指定年月日：平成29年1月1日

人財育成

①リクルート活動

内容	開催日
新卒者向け法人説明会	平成28年6月11日(土)
新卒者採用試験(夏期)第1回	平成28年7月10日(日)
内定者懇親会	平成28年10月8日(土)
新卒者採用試験(秋期)第2回	平成28年10月16日(日)
新卒者採用試験(秋期)第3回	平成28年11月13日(日)

内定式	平成 29 年 1 月 7 日（土）
新採用職員宿泊研修	平成 29 年 2 月 15 日（水） ～2 月 18 日（土）

② 法人内研修

・階層別研修

マネジャー、サブマネ・チーフ、リーダー・キャップ、一般、新卒者
職員のキャリアに応じ、必要な知識を身につけるため、それぞれ年2回
実施している。

・専門研修

子育て、発達、自立（障がい分野・高齢分野）各事業で、業務を遂行する上で、必要な知識等の研修を実施している。

・各事業所内研修

専門研修との相互補完を目的とし、各事業所で計画した事業所単位の特性
に応じた研修を実施している。

③ 実践研究発表会

目的：日常業務の中の問題や課題を整理し、問題解決を行う自己研鑽
及び発表の場とする。

日程：平成 29 年 2 月 12 日（日）10：00～16：20

会場：水島愛あいサロン

参加対象者：全正規職員

発表：36 題（平成 27 年度 35 題）

子育て支援事業グループ 12 題

発達支援事業グループ 10 題

自立支援事業グループ 13 題

事務局 1 題

④ 5 法人合同研修会

目的：約半年に 1 回クムレを含む、友好 5 法人が、それぞれ行ってい
る先駆的な取り組みについて発表し、自己研鑽及び双発の場とする。

i. 日程：平成 28 年 6 月 16 日～6 月 17 日

主催：成光苑（大阪府）

ii. 日程：平成 28 年 11 月 1 日～11 月 2 日

主催：大阪自彊館（大阪府）

理事会・評議員会の開催状況

回数	開催日・場所	内容
第1回 理事会 評議委員会	平成28年5月28日 倉敷学園 2階会議室	第1号議案 平成27年度事業報告の件 第2号議案 平成27年度決算の件 第3号議案 評議員選任の件
第2回 理事会 評議委員会	平成28年8月27日 倉敷学園 2階会議室	第1号議案 平成28年度第一次補正予算の件 (上期賞与支給について) 第2号議案 進入路拡幅工事及び 倉敷学園 公用車駐車場 取得事業の件 第3号議案 グループホーム・児童発達支援事業 (重症心身障がい児) 用不動産取得及び新規事業の件 第4号議案 自立支援事業グループの事業再編案の件 第5号議案 夜間保育園移転新築及び 小規模保育園・多機能型事業所新設の件 第6号議案 国有地取得及び職員駐車場整備の件 第7号議案 諸規程の改廃の件
第3回 理事会 評議委員会	平成28年12月3日 倉敷学園 2階会議室	第1号議案 倉敷市社会福祉施設等整備計画 (平成29年度保育所等整備分) 応募の件 第2号議案 定款変更の件 第3号議案 評議員選任・解任委員会設置の件 第4号議案 評議員候補者の件
第4回 理事会 評議委員会	平成29年1月28日 倉敷学園 2階会議室	第1号議案 平成28年度第二次補正予算の件 (下期賞与・保育処遇改善等加算給付について) 第2号議案 新規事業の件 (倉敷学園・児童発達支援センタークムレ・きらり中庄) 第3号議案 諸規程改廃の件 第4号議案 定款変更の件
第5回 理事会	平成29年2月15日 倉敷学園 2階会議室	第1号議案 あしたば防犯対策倉敷市社会福祉施設 整備計画(平成28年度整備分)の件
第6回 理事会 評議委員会	平成29年2月24日 倉敷学園 2階会議室	第1号議案 あしたば防犯対策倉敷市社会福祉施設整備 計画(平成28年度整備分)入札結果 の件 第2号議案 国有地取得及び園庭・公用車・利用者駐車場 整備の件 第3号議案 グループホーム用不動産取得の件

第7回 理事会 評議委員会	平成29年3月25日 倉敷学園 2階会議室	第1号議案 平成28年度 第三次補正予算（案）の件 第2号議案 平成29年度 法人事業計画（案）の件 第3号議案 平成29年度 法人予算（案）の件 第4号議案 平成29年度 新組織の件 （施設長任免について） 第5号議案 小ざくら保育園電気設備更新の件 第6号議案 役員改選の件 第7号議案 諸規程改廃の件 第8号議案 定款変更の件
---------------------	--------------------------	--

法人行事

- (1) 辞令交付式 平成29年4月1日（土）
- (2) 新年互礼会 平成29年1月4日（水）

現況に関する重要事項

- (1) 地域公益活動について

子育て支援事業グループ

- 地域における子育て支援活動の実施（水島地区わんぱく広場への参加・育メン広場の開催）
- 地域行事（祭り）へ参加（和太鼓・夢k o i・警備ボランティア）
- 子育て支援イベント「みずしまキッズ」を開催
- エコキャップ収集
- 清掃活動（事業所周辺、公園）
- 出張相談（児島児童館、水島児童館への出張相談）
- すきっぷ教室への職員派遣

発達支援事業グループ

- 倉敷市障がい福祉課との連携によるすきっぷ教室への職員派遣

- 1.6 健診要観察児フォロー教室への職員派遣
- 清掃活動（事業所周辺、公園）
- ボランティア受け入れ
- 実習生の受け入れ

自立支援事業グループ

- 清掃活動（町内、事業所周辺、公園）
- 地域行事（祭り）へ参加
- ボランティア受け入れ
- 地域住民へ啓発活動（フォーラム・座談会開催・講演会実施）
- クラコト フェスティバル開催
- 無料血圧測定
- 安全パトロールへの参加

余裕資金使途について

今後、主な使途は次の通り予定しております。

施設整備関連

事業名	時期	概算費用	その他
小ざくら保育園	未定	50,000 千円	
あしたば改修工事	未定	200,000 千円	平成 5 年竣工 築 22 年経過
児童発達支援センタークムレ、児童家庭支援センタークムレ改修	未定	400,000 千円	築 41 年経過
グループホーム増設	未定	40,000 千円	あしたば改修に 伴う受け入れ先 確保
きらり倉敷、玉島移転	未定	10,000 千円	

地域公益活動関連

- ※無料又は低額料金でのサービス
- ※生活困窮者支援
- ※第三者評価継続受審
- ※人財育成勉強会開催（社内・社外向け）
- ※地域の耕作放棄地田活用（地域の高齢者に代わり障がい者支援をかねて実施）
- ※地域住民・利用者・保護者の憩いの場を提供（ひろばにじいろ・栗の家）

子育て支援事業グループ

平成 28 年度事業報告

幼保連携型認定こども園小ざくら保育園

■事業実施概要■

乳児期から就学までの一貫した教育保育に取り組むために、乳児との連携や子どもの環境変化に対応しやすくなる工夫を行った。後半には安田式遊具の導入を行い、運動遊びの環境を充実した。地域のお年寄りとの交流も行い、しめ縄づくりや、伝統遊びなどを通じて交流することができた。きらり等の支援機関との事例検討や支援の勉強をお通じて保護者への情報提供が進んだ。

重点方針■

重点方針		子どもの主体性を育み支える子育て支援			
利用者支援目標	小ざくらの特色ある保育の実践	具体策	○子どもが主体的に活動できる遊びと学びの環境づくり ○職員の心構えの実践	実施内容	・デイリーの見直し(4月 ・サーキット遊びの環境づくり ・職員会議にて確認
	気になる子の支援		○支援チームの形成		・ケース会議の実施
	職員の役割に応じた知識と技術の向上		○階層別研修への参加 ○専門研修の実施		・年間計画に基づき実施。
	ニーズに応じた食事提供		○食事提供の改善活動		給食会議にて協議した。
重点方針		子育て力を高めるための保護者・家族との協働			
家族支援目標	家族とのコミュニケーション	具体策	○保護者会等との共同開催行事の実施	実施内容	・バットマナー活動 ・秋祭りの開催
	保護者への情報提供		3者懇談の実施		きらりと実施した
	気になる親子支援		○面接・ケース会議		アドバイザリーを活用
重点方針		地域とともに育む子育ての環境づくり			
地域支援目標	地域における子育て支援活動の充実	具体策	○育メンひろばの開催	実施内容	子育てグループ全体で開催
	三世代交流を通じた包括的な地域支援づくり		○伝承行事、子育て講座への参加		・年間計画に基づく

■中期経営計画に対する事業所単独の取組み■

目標	具体策	実施内容
職員間コミュニケーションの推進	夢k o i 和太鼓活動	港まつりへの参加を通じて親睦を深めた。

■第三者評価に対する取組み■

取組み内容	実施内容
マニュアルの改訂	運動遊び時の支援等を整備した。

■地域公益事業活動■

活動内容	実施内容
水島港まつりへの参加	・夢kōi、和太鼓、警備等
エコキャップの収集	・継続的に収集
チャレンジワーク、ボランティアの受け入れ	・チャレンジワーク3校 ・夏ボランティア等6名

■行事報告■

行事名	実施月	実施内容
入園式	4月	入園式 参加19名
花まつり	5月	花御堂を飾りお参りする
七夕会	7月	由来を聞いたり催しを楽しんだりする
お月見会	9月	由来を聞いたり催しを楽しんだりする
運動会	10月	児童館にて実施
発表会	12月	3歳～5歳児対象ホールにて
クリスマス会	12月	由来を聞いたり催しを楽しんだりする
もちつき	1月	もちつきの実施
音楽会	1月	3歳～5歳児対象芸文館にて
節分会	2月	由来を聞いたり催しを楽しんだりする
ひな祭り会	3月	由来を聞いたり催しを楽しんだりする
参観日	5月9月（全） 2月（2歳）	親子で遊んでもらったり、日頃の園の様子をみてもらったりする
卒園旅行	10月	姫路市立水族館
卒園記念行事	年1回	5歳児 美観地区散策
卒園式	3月	卒園児 66名

■利用者状況■

I 利用者動向 定員:1号 15名、2・3号 240名			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	差異	累計月	差異
1号	3歳児分	実績	8	9	9	9	9	9	8	9	10	10	10	10	10	-	110	-
		計画	7	7	7	7	9	9	8	8	8	8	8	8	8	2	94	16
		昨年度実績	5	3	2	2	2	4	3	3	4	5	6	8	8	2	47	63
	上4歳児分以	実績	6	8	8	8	8	9	9	9	8	8	7	7	7	-	95	-
		計画	6	6	6	6	8	8	8	8	7	7	7	7	7	0	84	11
		昨年度実績	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	7	2	93
2・3号	1・2歳児分	実績	52	52	51	51	52	51	52	52	51	52	50	50	50	-	617	-
		計画	54	54	54	54	51	51	51	51	51	51	51	51	51	-1	624	-7
		昨年度実績	49	49	49	51	53	53	52	51	50	51	49	49	49	1	607	10
	短時間	実績	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	0	-
		計画	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	-1	12	-12
		昨年度実績	17	17	18	17	15	12	13	13	14	13	14	15	15	-15	178	-178
	3歳児分	実績	62	62	62	61	61	62	62	60	60	59	59	59	59	-	729	-
		計画	64	64	64	64	61	61	61	61	61	61	61	61	61	-2	744	-15
		昨年度実績	52	55	56	56	57	56	57	56	55	55	54	54	54	5	663	66
	短時間	実績	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	0	-
		計画	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	-4
		昨年度実績	9	8	8	8	7	7	7	7	8	8	8	7	7	-7	92	-92
	4歳以上児分	実績	112	111	110	109	109	109	109	109	107	108	108	108	108	-	1,310	-
		計画	113	113	113	113	111	111	111	111	111	111	111	111	111	-3	1,340	-30
		昨年度実績	87	87	87	87	92	96	95	95	95	94	94	94	94	14	1,103	207
	実績合計	実績	4	4	5	7	7	7	7	7	9	10	10	10	10	-	84	-
		計画	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	36	48
		昨年度実績	28	28	26	26	20	17	18	18	19	19	19	19	19	-9	256	-172
稼働率	当年度	244	246	245	245	246	247	246	246	246	244	246	244	244	-	2,945	-	
	昨年度	248	247	246	247	247	245	245	243	244	245	245	246	246	-2	2,948	-3	
	稼働率	当年度	95.7%	96.5%	96.1%	96.1%	96.5%	96.9%	96.5%	96.5%	95.7%	96.5%	95.7%	95.7%	-	96.2%	-	
	昨年度	97.3%	96.9%	96.5%	96.9%	96.9%	96.1%	96.1%	95.3%	95.7%	96.1%	96.1%	96.5%	96.5%	-0.8%	96.3%	-0.1%	
II 月間開所日			単位:日															
項目/月			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	差異	累計月	差異
実績			26	23	26	26	26	26	24	23	22	23	24	26	26	-	245	-
昨年度実績			25	23	26	26	26	26	23	23	22	23	24	26	26	0	243	2

●利用者支援目標

<2歳児(星組)>

- 子どもの意欲を大切にし、少しづつ自分でできることを増やしていくようにする。
- 進級時の受け入れに配慮し、円滑に園生活になじめた
- リズム遊び等で1歳児との交流を行った。

<3~5歳児(花・月・雪組)>

- サーキット遊びの中でしっかり体を動かしながら様々な経験を積むことができた。
- 気になる子の支援をきらりや保育アドバイザーと連携し支援計画に基づき実施

■保護者・家族との交流■

○保護者会との協同（行事等での関わり）

○試食会の開催（年2回）

○保育の説明会の開催

■事業所研修■

研修項目	実施月	実施内容
・日案、月週案 プラン書について ・報、連、相について	4～9月	新任職員のOJTおよび、職員会議にて確認する
・当番業務、保護者対応 電話対応について 連絡帳について	4～5月	新任職員のOJTにて実施
・KYT（危険予知） ・緊急時の対応について	3月	不審者対応訓練の際に実施

■ワークライフバランスに対する取組み■

- ・週2回の定時退社の実施 業務や行事の際に課題があり次年度へ持越し
- ・有休休暇取得の今年の付与分の半分を計画消化する。概ね実施

■防災・安全・衛生活動■

- 防災 • 避難訓練の実施（月1回）
 - 消火器模擬訓練（月1回）、避難誘導訓練（2次避難訓練含む）（10月、3月）実施
- 安全 • 事業所内外の安全点検（毎月実施）
 - 不審者対応訓練（3月に実施）
 - 園児への交通安全指導（10月、3月実施）
- 衛生 • 環境衛生（害虫駆除、樹木の消毒）の実施（4月5月 樹木）（6月、9月 害虫）
 - 事業所内の消毒、玩具消毒の実施の徹底
 - 感染予防に努め、流行する疾患などの情報提供

■その他特記事項■

岡山県産材の活用の補助金と保護者会からの補助で園庭の木製ベンチを購入
 電話交換機及び電話機の更新の実施
 安田式遊具の導入（鉄棒 平均台 雲梯）

平成 28 年度事業報告

小さくら乳児保育園

■事業実施概要■

28年度は、子育て支援事業グループ内のチームとしての取り組みが強化され、0歳児から就学前までの切れ目のない支援について生活面や遊びの環境を見直すことができた。保護者との関わりについては、新入園児を対象としてウエルカム保育に取り組み親子の愛着形成の第一歩とした。又、地域支援については伝承行事を中心に地域の親子に参加してもらったり、地域の高齢者（楽寿会）と交流をしたりと職員が地域と関わる機会が増えてきている。

■重点方針■

重点方針		子どもの主体性を育み支える子育て支援		
利用者支援目標	具体策			実施内容
小さくらの特色ある保育の実践		<ul style="list-style-type: none"> ○子どもが主体的に活動できる遊びと学びの環境づくり <ul style="list-style-type: none"> ・意味ある運動遊び ○職員の心構えの実践 ○公開保育の実施 		<ul style="list-style-type: none"> ○一日のデイリーを見直し、朝夕の運動遊びや週1回のリズム遊びを年間を通して実施した。その中で、異年齢児との交流ができ子ども同士が互いに刺激し合い心身共に成長することができた。 ○まずは、職員自身が子どもの良い手本となることについての意味を理解していくために機会を捉えて繰り返し伝えていった。 ○年間計画に沿って実施できた。チェック項目を作り互いの良い所、課題について反省会を実施した。
気になる子の支援		○支援チームの形成		<ul style="list-style-type: none"> ○保育園・乳児で担当者を決め支援チームを作った。発達Gとのチームプレーで毎月情報共有しな

				がら集団の中での支援について検討・実施を行った。
	ニーズに応じた食事提供		○食事提供の改善活動	○アレルギー児の食事対応について保護者を含めた試食会（食事・おやつ）を行った。 アレルギー児の食事提供の手順や書面の見直しを委託業者（日清医療食品）を含めて取り組んだ。
	職員の役割に応じた知識と技術の向上		○法人階層別研修への参加 ○専門研修の実施	○階層別研修、専門研修ともに年間計画に基づいて、必要な研修に参加した。研修で知識や技術は少しずつ習得できてきている。実際の保育に生かしていくことが課題である。
重点方針		子育て力を高めるための保護者・家族との協働		
家族支援目標	家族とのコミュニケーション	具体策	○保護者会等との共同開催行事の実施	○協同開催として秋祭りを行った。参観日との同時開催で準備等慌ただしかったが、協力体制をとりながら進めることができた。又、地域のボランティアさん等の協力があり交流をもつことができた。
	愛着関係の形成		○親子で慣らし保育「ウエルカム保育」	○年間を通して新入園の親子を対象に実施した。約一週間の中で、少しずつ保育園の生活に慣れることができるよう状態に合わせて進めた。

重点方針		地域とともに育む子育ての環境づくり		
地域支援目標	地域における子育て支援活動の充実	具体策	○育メンひろばの開催 ○水島地区「子育てカフェ」の開催	実施内容
	三世代交流を通じた包括的な地域支援づくり		○伝承行事、子育て講座への参加	
	親子の隙間を埋める「にじいろ」機能の充実		○なないろ教室への参加	

■中期経営計画に対する事業所単独の取組み■

目標	具体策	実施内容
職員間コミュニケーションの推進	・夢kōiサークルの実施	・水島みなと祭りに参加 (和太鼓、夢kōi、交通警備、奉仕作業)

■第三者評価に対する取組み■

取組み内容	実施内容
「プライバシー保護」について①育児援助マニュアルにはいっていない ①保護者と話をする際の配慮も含む (場所の配慮など)	①マニュアルの見直しを行い、「プライバシー保護」に関する記述を入れた。 職務遂行要領書の「業務：保育 保護者とのコミュニケーション」の内容を確認し合い、意識できるようにした。 →保護者と話をする場合には、場所の配慮を行い安心して話せるようにしている。

②研修の実施	②専門研修で、継続的に実施していく計画がある。→平成28年度実施
安全管理 災害時のみでなく、災害後の事業継続のための計画の検討	・法人内の委員会で検討予定 →平成29年度事業計画へ

■地域公益事業活動■

活動内容	実施内容
水島港まつりへの参加 ・夢k o i、和太鼓、警備、清掃	・7月30、31日
エコキヤップの収集	・通年 保護者、職員が協力し実施
チャレンジワーク、ボランティアの受け入れ	・夏休み等に中、高、大生の受け入れを実施

■行事報告■

行事名	実施予定月	実施内容
入園式	4月	27年度途中入園児及び28年度新入園児（　名）の参加
花祭り	5月	花御堂を飾りお参りした。
七夕会	7月	由来を聞いたり催しを楽しんだりした。
お月見会	9月	由来を聞いたり催しを楽しんだりした。
運動会	10月	親子で参加。
クリスマス会	12月	クリスマスに関するお話や催しを楽しんだりした。歓寿会の方催しに参加。
もちつき	1月	もちつきの様子を見たり地域の方と触れ合ったりする。
個人懇談	1～2月	園と家庭との情報交換の場とした。
節分会	2月	由来を聞いたり催しを楽しんだりした。
ひな祭り会	3月	由来を聞いたり催しを楽しんだりした。
参観日	5、7、9、2月	親子で遊んでもらいながら、園での様子を見てもらう。 園の方針や取り組みについて説明会を実施。

誕生日会	随時	一人ひとりの誕生日の日にクラスでお祝いする。
------	----	------------------------

■利用者状況■

I 利用者動向 定員:90名		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	差異	累計月	差異
乳児分	実績	19	24	28	29	31	31	35	37	38	37	40	42	42	-	391	-
	計画	20	22	24	27	31	34	37	39	41	43	44	44	44	-2	406	-15
	昨年度実績	15	17	22	22	25	34	33	34	35	38	38	38	38	4	351	40
短時間	実績	7	5	3	3	2	2	1	1	1	2	2	1	1	-	30	-
	計画	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	12	18
	昨年度実績	13	12	12	12	9	7	8	7	7	7	7	8	8	-7	109	-79
1・2歳児分	実績	60	60	62	62	62	60	59	60	55	55	55	55	55	-	712	-
	計画	62	62	62	60	60	60	60	60	60	60	60	60	60	-5	726	-14
	昨年度実績	46	45	45	46	48	49	49	49	49	48	48	48	48	7	570	142
短時間	実績	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	4	-
	計画	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
	昨年度実績	10	11	14	14	13	11	11	11	11	12	11	11	11	-11	140	-136
実績合計	当年度	88	91	93	94	95	95	96	97	99	94	97	98	98	-	1,137	-
	昨年度	84	85	93	94	95	101	101	101	102	105	104	105	105	-7	1,170	-33
稼働率	当年度	97.8%	101.1%	103.3%	104.4%	105.6%	105.6%	106.7%	107.8%	110.0%	104.4%	107.8%	108.9%	108.9%	-	105.3%	-
	昨年度	93.3%	94.4%	103.3%	104.4%	105.6%	112.2%	112.2%	113.3%	116.7%	115.6%	116.7%	116.7%	116.7%	-7.8%	108.3%	-3.1%
II 月間開所日		単位:日															
項目/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	差異	累計月	差異	
実績	25	23	26	25	26	24	26	24	23	23	23	26	26	-	294	-	
昨年度実績	25	23	26	26	26	23	27	23	23	23	24	26	26	0	295	-1	

●利用者支援目標

＜小さく乳児保育園＞

- ・ゆるやかな育児担当制をとることで、一人ひとりとゆっくり丁寧に関わり、子どもの意欲を大切にし、少しづつ自分でできることを増やしていくようにする。
- ・一人ひとりの生活リズムに配慮しながら、安定して過ごせるようにする。

今年度は、基本的生活習慣の自立、ウエルカム保育、愛着形成、運動遊びを中心に行なった。優しく丁寧な関わりを重ねていきながら、できしたこと・褒められることの喜びを経験し、意欲に繋がる姿が遊びや生活の様々な場面でみられたことは良かった。又、毎日の積み重ねにより心身共にたくましく成長した姿がみられ、保護者と共に成長を共感できた。

■保護者・家族との交流■

- 保護者会と一緒に、交通安全バドマナー追放運動、秋祭りを行った。
- 参観日、個人懇談、子育てサロン（絵本、わらべうた、手作りおもちゃ等）を行った。

■事業所研修■

研修項目	実施月	実施内容
・育児マニュアル、要領書、OJT、日案、月週案、プラン書について ・報告・連絡・相談について	4月	・基礎的な業務を身につけることができるよう に、マニュアル・要領書について説明をする。 実際の業務に生かせるようにOJTを通して 進めた。 ・まずは相談・連絡・報告をすること伝えて いる。
・当番業務、保護者対応 電話対応、連絡帳について	4、5月	・基礎的な業務を身につけることができるよう に、OJTやシミュレーションしながら進めた。
・わらべうたについて	年4回	・季節ごとのわらべうた研修をテキストを用い て実施した。
・リスクマネジメント (KYT) について	8月	・保育室のイラストを見て、どこに危険が潜んで いるかを出し合い、改善策を考えた。

■ワークライフバランスに対する取組み■

○週2回（月・水曜日）の定時退社の推進

- 日々の業務改善を行いながら職員同士協力し声を掛けながら進めてきたが、 行事前や年度の初め、年度の終わりは難しい状況があった。さらに改善を しながら進めていく。

○有給休暇取得の推進

- 各自の付与日数の半分消化を目標にし、年間でスケジュール化し取り組んだ。

■防災・安全・衛生活動■

○防災・避難訓練の実施（毎月1回）

- 消火器模擬訓練、避難誘導訓練（2次避難含む）の実施

○安全・事業所内外の安全点検

- 不審者対応訓練
- 送迎時の交通マナーの啓蒙

○衛生・環境衛生（害虫駆除、樹木の消毒）の実施

- 事業所内の消毒、玩具消毒の実施
- 感染予防に努め、流行する疾患などの情報提供

■その他特記事項■

- 特になし

平成 28 年度事業報告

小ざくら夜間保育園

■事業実施概要■

28年度は、子育て支援事業グループや水島にある発達支援事業グループとのチームでの取り組みにより、利用者（園児、保護者）への支援や働きかけ、また、必要に応じて地域の関係機関と連絡をとり合い、気になる子どもや家族（保護者）への見守りや支援を行っていくことができた。地域の方々を園に招く機会を定期的に設け、招待状を園児と一緒に届けたりすることで、職員も地域の方々と関わる機会がもてた。

■重点方針■

重点方針		子どもの主体性を育み支える子育て支援		
利用者支援目標	小ざくらの特色ある保育の実践	具体策	実施内容	○子どもが主体的に活動できる遊びと学びの環境づくり ・意味ある運動遊び ○職員の心構えの実践 ○公開保育の実施
	気になる子どもの支援			○支援チームの形成
	職員の役割に応じた知識と技術の向上			○法人階層別研修への参加 ○専門研修の実施
				○定期的に話し合いの機会をもち、ねらいを意識して遊びや環境を整え保育ができるようにした。 ○職員自身が意識して実施することを大切にし、月に一度、職員会議で振り返り、チームで取り組む意識がもてるようにした。 ○年間の計画に沿って実施できた。他園の良い点を学び、他園の職員からの声をきくことにより、自園の保育を振り返ることができた。
				○発達支援事業グループの職員とコミュニケーションをとりながら保護者へのアプローチを行うことができた。 ○年間計画に沿って各職員参加した。研修で学んだことを保育に活

				かせるように働きかけた。	
	重点方針	子育て力を高めるための保護者との協働			
家族支援目標	家族とのコミュニケーション	具体策	○保護者会等との共同開催行事の実施	実施内容	○バットマナー活動 ○秋祭りの開催
	愛着関係の形成		○親子での保育体験		○年間を通して新入園の0・1歳児の親子を対象に実施した。
	気になる親子支援		○懇談・ケース会議		○個別懇談やケース会議（園内の対応検討）や情報の共有などを随時行っていた。
	重点方針	地域とともに育む子育ての環境づくり			
地域支援目標	地域における子育て支援活動の充実	具体策	○育メンひろばの開催	実施内容	○子育て支援事業グループ全体で協力し、実施できた。
	三世代交流を通じた包括的な地域支援づくり		○伝承行事、子育て講座への参加		○伝承行事と一緒に楽しむことができ、園児や職員と地域の方々との交流がもてた。

■中期経営計画に対する事業所単独の取組み■

目標	具体策	実施内容
職員間コミュニケーションの推進	・夢koiサークルの実施	・水島港まつりに参加

■第三者評価に対する取組み■

取組み内容	実施内容
マニュアルの整備 •「プライバシー保護」について ①育児援助マニュアルにはいっていない、保護者と話をする際の配慮も含む（場所の配慮など）	①マニュアルの見直しを行い、「プライバシー保護」に関する記述を入れた。職務遂行要領書の「業務：保育 保護者とのコミュニケーション」

②研修の実施	ン」の内容を確認し合い、意識できるようにした。 →保護者と話をする場合には、場所の配慮をしている。 ②子育て支援事業グループでの専門研修の中で「権利擁護」「虐待防止」「プライバシー保護」などに関する研修を実施した。
安全管理 災害時のみでなく、災害後の事業継続のための計画の検討	・法人内の委員会で検討予定 →平成29年度事業計画へ

■地域公益事業活動■

活動内容	実施内容
水島港まつりへの参加 ・夢k o i、和太鼓、警備、清掃など	・7月30、31日
エコキャップの収集	・通年 保護者、職員が協力して実施

■行事報告■

行事名	実施予定月	実施内容
入園式	4月	27年度途中入園児及び28年度新入園児、6名が参加。
花まつり	5月	花御堂を飾りお参りした。
七夕会	7月	地域の方を招き、由来を聞いたり催しを楽しんだりした。
お月見会	9月	地域の方を招き、由来を聞いたり催しを楽しんだりした。
運動会	10月	親子で参加。
クリスマス会	12月	地域の方を招き、由来を聞いたり催しを楽しんだりした。
もちつき	1月	もちつきの様子を見たり地域の方と触れ合ったりした。
懇談会	5、1月	園と家庭との情報交換を行った。
節分会	2月	由来を聞いたり催しを楽しんだりした。
ひな祭り会	3月	由来を聞いたり催しを楽しんだりした。
参観日	5、9、1月	園の方針や取り組みについて説明した。 親子で遊んでもらったり、日頃の子どもの園での様子をみてもらったりした。
誕生会	毎月	誕生児のお祝いをした。

親子遠足	5・10月	近隣の公園、児童施設などへ出かけて親子で一緒に遊ぶ中で、保護者と職員、保護者同士の交流がもてるようにした。
親子キャンプ	7月	自然の中で遊んだり食事を作つて食べたりする中で、保護者と職員、保護者同士（卒園児保護者含む）の交流がもてるようにした。

■利用者状況■

I 利用者動向 定員:30名																	
項目/月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	差異	累計月	差異
乳児分 標準	実績	1	1	1	1	1	1	1	3	5	5	5	7	7	-	32	-
	計画	1	1	1	2	1	1	1	2	2	2	3	3	3	4	20	12
	昨年度実績	1	1	1	1	1	1	3	4	4	5	5	5	5	2	32	0
短時間	実績													0	-	0	-
	計画													0	0	0	0
	昨年度実績													0	0	0	0
1歳児分 標準	実績	7	6	6	6	8	7	7	7	7	7	6	7	7	-	81	-
	計画	8	8	9	9	8	8	9	9	10	10	11	11	11	-4	110	-29
	昨年度実績	13	13	13	13	13	13	14	14	14	14	14	14	14	-7	162	-81
短時間	実績													0	-	0	-
	計画													0	0	0	0
	昨年度実績													0	0	0	0
3歳児分 標準	実績	7	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	-	73	-
	計画	7	7	7	7	6	6	7	7	7	7	7	7	7	-1	82	-9
	昨年度実績	6	6	6	6	6	6	6	5	5	5	5	5	5	1	67	6
短時間	実績													0	-	0	-
	計画													0	0	0	0
	昨年度実績													0	0	0	0
4歳以上児分 標準	実績	11	11	11	11	11	10	10	10	10	10	10	10	10	-	125	-
	計画	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	-1	132	-7
	昨年度実績	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	-1	132	-7
短時間	実績													0	-	0	-
	計画													0	0	0	0
	昨年度実績													0	0	0	0
実績	当年度	26	24	24	24	26	24	24	26	28	28	27	30	30	-	311	-
	昨年度	31	31	31	31	31	31	34	34	34	35	35	35			393	-82
	移動率	当年度	86.7%	80.0%	80.0%	80.0%	86.7%	80.0%	80.0%	86.7%	93.3%	93.3%	90.0%	100.0%	-	86.4%	-
	昨年度	103.3%	103.3%	103.3%	103.3%	103.3%	103.3%	113.3%	113.3%	113.3%	116.7%	116.7%	116.7%	116.7%	-16.7%	109.2%	-22.8%
II 月間開所日															単位:日		
項目/月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	差異	累計月	差異
実績		25	23	26	25	26	24	26	24	23	23	23	26	26	-	268	-
昨年度実績		25	23	26	26	26	23	27	23	23	23	24	26	26	0	269	-1

●利用者支援目標

<小さくら夜間保育園>

<0・1歳児(ひよこ組)>

- ・ゆるやかな育児担当制をとることで、一人ひとりと深く、ゆっくりと丁寧にかかりわり、子どもの意欲を大切にし、少しづつ自分でできることを増やしていけるようにする。
- ・一人ひとりの生活リズムに配慮しながら安定して過ごせるようにする。

一人ひとりの子どもの生活リズムに配慮しながら、ゆっくりと丁寧にかかわることができた。また、外あそびの機会を多くもつことを意識した保育を行なった。

<2～5歳児（パンダ組）>

- ・子どもたちが安心して過ごせることを基本に、年齢の異なる友だちと生活や遊びをともにすることで、豊かな人間関係を築き、“人とかかわる力”を育む。

異年齢の子ども同士のかかわりを大切にしながら、環境については、年齢ごとの発達を意識して保育環境の整備を行なっていった。また、社会体験の機会を積極的に取り入れ、地域の公共機関の利用や買い物体験、公共の乗り物に乗るなどの機会を意識して取り入れていくようにした。

■保護者・家族との交流■

○保護者会と一緒に、交通安全バドマナー追放運動、秋祭りを行った。

○参観日や懇談会、親子遠足や親子キャンプ、親子クッキングや試食会などを行った。

■事業所研修■

研修項目	実施月	実施内容
・育児マニュアル、要領書、OJTについて ・日案、月週案 プラン書について ・報、連、相について	4月	<ul style="list-style-type: none"> ・業務の基礎を身につけて適切な援助ができるよう説明を行い、その後、定期的に確認をしていった。 ・大切さについて伝え、意識できるように働きかけている。
・当番業務、保護者対応 電話対応について 連絡帳について	4、5月	<ul style="list-style-type: none"> ・適切に実施できるように説明を行い、その後、定期的に確認をしていった。
子どもの発達と生活、遊びの援助と環境構成 (制作などの実技含む)	年6回	<ul style="list-style-type: none"> ・年齢に応じた生活援助と遊びの提供ができるよう、話し合う機会を定期的にもち、実施状況の確認をしていった。
KYT（危険予知） 緊急時の対応について	年3回	<ul style="list-style-type: none"> ・日常の保育での気付き（危険予知）を高めるために、保育室の写真を見て、皆で話し合いを行い、改善をしていった。 ・緊急時に適切な対応ができるように、訓練を行った。

■ワークライフバランスに対する取組み■

○週2回（水・土曜日）の定時退社の推進

- ・業務のスケジュール管理や業務改善を行いながら声をかけ合って進めてきたが、年度の初めや終わりは難しいことがあった。また、各職員が時間を意識して業務に取り組むことが定着できるような働きかけも必要だと感じる。

○有給休暇取得の推進

- ・各自の付与日数の半分消化を目標にし、年間を通して取り組んだ。

■防災・安全・衛生活動■

○防災

- ・避難訓練の実施（毎月1回）
- ・消火器模擬訓練（毎月1回）、避難誘導訓練（2次避難訓練含む）の実施
- ・避難滑り台、避難車を使った訓練の実施

○安全

- ・事業所内外の安全点検
- ・不審者対応訓練
- ・園児への交通安全指導、送迎時の交通マナーの啓蒙・車両管理の注意喚起

○衛生

- ・環境衛生（害虫駆除、樹木の消毒）の実施
- ・事業所内の消毒、玩具消毒の実施の徹底
- ・感染予防に努め、流行する疾患などの情報提供

■その他特記事項■

- ・特になし

平成 28 年度事業報告

小さくら小規模保育園

■事業実施概要■

今年度開園 1 年目であり、保育者同士のチームワークや地域との関係など大切に実施してきた。乳幼児期の保育を、個々の家庭に寄り添いながら保護者が安心して子育てが出来るよう相談や支援を行ない、子ども一人ひとりの人格を尊重し個性を伸ばし自立を促すことができるように、成長発達の援助や見守りを行なった。職員自身も研修などを通じて研鑽を行なった。

■重点方針■

重点方針		子どもの主体性を育み支える子育て支援			
利用者支援目標	小さくらの特色ある保育の実践	具体策	子どもが主体的に活動できる遊びと学びの環境づくり	実施内容	・職員の心構えの実施 ・公開保育実施 ・運動遊びの充実、本園と合同でのリズム遊びへの参加
	気になる子の支援		支援チームの形成		・個人懇談の実施
	ニーズに応じた食事提供		食事提供の改善活動		・該当者なしの為未実施
	職員の役割に応じた知識と技術の向上		法人階層別研修への参加 専門研修の実施		・階層別研修及び専門研修への参加
	重点方針	子育て力を高めるための保護者との協働			
家族支援目標	家族とのコミュニケーション	具体策	保護者会との共同開催の行事の実施	実施内容	・保護者会と共同で実施（秋祭り等）
	愛着関係の形成		親子で慣らし保育		・年間延べ 19 名の家庭に慣らし保育実施
	気になる親子支援		面接・ケース会議		・個人懇談にて実施
重点方針		地域とともに育む子育ての環境づくり			
地域支援目標	地域における子育て支援活動の充実	具体策	育メンひろばの開催 水島地区「子育てカフェ」の開催	実施内容	・7月に実施
	三世代交流を通じた包括的な地域支援づくり		伝承行事、子育て講座への参加		・秋祭り、もちつきなどに参加

■中期経営計画に対する事業所単独の取組み■

目標	具体策	実施内容
職員間コミュニケーションの推進	夢k o i サークルの実施	子育てグループ職員参加7月実施

■第三者評価に対する取組み■

取組み内容	実施内容
各種マニュアルの整備	マニュアルの見直し作成 職務遂行要領書及び小さくら育児援助マニュアルの見直し

■地域公益事業活動■

活動内容	実施内容
水島港まつりへの参加 (夢k o i、和太鼓、警備、清掃など)	7月30、31日参加、和太鼓11名夢k o i 21名警備12名が参加

■行事報告■

行事名	実施予定月	実施内容
入園式	4月	対象児10名
七夕会	7月	
お月見会	9月	
秋祭り	9月	本園と合同で参加
運動会	10月	小さくら地域支援センターと合同で参加
遠足	11月	
クリスマス会	12月	地域の方を招待（都合により欠席）鶴心寮職員にサンタを依頼、会食を行なう
もちつき	1月	本園と合同で参加
節分会	2月	
ひな祭り会	3月	
参観日	9月、3月	9月12世帯22名、3月15世帯24名参加

■利用者状況■

I 利用者動向 定員:18名																	
項目/月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	差異	累計月	差異
乳児分	標準実績	0	0	1	2	2	5	5	7	7	8	8	8	8	-	53	-
	標準計画	0	0	1	1	2	2	3	3	3	3	3	3	3	5	24	29
	昨年度実績													0	8	0	-
短時間	標準実績	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	-	1	-
	標準計画	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	昨年度実績													0	0	0	-
1・2歳児分	標準実績	9	10	9	10	10	11	11	11	11	10	10	10	10	-	122	-
	標準計画	12	12	12	12	12	12	13	13	13	13	13	13	13	-3	150	-28
	昨年度実績													0	10	0	-
短時間	標準実績	1	1	2	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	-	6	-
	標準計画	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
	昨年度実績													0	0	0	-
II 月間開所日															単位:日		
項目/月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	差異	累計月	差異
実績		25	23	26	25	26	24	26	24	23	23	23	26	26	-	294	-
昨年度実績														0	-	0	-

●利用者支援目標

ゆるやかな育児担当制の基、一人ひとりとゆっくりと丁寧に関わり、子どもの意欲や個性も認めながら少しづつ自分でできることを増やしていくように保育した。

保護者と相談や対話を多く持つことで、保護者の不安や悩みを少しづつ解消しながら子育てが出来るようになってきた。子どもも保護者も丁寧に関わり寄り添うことで信頼関係が築かれ安心につながり、子どもの成長発達が促されると感じている。

そういった役割を保育士が担う事が出来るように、専門的な知識や技術などを身につけていくように研修や自己研鑽に努める。

また、地域との連携にも努め、地域に開かれた施設となれるよう努める。

■保護者・家族との交流■

○親子で慣らし保育・・・年間19名が入園した。全家庭に対して母子慣らしを行ない、家庭の子育てへの思いや方法等をうかがいながらそれに寄り添うようにした。また、保育園での様子を口頭で伝え、母子ともに安心して園生活に慣れる事が出来るようにした。

■事業所研修■

研修項目	実施月	実施内容
育児マニュアル、要領書、〇JTについて、保育計画について	4月	全職員対象に説明実施する 〇JTについては、法人研修のクムパートナー研修にクムパートナーが参加した。

保護者対応、電話対応、連絡帳について	4月	全職員対象に説明実施する
KYT、緊急時の対応について	毎月	毎月の職員会議にて、リスク報告及び周知をする。

■ワークライフバランスに対する取組み■

- ・週2回の定時退社の実施・・・月曜日、水曜日に実施できるよう職員で協力したり、業務改善を行なったりしながらほぼ実施できた。
- ・有休休暇取得の推進・・・年間で計画的にほぼ取得した。

■防災・安全・衛生活動■

- 防災
 - ・避難訓練の実施（毎月1回）
 - ・消火器模擬訓練（毎月1回）、避難誘導訓練（2次避難訓練含む）の実施
創宅との合同での2次避難訓練を実施（2月）、法人一斉避難訓練を実施（3月）
- 安全
 - ・事業所内外の安全点検・・・完全点検表にて実施
 - ・不審者対応訓練・・・1月専門研修受講、園内にて模擬訓練実施
- 衛生
 - ・事業所内の消毒、玩具消毒の実施の徹底・・・毎日実施
事業所の環境整備日を設定し（月2日）清潔な環境作りに努めた。
 - ・感染予防に努め、流行する疾患などの情報提供・・・冬場にインフルエンザの予防についての掲示をする。その他は、個々の家庭に応じて対応した。

■その他特記事項■

特になし

平成 28 年度事業報告

小さくら地域子育て支援センター

■事業実施概要■

包括的な地域支援が求められる中、子育て支援拠点事業はひろばにじいろを軸に、垣根の低い入り口として利用者が安心して集える場として開放すると共に、個のニーズに寄り添えるような相談・サービス(一時・休日保育、訪問事業など)への切れ目のない支援を心掛けた。また、地域の関係機関や地域住民との交流を通じて、子育て支援活動の充実や地域の支えあいの仕組みづくりとして、子育てカフェやアウトリーチでの三世代交流を行い、交流を通じて顔の見える関係づくりに努めた。

■重点方針■

重点方針		子どもの主体性を育み支える子育て支援		
利用者支援目標	小さくらの特色ある保育の実践	具体策	○子どもが主体的に活動できる遊びと学びの環境づくり •意味ある運動遊び ○職員の心構えの実践 ○公開保育への参加	•保育園で実施しているリズム遊びや運動遊びに参加したり、日課の見直しを行い、静と動の遊びの工夫を行ったりした。（保育確認会で状況把握を行う） •年間を通じて常に声を掛け合い、職員同士で啓発し合った •グループでの計画に沿って参加し、保育の振り返りを職員会議で実施した
	職員の役割に応じた知識と技術の向上			
重点方針		子育て力を高めるための保護者との協働		
家族支援目標	家族とのコミュニケーション	具体策	○子育て講座の開催（ママパワサロン・出前講座） ○保護者会教養講座への参加 ○行事の共同開催（地域支援担当者会）	•年間計画に沿って、すべての講座を予定通り実施（月1回） •参加者なし •地域支援担当者会を通じ、各園連携しながら、秋祭り・運動会・もちつきに参加

重点方針		地域とともに育む子育ての環境づくり		
地域支援目標	子育て支援活動に関心がある人の発掘・育成	具体策	○水島地区「子育てカフェ」の開催 ・愛育・主任児童委員研修会 ・にじいろ交流会の開催 ・ピーポーカフェの開催	・6・1月に実施 ・関係機関・地域住民などを招き、11月に開催 ・年6回の開催において、地域支援について話し合いを行う
	三世代交流を通じた包括的な地域支援作り		○育メンひろばの開催	・7月に実施
			○伝承行事への参加	・秋祭り・クリスマス会・もちつき・しめ縄作り等を通じて、交流を行う
	親子の隙間を埋める「にじいろ」機能の充実		○健康サロン・子育てサロン・親子クラブ等、三世代交流をきっかけとした地域作り	・各学区からの依頼による水島(四福・水島)・連島(連東・旭丘・連南)地区との三世代交流を実施
			○水島拠点を中心としたチームプレーによる包括的な相談支援の実施(にじいろの場)：なないろ・ゆめいろへの参加	・母子保健連絡会(水島保健推進室)との共催による園長・主任を対象とした勉強会を実施(年2回)

■中期経営計画に対する事業所単独の取組み■

目標	具体策	実施内容
職員間コミュニケーションの推進	・夢Ko i サークルの実施 ・地域の三世代交流を通じたチームプレーの実施	・水島港まつりにて、夢koiに参加。練習等を通じ、職員の交流を図った ・秋祭り・七五三参り・クリスマス会・かるた大会などを通じ、保育園職員、並びに地域住民との交流を図った

■第三者評価に対する取組み■

取組み内容	実施内容
運動会・もちつき・秋祭りを通じた地域住民との交流	今年度地域支援担当者会を行うことで、以前から課題であった保育園職員とのチームプレーによ

	る地域住民との交流ができ、園と地域をつなぐ役割としてセンターが仲立ちとなることができた
マニュアルの見直し作成	従来からのマニュアルについては見直し完了 新たに地域交流・講座に関するマニュアルを作成

■地域公益事業活動■

活動内容	実施内容
ママパワサロン・Waku わく講座の開催	ひろばにじいろと連携し、先輩ママ、あるいは地域住民を講師とした年間 17 回の講座を実施（326 名が参加）
保育園と地域住民・関係機関を巻き込んだ行事	・7/2 育メンひろばを開催：28 組の地域の親子、並びに地域の子育てボランティア、関係機関との協働のもと、総勢 86 名が参加 ・1/30 愛育委員会の依頼を受け、フラダンスを通じての子育て支援（三世代交流）を実施
水島港祭りへの参加 ・夢Koi、和太鼓、整備、清掃など	正規職員が夢Koi、誘導係として、参加
連島・水島地区の健康サロン・オレンジカフェを通じた三世代交流の実施	アウトリーチによる 6箇所の地域支援活動に参加。地域の親子、地域住民、関係機関の 263 人が参加
ひろばにじいろにおけるカフェの開催	クラシスの出張カフェとして、年 1 回ひろばにじいろの地域支援活動として開催 ：地域住民・関係機関など 62 名の参加

■行事報告■

行事名	実施月	実施内容
秋祭り	9月3日	地域の親子は不特定多数参加。ボランティアとして地域住民31名が、昔遊びやお店の担当として参加
運動会	10月10日	70組の地域の親子が、リズム遊び・玉入れに参加
親子遠足	10月24日	18組の親子がやさい畑クムレにて芋ほりに参加
個人懇談	2月1日～28日	24世帯の一時保育利用者が参加

※季節行事・伝承行事（花祭り・七夕・お月見・クリスマス・もちつき・節分・ひなまつり）：一時保育・地域の親子が258名参加

※保育参観、及び試食会（6月・1月）：一時保育利用の保護者を対象とした保育参加形式

※誕生会（毎月第4金曜日）：一時保育利用者、地域の親子が参加

■利用者状況■

I 利用者動向		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	差異	累計月	差異	
半日利用	実績	68	91	103	72	82	76	108	68	58	69	73	66	66	-	934	-	
	計画	40	60	50	50	45	50	80	75	70	45	60	50	50	16	675	259	
	昨年度	70	59	72	62	59	64	76	58	45	45	38	52	52	16	700	259	
一時	実績	219	190	278	283	281	279	280	319	284	287	306	321	321	-	3,327	-	
	計画	280	240	300	300	265	260	280	275	280	275	280	280	280	41	3,315	12	
	昨年度	294	249	302	263	247	270	323	304	308	293	325	347	347	41	3,525	12	
一日利用	実績	287	281	381	355	363	355	388	387	342	356	379	387	387	-	4,261	-	
	計画	320	300	350	350	310	310	360	350	350	320	340	330	330	57	3,990	271	
	昨年度	364	308	374	325	306	334	399	362	353	338	363	399	399	57	4,225	271	
休日	3歳児未満	実績	16	20	10	25	17	24	20	30	26	20	20	19	19	-	247	-
		計画	13	22	11	17	13	20	14	25	17	13	13	17	17	2	195	52
		昨年度	13	25	11	17	23	26	18	30	20	16	15	4	4	2	218	52
3歳児以上	実績	13	16	9	10	10	14	11	13	13	11	15	11	11	-	146	-	
		計画	12	18	9	13	12	15	11	15	13	12	12	13	13	-2	155	-9
		昨年度	13	18	9	14	16	17	12	21	13	12	11	31	31	-2	187	-9
合計	実績	29	36	19	35	27	38	31	43	39	31	35	30	30	-	393	-	
		計画	25	40	20	30	25	35	25	40	30	25	25	30	30	0	350	43
		昨年度	26	43	20	31	39	43	30	51	33	28	26	35	35	0	405	43
産褥期	2時間以内	実績	0	0	0	1	0	4	2	0	5	1	0	0	0	-	13	-
		計画	3	5	4	5	3	3	2	3	3	3	3	3	3	-3	40	-27
		昨年度	9	0	0	0	5	8	18	8	7	0	6	18	18	-3	79	-27
2時間以上 4時間以内	実績	7	0	6	4	0	1	0	10	0	0	0	0	0	0	-	28	-
		計画	2	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	4	24
		昨年度	1	0	5	0	12	2	4	0	0	0	2	11	11	0	37	24
合計	実績	7	0	6	5	0	5	2	10	5	1	0	0	0	0	-	41	-
		計画	5	5	5	5	3	3	3	3	3	3	3	3	3	-3	44	-3
		昨年度	10	0	5	0	17	10	22	8	7	0	8	29	29	-3	116	-3
子育てヘルパー		実績(H)	11.5	9.5	14	24.5	13	7	9	12	13	27	19	19	19	-	179	-
		計画(H)	20	15	25	25	10	15	20	20	20	15	15	15	15	4	215	-36.5
		昨年度(H)	35	30	21.5	22	6	19	9	18	26	30	19.5	13	13	4	249	-36.5
センター事業	実績	594	675	716	614	770	610	664	546	499	480	521	571	571	-	7,260	-	
	計画	320	320	320	320	320	320	320	320	320	320	320	320	320	251	3,840	3420	
	昨年度実績	454	555	684	745	722	676	628	599	489	514	673	669	669	251	7,408	3420	

●利用者支援目標

< (事業名) >

- ・一時（休日）保育：一人ひとりの思いを受け止め、預かりの時間安定して過ごすことができるよう、信頼関係の構築に努めた。今年度2回実施した参観後のアンケートでも、日頃落ち着いて過ごせている様子を喜ぶ保護者からの感想もいただいた。
- ・訪問事業：子育てヘルパーのご利用者は固定化しており、子どもの成長に伴い、母親ができる子育てについて一緒に考え、母親の困り感に寄り添う支援をするよう努めた。
- ・子育て支援拠点事業：子育て中の母親の出会いと交流の場として、園開放や講座などを実施し、母親同士がつながり互いが交流する中で、子育ての悩みを解決し、いろいろな体験活動を通じて子育てが楽しいと感じてもらえるような場作りを掛けた。

■保護者・家族との交流■

支援事業	内容	開催回数	延べ参加人数
すこやかサロン (親子教室)	“ベビーズDAY”	19回	428人
	“マザーズDAY”	18回	416人
パパやママのおしゃべりサロン	ハンドメイドの会（離乳食・お弁当作り）	2回	17人
	パクパクランチの会（試食会）	12回	90人
ボランティア関係	子育てボランティア養成講座(合同開催)	6回	136人
	ボランティア交流会	2回	20人
	花もめんの会・・・毎月2回	19回	88人
	一時保育・託児ボランティア受入れ	随時	400人
育児相談	面接相談（訪問相談を含む）	440件	645件
	電話・メール相談	5件	5件
ふれあいひろば	ふれあいひろば（園開放）・・月～土曜日	293回	7260人
	わらべうた	11回	290人
	サーキット遊び	9回	199人
	絵本の読み聞かせ	11回	165人
	音楽ひろば	9回	369人
	おひさまひろば	11回	200人
	育メンひろば	1回	85人
	出前講座+ママパワサロン	22回	429人
	チラシ配布	毎月1回	19458枚
	親子クラブ・子育てサロン	6か所	152人
ふれあい 子育て支援サービス	産じょく期ヘルパー	12世帯	36回
	子育てヘルパー	9世帯	103回

■事業所研修■

研修項目	実施月	実施内容
育児援助マニュアル職務遂行要領書の確認	4・5月	一時保育・子育て拠点事業ごとに職務要領書の読み合わせをし、再度業務標準に基づく支援の方についての研修を実施
相談事例について (相談援助技術)	7・11・ 12・3月	・雑談力（人との関わりの意義について）の研修を実施 ・気になる子どもの保護者支援において、あるいは子育てに不安をもつ保護者との関わりについて

		て、相談援助技術の視点での研修を実施
リスク研修（KYT）	7月	保育室での事例を通して、KYTを実施
報連相について コーチング～「風通しのよい職場を目指して」	11月	・社会人としての職場の基本について学びなおし研修の実施 ・コーチングを通して、互いを理解しより良い関係づくりについての研修を実施

■ワークライフバランスに対する取組み■

- ・週2回（火・木曜日）の定時退社については、ホワイトボードなどを活用し、業務の見える化、並びに朝礼（昼礼）を活用しての進捗状況把握を行うことで、ほぼ実施することができた。
- ・有給休暇取得においては、各々の取得日数の半分消化を行うことができた

■防災・安全・衛生活動■

- 防災・・・避難訓練・消火器模擬訓練の実施（毎月1回）
- 安全・衛生・・・施設内の安全・衛生点検の実施（害虫駆除・玩具消毒など）
 - 不審者対応訓練に参加（年1回）
 - 感染症などの情報提供、及び感染予防の実施
- 安全運転・・・車両安全運転管理・運行記録管理の実施と職員への安全運転の啓蒙

■その他特記事項■

なし

平成 28 年度事業報告

児童家庭支援センタークムレ

■事業実施概要■

相談件数カウント方法や相談件数による補助金額の変動など、児童家庭支援センターをとりまく状況が変化する中で、地域での存在価値を高めるために子育て支援事業グループでのチームワークを強化し、関係機関や地域住民との関係作りを意識して事業を実施した。特にこども食堂と学習支援を開始し、地域へ向けたアウトリーチ活動の足がかりをつくった。また、地域へ向けた虐待予防の一環として、CSP を実施することができた。

■重点方針■

重点方針		子どもの主体性を育み支える子育て支援	
利用者支援目標	具体策	実施内容	外部研修への参加
			相談員と心理士各自のスキルや役割に応じ、必要な外部研修に参加。
			法人人材育成プロジェクト計画に沿って参加。
			法人事業グループの計画沿って参加。
			毎月合同会議を行い、互いの支援内容の共有、合同での研修を実施。
			毎月 1 回定期的に鶴心寮を訪問。
			鶴心寮退所世帯に対して、訪問や面接を実施。
			鶴心寮の夏祭り、餅つきに参加。
			社会とのつながりや自立を目指した外出、クッキング、グループワークなどを実施。

重点方針		子育て力を高めるための保護者との協働			
家族支援目標	家族とのコミュニケーション	具体策	ケース個別対応の充実	実施内容	CSPの実施など、個々のケースにおいて柔軟な対応を行った。
	里親支援		関係機関連携を通した家族支援		関係機関との連携により家族も含めた支援の実施。
			里親会とのネットワークづくり		里親家庭への訪問支援 里親研修会への参加。
			里親サロン手伝い		会場準備や託児の手伝いを実施。
	重点方針	地域とともに育む子育ての環境づくり			
地域支援目標	地域ニーズの掘り起こし	具体策	要保護児童地域対策協議会への参加	実施内容	倉敷市全地区の協議会へ出席。児島地区協議会の要請で児家センの役割や発達障がいサービスについて説明。 水島地区進行管理会議に出席。
	鶴心寮退所後のアフターケア事業の具体化		こども食堂、学習支援の実施		地域住民や児家セン利用者に対してこども食堂や学習支援を実施。
			合同会議の実施		毎月合同会議を行い、互いの支援内容の共有、合同での研修を実施。
			鶴心寮退所世帯に対する相談支援		面接・訪問にて鶴心寮退所世帯に対して相談支援を実施。
	育メンひろばへの参加		育メンひろばの手伝い		7月に育メンひろばに参加、手伝い実施。
	気になる親子の隙間を埋める「にじいろ」機能の充実	具体策	にじいろ・ゆめいろ教室の手伝い	実施内容	にじいろ・ゆめいろ教室の手伝いを通して、子育てに関する相談を実施。
			出前講座の実施		CSP講座を実施。
			ケースの共有		保健師を含めた虐待ケースの共有。

■中期経営計画に対する事業所単独の取組み■

目標	具体策	実施内容
地域社会における公益的な活動の実施	こども食堂や学習支援の実施	地域住民や児家セン相談者に対して月1回実施。

■第三者評価に対する取組み■

取組み内容	実施内容
「子ども家庭」の支援に関するアセスメント	「子どもが心配チェックシート」「ニーズシート」を担当児童福祉司と作成。
ソーシャルワークの視点によるSV体制の導入	児童相談所によるSV実施。
職員個別育成の強化	法人内専門職とのチームワーク。外部研修や学会への参加。
専門な知識と技術の明確化	外部研修の伝達研修実施。事業所内職員に対してCSP実施。

■地域公益事業活動■

活動内容	実施内容
地域住民と児家セン利用者をつなぐことや、地域のニーズを把握するためのこども食堂を実施。	10月から毎月1回実施。
子どもの特性や費用面で福祉サービスや塾に通うことが難しい相談者に対しての学習支援。	1月から毎月1回実施。

■行事報告■

行事名	実施予定月	実施内容
マテ貝とり	5月	屋外活動の機会が少ない相談者に呼びかけ、3名の参加。
散策	7月	所属が無かったり、他者との関係を築くことが苦手な子どもを対象としたグループワーク。水島臨海

夏祭り	8月	鉄道栄駅周辺の散策。3名参加。
外出(アニメイト)	9月	鶴心寮の夏祭りに参加。相談者3名参加。
作品展	10月	所属が無かったり、他者との関係を築くことが苦手な子どもを対象としたグループワーク。アニメイトへ公共交通機関を使った外出。3名参加。
クッキング	12月	相談者2名で白玉ぜんざい作り。
餅つき	12月	鶴心寮の餅つきに相談者2名参加。
クッキング	3月	チョコフォンデュ。3名参加。

■利用者状況■

I 利用者動向																	
項目/月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	差異	累計月	差異
電話	実績	44	40	33	29	29	43	30	50	30	41	97	114	114	-	580	-
	計画	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	74	480	100
	昨年度実績	41	48	38	36	30	31	49	40	37	33	28	41	41	73	452	128
来所	実績	37	48	33	33	39	33	41	37	33	38	59	94	94	-	525	-
	計画	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	64	360	165
	昨年度実績	41	32	28	54	50	42	38	44	50	42	40	41	41	53	502	23
訪問	実績	34	31	42	42	35	29	31	39	45	41	72	72	72	-	513	-
	計画	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	42	360	153
	昨年度実績	34	29	35	38	35	31	43	33	45	41	27	34	34	38	425	88
新規受領 件数	実績	5	7	8	8	7	7	5	13	15	4	7	6	6	-	92	-
	計画	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	-4	120	-28
	昨年度実績	11	3	15	15	8	2	21	15	9	8	10	11	11	-5	128	-36
児相委託	実績	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	0	-
	計画	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	-3	36	-36
	昨年度実績	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	-3	36	-36
ケース会 議	実績	3	1	5	6	4	3	3	2	3	0	8	6	6	-	44	-
	計画	3	3	3	3	3	3	3	3	4	4	4	4	4	2	40	4
	昨年度実績	1	6	5	4	4	4	3	5	7	3	6	1	1	5	49	-5
心理療 法・検査	実績	5	7	5	9	6	10	8	11	12	9	12	20	20	-	114	-
	計画	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	13	84	30
	昨年度実績	4	4	8	16	17	6	13	11	8	13	11	4	4	16	115	-1

●利用者支援目標

＜相談支援＞

虐待の発生予防や心の回復を意識した専門的な相談支援を実施するとともに、一人ひとりの成長に合わせた見守り型の相談支援や家族全体が抱える問題に寄り添う伴走型支援を行なう。また、関係機関や相似の事業と連携を図ることで、相談者の困難な状況が解消できるよう努める。

■保護者・家族との交流■

こども食堂やマテ貝とりなど保護者を含めた行事を実施した。
作品展に保護者を招くことで、保護者が子の成長に気付くきっかけ作り、親子の会話のきっかけ作りを行った。

■事業所研修■

研修項目	実施月	実施内容
総社市こども課の取り組みについて	6月	総社市こども課に来てもらい、取り組みの内容や相談支援方法についての講義を受けた。
こどもについての相談	7月	保育士による乳幼児への対応方法、保護者からの相談への返答方法についての研修。
全国母子生活支援施設出張報告	7月	全国母子生活支援施設研修伝達講習。施設見学の内容報告。
児童福祉法改正について	10月	児童福祉法の一部改正に伴い、改正内容の要点把握。
真庭市の子育て支援について	12月	真庭市の取り組みについての報告。
面接スキルトレーニング	12月	岡山県児相による面接スキル講習の伝達講習。
「トワイライトホーム」「子どもの家」の取り組みについて	1月	県内こども食堂の取り組みについて、伝達講習。
こどもの虹研修について	1月	こどもの虹研修会の伝達講習。
面接スキルトレーニング	2月	岡山県児相による面接スキル講習の伝達講習。
面接スキルトレーニング	3月	岡山県児相による面接スキル講習の伝達講習。
SSTの基礎知識	3月	臨床心理士によるSSTの説明。
母子生活支援施設について	3月	鶴心寮職員による母子生活支援施設実習報告。

■ワークライフバランスに対する取組み■

定時退社日に定時退社が実施できるよう業務の調整を行った。
柔軟に公休や有給休暇を取得することで、介護のサポートを行った。

■防災・安全・衛生活動■

児童発達支援センタークムレと共同で毎月避難訓練を実施した。

専門研修にて救急法、災害時対応、危機管理、事故予防についての研修を受けた。

環境整備計画に基づいて衛生活動を実施した。

■その他特記事項■

なし

平成 28 年度事業報告

倉敷市鶴心寮

■事業実施概要■

第三者評価の指摘項目を中心に事業所のサービス状況の見直しをしている。また、母子生活支援施設として求められていることや、貧困・居場所作りについての学びを深めるため、今年度は外部研修の参加を重点的に行い、職員会議で共有し学びを深める年になった。さらに、外部との関わりが極端に少なくソーシャルワークが展開されていないため、岡山県内の子育て支援課や、子育て関係の事業所の訪問等を行い、岡山で行われている子育て支援の状況や外部講師を依頼して勉強会を開催した。地域貢献についての課題が残っているため、母子生活支援施設の指針を深めながら、チームで認識を統一しながら次年度も試みていく。

■重点方針■

重点方針		子どもの主体性を育み支える子育て支援		
利用者支援目標	社会的養護における切れ目のない支援体制の充実	具体策	○子どもが主体的に活動できる遊びと学びの環境づくり ・学習支援の充実	ふれあいクラブ（個別の日・子ども会）の内容が充実した。放課後の学習支援は、学生ボランティアなども活用し、時間、支援する人員を確保し取り組むことができた。
			・子どもの参画による行事の充実	子どもの会で意見を聞き、行事の内容に反映させ、計画、準備、運営等への参加が少しできた。
			・余暇利用の充実（中庭の活用）	野菜を植えたり、収穫したりし、世帯とのふれあいが図れるようにした。
			○職員の心構えの実践	隔月で振り返りを行う。

			<ul style="list-style-type: none"> ○児家センとの協働 <ul style="list-style-type: none"> ・相談の実施（児家センスタッフによる） ・アフターケア 		親の会で紹介、相談ケースはなかった。
			<ul style="list-style-type: none"> ・協働での行事の実施 		訪問に関しては、子ども相談センターの要請があり1件同行している。その他、来所に伴い都度相談にのっている。また、進学についての相談も受けており、オープンスクールの同行を行っている。
	職員の役割に応じた知識と技術の向上		<ul style="list-style-type: none"> ○法人階層研修への参加 ○専門研修の実施 		児家セン利用者が、鶴心寮主宰のバーベキューやもちつきに参加されている。
	支援体制の強化		<ul style="list-style-type: none"> ○アセスメントシートの作成・活用 		外部研修(県外、県内)、専門研修への参加、先進施設の見学、児家センとの連携(事例検討、事業所内研修への参加)
重点方針		子育て力を高めるための保護者との協働			
家族支援目標	家族（母親）とのコミュニケーションの強化	具体策	<ul style="list-style-type: none"> ○行事等への保護者の参画 ○アフターケアの充実 <ul style="list-style-type: none"> ・訪問などのアウトリーチによる支援の強化 ・退所者対象の交流会の実施 	実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・行事等への保護者の参画では、保護者の意見を取り入れた行事を実施した。保護者が運営に関わるまでには至っていない。今後の課題である。 ・アフターケアの充実では、訪問などの回数を増やすことを目指したが、達成できていない。 ・児家センとの協働 ・行事への招待

重点方針		地域とともに育む子育ての環境づくり		
地域支援目標	地域における子育て支援活動の充実	具体策	○育メンひろばの開催 ○水島地区「子育て力フェ」の開催	「育メンひろば」、「秋祭り」、「水島祭り」に参加した。
	地域ニーズの掘り起こし		○関係機関訪問、ネットワーク・連携会議等への参加 と寮の紹介他	子ども相談センター、福祉事務所、地域生活支援センター、保健師、総社市社会福祉協議会、担当課、生活困窮者支援・権利擁護センター他との連携を深めた。
	気になる親子の隙間を埋める「にじいろ」機能の充実		○相談支援での協働	関係機関訪問（福祉事務所、児童相談所、女性相談所、社会福祉協議会、生活困窮者支援センター、児童養護施設他）、ネットワーク会議、要対協の会議などでの鶴心寮の紹介などを行った。

■中期経営計画に対する事業所単独の取組み■

目標	具体策	実施内容
○児家センと鶴心寮の一体的な支援の充実 ○鶴心寮の将来像についての検討	・協働による多様な支援の実施 ・施設設備、支援内容等について検討する	児家センとは、連携会議、事例検討、児家センの所内研修への参加、児家センから鶴心寮への出張相談の実施、日常の入所ケースに関する相談などを行った。倉敷市生活自立相談支援センター（生活困窮者対象）との協働も行った。自立支援計画策定において関係機関との協働はできていない。

■第三者評価に対する取組み■

取組み内容	実施内容
アセスメントシートとマニュアルの整備 ・マニュアルの見直し、新規作成	・アセスメントシートを見直し、改訂中。 ・マニュアルの整備については、職員の主な業務について整備している。また、見直しを行っている。

■地域公益事業活動■

活動内容	実施内容
ボランティア・実習等の受入	ボランティアの受入について、手順の見直し改訂を行っている。実習生に関しては、3名美作大学より受入している。
生活困窮者への生活資金貸し付け	未実施。
エコキャップの収集	世帯のキャップも回収しやすいように、外にエコキャップ会集ボックスを設置した。

■行事報告■

行事名	実施予定月	実施内容
親の会	毎月	連絡事項伝達、要望等の話し合いの場
子どもの会	毎月	連絡事項伝達、要望等の話し合いの場
誕生会	該当月	誕生日を祝う
母の日・子どもの日	5月8日	母へのメッセージカード作成、サンドイッチ作り
七夕会	7月3日	親子でうちわをつくり、笹に短冊を飾る。
日帰り旅行（弥高山）	7月31日	弥高山でカレー作り、散策、自然観察などを行う。
バーベキュー会	8月28日	・利用者、退所者の方々と共にバ

鶴心寮ふれあい祭り		一ベキューを楽しむ ・地域の方を招待し、夜店、花火など祭りの雰囲気を楽しむ。
クリスマス会	12月 18日	ブラックシアターやケーキづくりなどを楽しみ和やかな場を過ごす。
食事会（夕食）	12月 18日	母親と子どもの2グループに別れ外食（夕食）をする。
餅つき・大掃除	12月 23日	地元千歳楽保存会及び地域住民と餅つきを楽しむ。 1年の締めくくりとして施設及び施設周辺の掃除を行う。
年越し会	12月 31日	年末年始を寮内で過ごす世帯とともに年越し蕎麦を作り食卓を囲む。
節分会	2月 5日	豆まき、ゲームなどを楽しむ
食事会（夕食）	3月 4日	母親と子どもの2グループに別れ外食（夕食）をする。
ひなまつり会	3月 11日	ひな祭りに因んで、ひなあられを食べながら雰囲気を楽しむ。
土ひねり	3月 12日	陶芸家の講師を招き、陶芸作品を作成する。

■利用者状況■

I 利用者動向																
項目/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	差異	累計月	差異
実績	6	6	6	5	5	4	4	5	4	4	4	5	5	-	58	-
計画	5	6	6	7	7	7	7	8	9	10	8	7	7	-2	87	-29
昨年度実績	7	8	8	7	7	5	5	5	5	5	5	5	5	0	72	-14

●利用者支援目標

＜事業名：倉敷市鶴心寮＞

1 入所者の自立支援計画の策定その他の自立支援に関する業務

- ① 自立支援計画策定においては、面談を行い、母子の意向を聞き、母親とともに支援計画を立てている。そのため、母子の意向を尊重した計画の策定に努めた。自立支援計画の目標、内容がより母子の未来ビジョンを描けるようにしている。
- ② 面談での聞き取りの情報や、関係機関などからの情報に基づき、母子の心身の状

況や生活の状況などを把握し、自立支援計画を策定した。

- ③ 自立支援計画の策定に当たっては、寮内での支援会議を行い、支援内容の検討を行った。支援状況については、必要に応じて、子ども相談センターや児童家庭支援センターからの助言を受けたり、協議を行ったりした。
- ④ 自立支援計画は、半年ごとに目標等の見直しを行った。また、下位の具体的な目標については、毎月、支援会議で振り返りを行い、評価や計画の見直しを行った。

2 入所者の生活支援に関する業務

- ① 就労、家庭生活、児童の養育に関する相談、助言及び指導

就労については、ハローワーク、職業紹介雑誌などによる情報の提供を行った。

就職先での人間関係に関する相談、助言なども必要に応じて行った。

家庭生活については、家計管理などについての助言、児童の養育については、発達の状態、登校しぶり、学校生活などについての相談、助言などを行い、関係機関との調整を行っている。

- ② 児童に対する生活、学習、遊び、進路等の相談及び指導

児童に対する支援では、学校からの帰寮後、学習支援として、宿題の指導、補習などを行っている。児童の主体性、自己肯定感を育むために、子どもの会や個別の日（〇〇さんの日）の内容の充実を図り、児童にとって有意義な活動場面を多く設けるようにした。遊びの中でのルールや、生活で必要な知識、技能なども機会を捉えて指導している。進路等については、対象者がいなかった。

- ③ 共同生活への適応が困難な入所者への助言や指導

共同生活への適応が困難な入所者については、話しやすい場面をつくり、行事等への参加を促し、人との関わり方を学ぶ機会としている。

- ④ 関係機関との連絡調整

子ども相談センター、倉敷児童相談所、生活福祉課のワーカーの方、病院などと連携し、きめ細かな支援に努めた。

3 退所した者からの相談その他の援助に関する業務

- ① 退所者からの、生活や子育て等に関する相談に応じて、適切な支援

夏季休業中などの児童の預かり、学習支援、児童の子育てに関する相談、病院の紹介、諸手続（ビザの申請、契約他）の支援などを行った。

- ② 退所者が適切なサービスが受けられるように関係機関と連携

退所前に、退所後の支援が充実するよう、関係機関でケース会議を行った。（子ども相談センター、倉敷児童相談所、生活福祉課など）

- ③ その他

退所者を所内行事（バーベキューの会、もちつき）へ招待した。3～4世帯が参加した。

4 入所者への心理療法等の実施に関する業務

心理的不安を解消させるための相談や支援。DV被害者等への支援

平成27年度から、臨床心理士を配置し、相談の体制をとっているが、相談件数は1件であった

■保護者・家族との交流■

施設の利用者が母子であるという特性から、家族を対象とした行事が多い。「母の日・子どもの日」、「節分会」、「ひなまつり会」等の主に職員が準備したものを楽しむものもあれば、「バーベキュー」、「クリスマス会」、「年越し会」等の利用者と職員が一緒に準備をしたり作ったりすることによってできあがるまでの過程も楽しむ行事もある。このような行事の中で、親子、入所者同士、入所者と職員との親睦を深めること、傷ついた心の回復を図ること、利用者が自分の特技を発揮したり、内容についての意見を言ったり、興味を持って活動に参加したりすることにより、利用者の自己肯定感を高めたり、主体性を養ったりすることなどを目的として実施した。今年度は、新たに、外食の機会（母親グループと子どもグループに分けて実施）や母親を対象とした土ひねりの会を実施し、社会生活に着目した活動や気持ちを落ち着ける活動を取り入れることで、母や児童の新たな想いを聞くことのできる機会になった。

■事業所研修■

研修項目	実施月	実施内容
鶴心寮の支援の内容について	4	鶴心寮の支援の内容について共通理解をした
ソーシャルワークについて	7	母子生活支援施設運営ハンドブックを呼んで、レポートを提出して貰い、そこから共通認識。
事業計画について	2.3	事業計画作成の要領、ポイント等について学ぶ
救命救急法について	3	消防署の方を招いて、心肺蘇生法・AED使用方法などについて学んだ
母子生活支援施設について	3	鶴心寮職員による母子生活支援施設実習報告。

■ワークライフバランスに対する取組み■

- 定時退社（週2回の徹底）

職員同士で定時退社を意識する声かけを行ったりし、促進できるようにしている。また、緊急の受入や世帯の相談を受ける際には、時間外での対応になることもあるため、定時で帰宅できる際には、管理職からも促している。

- ・年休の計画的取得に実施

長期休暇には、連休が取れるように配慮したり、職員の希望に沿って年休の取得を行っている。また、有休の希望が出ていない職員には、勤務表作成者から予定を確認したりしながら、有休取得を促している。

■防災・安全・衛生活動■

毎月1回災害訓練を実施した。実施内容は、火災や地震、台風等の災害だけでなく、施設の特性に応じた不審者対応、防災への意識向上を目的とした消防署立会い訓練も取り入れた。建物及び設備については、消防用設備及び非常通報装置等の保守点検を定期的に実施し、防犯対策として警備員による19時半～2時までの巡回警備を毎日実施した。保健衛生では、入所者及び職員合同による普通救命講習（講師を消防署に依頼）を実施した。

■その他特記事項■

なし

発達支援事業グループ

平成 28 年度事業報告

児童発達支援センター 倉敷学園

■事業実施概要■

倉敷学園において専門職2名を配置し、基本相談部門を設け乳幼児から18歳までの発達の専門相談に応じた。臨床心理士によるプレイセラピーや作業療法士によるペアトレを実施した。職員中心に行なったペアトレも2期開催し、家族のエンパワメントを図り、子どもの育児や発達の基盤である家庭生活への支援を強化した。ひろば栗の家は、地域の交流スペースとして地域住民とのオレンジカフェや赤ちょうちん、学生と協働し卒園児や兄弟児を受け入れ、どんぐり広場において地域の児を受け入れ地域の小学校や保育園、幼稚園との関係作りを行なった。契約数は、定員を超えていたものの年間を通じ安定して登園できている。

■重点方針■

重点方針		子どもの主体性を育み支える子育て支援				
利用者支援目標	① 人材育成	具体策	① — 1 法人階層別研修	実施内容		
	② 子どもの権利擁護		① — 2 専門研修			
			① — 3 事業所研修			
			① — 4 第三者評価受診後の改善の実施			
③多職種協働による包括的な支援	尊厳と子どもの代弁者として意思を尊重した支援を行う		アセスメントの視点をもち、ケースマネジメントの視点でチームアプローチを行なった。事業所研修において、クラス支援の考え方を互いに伝え合った。社会福祉の倫理綱領・大切にしたい価値観・支援観について合同研修を実施。			
	グループ内での専門職連携		ST OT特別支援計画に基づく支援を実施し、家族へのフィードバックを行なった。 栄養士・STによる食事アセ			

				スメントを毎月、給食会議で行った。（食育） 栄養士、ＳＴ、ＯＴとともに法人内の他事業所にも出向き評価等を行なった。
		地域機関との連携・ケース会議の参加		基本相談のＯＴや心理士は、児島支所と健診後のフォロー教室で連携を図った。心理士は、行政が行なう育児相談も対応した。 ケース会議については、フォローが必要な2家庭を中心にお就学に向けたケース会議に出席した。
重点方針		子育て力を高めるための保護者との協働		
家族支援目標	① 保護者との協働関係の強化	① —1 ペアレントトレーニングの実施	実施内容	臨床心理士や児発管が講師となり、年間2クール（全6回）実施した。ＯＴによるCSPを基本としたペアトレも少人数制で実践した。
		① —2 保護者勉強会の開催		別の報告欄へ記入。
	具 体 策	① —3 親子療育・倉学カフェの実施		親子療育は、年6回実施。プログラムを通して具体的に親子で楽しく関わる機会を提供した。1回は、祖父母を対象として療育参観を実施した。 倉学カフェは、保護者同士の繋がりの場・学園職員との話し合う場・食事について学びの場（栄養士から情報提供）として実施した。
		① —4 個別懇談の実施		年3回実施。必要に応じて、担任や園長、児発管の対応により実施した。
		① —5 情報提供		連絡帳を利用し園での生活状況を伝達しコミュニケーションノートで保護者の日々の思いや悩みに寄り添い相談に応じた。
		生活の場での支援		自宅を訪問し個別に生活状況や環境を把握する・ニーズに基づき、自宅でも生活しやすいように、児にあった環境設定、親の関わり方をサポートした。育児に対する思いを
		② 家庭訪問		

				共有し不安や悩みに対応した。家族関係の調整や就学前後の相談を行なった。
	③ 兄弟児・祖父母支援	交流・リフレッシュ		兄弟児対象企画（年3回）は、栗の家の広場とコラボし学生の協力も得ながら、行事を通して遊び・ゲーム・スポーツで交流を図った。兄弟の障害受容について、基本相談で対応した。
	④ 家族力を支える	エンパワメントとリフレッシュ		〇丁による卒園児を対象にした勉強会を実施、また在園児と卒園児の保護者を対象に茶話会も行った。
重点方針		地域とともに育む子育ての環境づくり		
地域支援目標	① 機関連携	所属機関訪問支援	実施内容	卒園児については、保幼小において学校訪問を行い、情報を共有した。就園や就学に向けては担任が状況表を持参し園児の引継を行い連携を図った。
		健診保育への参加		計画に基づいて全日対応した。
		実習生の受け入れ		実習生（社会福祉士、保育士・介護福祉士・作業療法士・精神保健福祉士・介護等体験実習）の受け入れ・実習指導・実習後のフォロー・実習発表会参加した。 受け入れマニュアルに基づくボランティアの受け入れを行なった。
		ボランティアの受け入れ		
		フォーマル・インフォーマル機関連携		市町村関係機関・相談支援事業所・ゆめぱる・児相・子相・病院・学校・民生委員・愛育委員・町内会・地域包括・NPO・社協・大学等との協働・連携を行なった。
	② アウトリーチ	障害児相談支援 基本相談 関係機関への出向き支援		基本相談は、家庭訪問や保健師、ゆめぱる等地域連携で把握した家庭への支援を行なった。 乳幼児から18歳までの子育て・発達に関する相談を受け、必要時には家庭や対象施設に出向き相談・連携・調整の支援を行なった。 栗の家において地域で福祉サービス対象外で発達が気になる親子が利用できる場を設けた（どんぐり広場）

	③ 地域住民への理解・啓蒙活動	ひろば栗の家・栗坂地域町内会、川崎医療福祉大学と連携 クラ☆コト		園長を中心に、小地域ケア会議参加した。地域の清掃活動にも参加した。自立支援会議においては、センター会議にて情報を提供。 稲作つくり・散歩を通して地域住民との交流を行なつて いる。秋にクラ☆コト実施した。
--	-----------------	---	--	---

■中期経営計画に対する事業所単独の取組み■

目標	具体策	実施内容
利用者主体の支援計画に基づく支援の実施	障がい特性のために生活のしづらさを感じている個々の子どもたちの生活しにくい環境の改善を図る視点でアセスメントし支援計画に基づいた支援を実施する。支援後はモニタリングを実施。	アセスメント内容を資料に記入した。予定していた時期（4月、11月）より遅れて資料完成となった。モニタリング後の再アセスメント実施は、隨時行なった。

■第三者評価に対する取組み■

取組み内容	実施内容
発達支援センターとしての役割	きらりのバックアップ機関として、〇丁により数ケースのフォローを行った。児発管としてきらり職員のフォローを行うケースもあった。
アセスメントの視点を広げ、支援の充実を図る	子どもの生活環境全般に視点を置いたアセスメントシートを用いてアセスメントを行う。サービス調整会議を行い、多職種検討にて支援計画を立案、実施、評価、見直しを行なつた。 家庭訪問などを行い、家庭や地域での支援内容について保護者とともに考えた。
関係機関との連携	自立支援協議会、子ども部会、倉敷市児童発達支援センター連絡会、健診保育、保幼小連絡会に出席し連携を図った。卒園児フォローのための所属園や小学校訪問、専門相談を行い園児の情報共有を行つ

	た。倉敷市や岡山市の教育委員会などと話し合いを行い、制度や仕組みについての改善提案を行い、より良い児童発達支援の実施に努めた。
--	---

■地域公益事業活動■

活動内容	実施内容
発達支援について地域住民向け啓蒙活動	地域住民による話し合いに同席したり、栗の家にて赤提灯を実施しながら地域住民の意見を聞き出したりしながら対話を行なった。
ひろばと連携・協働し地域の発達ニーズに応える	地域で福祉サービス制度の枠から出てしまう児童を対象に、どんぐり広場を実施している。午前は低年齢児、午後は年長児を中心に毎週火曜日に行なった。

■行事報告■

行事名	実施予定月	実施内容
入園式 在園児 新年度説明会	4月4日（月）	入園式と園を利用する際の流れについて説明を行った。
保護者勉強会	4月16日（土）	倉敷学園の支援について、行事内容などを詳しく説明した。
	7月	年長児課外活動の内容や、就学について、サポートブックについて説明を行なった。
	2月	社労士さんを講師に招き発達障害の方が成人後に直面するお金の課題や制度について学んだ。
家庭訪問	4/25.26.27.28 5/6 随時	担任や専門職が園児宅を訪問し、家庭状況を把握したり保護者の要望を把握したりした。
田んぼで行う米作り	通年	田植え、稲刈り、注連縄作り、どんど焼きに参加した。
個別懇談	5月 10月 2月	保護者の思いを傾聴、個別支援計画について保護者へ説明した。
親子療育	6回	遊び・制作・調理活動・外出等のプログラ

祖父母対象 療育参観		ムを企画し、親子や家族で参加した。
ペアレント・トレーニング	★4月末～7月上旬(臨床心理士) ★数回・CSPを基本としたペアトレ(OT)	希望する保護者に対して、子育て方法と一緒に考えていき子育て力の強化を図る
就学に関する勉強会	6月上旬	岡山市や倉敷市の教育委員会の教員を講師に招き、就学について学ぶ会を設けた。
テラスプール	6月～9月	テラスでのプール遊び
年長児課外活動	8月26日	年長児のみ13時から17時まで倉学以外の場も含めた活動に取り組む。
運動参観日	9月22日	両親・祖父母・兄弟児と共に参加し、運動面など日頃の成長を参観していただいた。
クラス参観日(発表会)	12月10日	クラス単位で参観日(発表会)を行なった。
クリスマス会	12月24日	クリスマス楽曲や劇、プレゼントや給食を実施した。
在園児・新入園児説明会	3月11日	新年度の支援の方向性について保護者に説明した。
卒園式	H29年3月29日(水)	卒園児対象の卒園式

■利用者状況■

I 利用者動向														単位:人			
■通園		定員:50															
項目/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	差異	累計月	差異	
実績	1,241	1,253	1,387	1,425	1,315	1,387	1,319	1,359	1,314	1,351	1,260	1,389	1,389	-	16,000	-	
計画	1,152	1,241	1,399	1,484	1,370	1,370	1,425	1,370	1,370	1,315	1,200	1,428	1,428	-39	16,124	-124	
昨年度実績	1,151	1,240	1,334	1,354	1,193	1,184	1,328	1,232	1,295	1,268	1,213	1,258	1,258	131	15,050	950	
月平均利用者数	62.1	59.7	63.0	62.0	59.8	63.0	57.3	61.8	59.7	61.4	63.0	60.4	60	-	61.1	-	
稼働率	124.1%	119.3%	126.1%	123.9%	119.5%	126.1%	114.7%	123.5%	119.5%	122.8%	126.0%	120.8%	120.8%	-	122.2%	-	
昨年度稼働率	115.1%	124.0%	121.3%	123.1%	113.6%	118.4%	115.5%	123.2%	123.3%	120.8%	115.5%	114.4%	114.4%	6%	119.0%	3%	
開所日	実績	20	21	22	23	22	22	23	22	22	20	23	23	-	262	-	
	計画	20	21	22	23	22	22	23	22	22	20	23	23	0	262	0	
	昨年度実績	20	20	22	22	21	20	23	20	21	21	22	22	1	253	9	
■タイムケア																単位:人	
項目/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	差異	累計月	差異	
実績	155	173	203	193	187	193	216	216	190	190	221	175	175	-	2,312	-	
計画	100	126	183	188	200	200	229	200	200	200	200	210	210	-35	2,236	76	
昨年度実績	104	131	173	178	148	168	207	206	187	201	213	175	175	0	2,091	221	
月平均利用者数	8.6	9.6	9.2	8.4	9.8	9.7	10.8	10.8	10.0	10.0	11.1	9.2	-	-	9.8	-	
開所日	実績	18	18	22	23	19	20	20	19	19	20	19	19	-	237	-	
	計画	21	21	22	23	22	22	23	22	22	20	23	23	-4	263	-26	
	昨年度実績	20	20	22	22	18	19	21	19	19	20	19	19	0	238	-1	

●利用者支援目標

<（事業名）>児童発達支援センター 倉敷学園

「学ぶ姿勢を育てる」	生活リズムの安定	自分でできる達成感
	好きな活動、運動、遊びを増やす	大人に助けを求める
	大人の働きかけに意味があることを知る	

■保護者・家族との交流■

行事報告に記入した。

■事業所研修■

研修項目	実施月	実施内容
大切にしたい価値観・支援観 支援者としての倫理観	4月	支援者として必要な倫理を理解し、子どもの尊厳と自立を支援できる
合理的配慮	6月	合理的配慮を行いながら環境を工夫し支援をする必要を考える
利用者支援(これってどうなん?)	5月・8月	クラスでの支援についてワークショップ
家族支援(家族理解と支援者としてのかかわり方について)	7月	障がいのある子どもの育児や発達の基盤である家庭生活を理解し、受容・共感・コミュニケーション能力の向上を目指す。
チームアプローチ	毎月(カンファレンス)	カンファレンスから、事例を通して各専門職が互いにその専門性を生かしながら子どもの生きる力を育みその子の最善の利益を保障していくために共同作業を学ぶ。
地域を知る	5月以降	栗坂地域の地域踏査から、地域ニーズを学ぶ

■ワークライフバランスに対する取組み■

週に二回の定時退社。帳票類の見直しを実施し業務の適正化を図る。

■防災・安全・衛生活動■

防災…消防計画に基づき防災訓練の実施(毎月)・消防署と協働による火災訓練(年に一回)

防災設備の点検委託 年二回

災害時を想定した常食糧の備蓄

安全…事業所内外安全点検(月一回)、送迎車両安全点検

不審者訓練、保護者への送迎時の交通マナーの啓蒙

救急法の研修会

衛生…環境衛生(害虫駆除・樹木の消毒)の実施

事業所内の消毒・玩具等消毒実施の徹底

感染予防(園児への手洗い)、感染症に関する情報提供

■その他特記事項■

なし

平成 28 年度事業報告

児童発達支援センタークムレ

■事業実施概要■

身近な地域で人々に見守られ、豊かに子ども時代を過ごすため、まず子育て当事者である母親支援に重点をおいた。肩の力を抜き母親同士が語り合い、学び合い、知恵を出し合い、力を発揮できるように応援した。同時に、地域住民が発達障がい児の理解者となりサポーターとして支援していくよう養成講座と活躍の場を提供した。また、孤立しがちな母子の早期発見・早期支援に向け、基本相談とつなぎの支援をひろばと連携し実施した。

■重点方針■

重点方針		子どもの主体性を育み支える子育て支援		
利用者支援目標	1. 人財育成	具体策	実施内容	・階層別研修は全職員参加、各階層に求められる役割・責任を認識後、事業所内でフォローアップ(OJT)を継続、意識付け実施。 ・事業所内研修、実践研究とも拠点全体で実施、人財育成と相互交流による啓発と資質向上を図った。結果、実践研究では 4 項中 2 項が入賞、内 1 項は保健福祉学会発表の栄誉を得た。
	2. 子どもの権利擁護			・人権と倫理研修を全職員で演習し支援に活かした。 ・合理的配慮は実践研究として通年で取り組み、意識改革・支援環境改善をした。結果、年度末の人権意識調査では職員の人権意識が高くなっていた。
	3. 他職種協働による包括的な支援			・作業療法士及び臨床心理士は専門性を活かし特別支援を実施、職能集団勉強会参加、すぐすぐ教室や講座の講師にも派遣した。
	重点方針	子育て力を高めるための保護者との協働		
目標 家族支援	1. 保護者との協働関係の強化	具体策	実施内容	・ペアトレントトレーニング ・保護者勉強会 ・座談会 ・ペアトレは年 2 回開催、参加保護者には学習したスキルを家庭で使えるよう通所支援計画の目標に組み込み成果をあげた。

地域支援目標	2. 家庭訪問	・親子療育 子どもの生活の場を把握し支援する		・勉強会：保護者ニーズ把握必要。 ・年2回実施。必要な家庭には通所支援計画に基づき頻回訪問、保護者及び児の支援を行った。課題を抱えた家庭への支援スキルの向上、チーム支援体制が課題。
				・園庭を開放し放課後、閉園日の利用を可能にした。卒園児やきょうだい児の行事参加と交流の機会を多くした。
	3. きょうだい児支援	遊びの場の提供		
	重点方針	地域とともに育む子育ての環境づくり		
具 体 策	1 機関連携	保育所訪問支援 健診保育・連携 実習生受け入れ ボランティア受け入れ	実施内容	・保育所訪問し就園後の情報交換を行い、水島・児島地区の健診保育への協力を通して保健師等と連携。発達が気になる児の早期発見と資源へつなぐ支援を実施。 ・29年度から保育所等訪問支援事業開始しつなぎの支援強化。 ・保育士や社会福祉士取得実習を大学、短大、高校など複数校受け入れ、教育効果をあげている。 ・地域住民、主任児童委員、学生等受け入れ顔見知りが増えた。 ・保護者OB、単独通園保護者、サポートー養成修了者がボランティアで活躍、活気が出てきた。
	2. アウトリーチ	多問題家族、被虐待児		保健師、学校、病院、児家セン、行政等と連携し支援
	3. 地域住民への理解と啓蒙活動	ひろばにじいろ		・にじいろ出向職員を軸に発達障がいに関する基本相談とつなぐ支援を強化し、相談～支援につなぐ、人と人をつなぐ、人と機関をつないできた。結果、保健師、ゆめはる、保育園等地域関係機関や住民に周知、活用が多くなった。 ・センター保護者OBらがボランティアとして定着、ゆめいろ・なないろ利用の母親のよき話し相手となり、敷居の低い相談場所として機能してきた。

		大学、福祉施設等とのコラボ	さくよう大学との就活プロジェクトに職員参加、倉敷芸術科学大学との連携もでき次年度造形活動に活かしていく。特養とコラボしキッズボランティアを定例化。
--	--	---------------	---

■中期経営計画に対する事業所単独の取組み■

目標	具体策	実施内容
利用者主体の支援計画にもとづく支援の実施	ICF をベースにしたアセスメントを活用した包括的支援の定着化（2年目）	多職種が支援会議に参加。利用者への包括的支援は軌道に乗ってきた。

■第三者評価に対する取組み■

取組み内容	実施内容
事業計画に対する職員参加の充実～特に地域との交流・連携の視点から～	○サポーター養成講座 ○市民への啓発活動（下記）に7名職員派遣 ・水島民児協総会講演　・子育て応援講座 ・メンター研修講師　　・高校や大学の講師
子どもの生活の幅を広げるための多様な体験の機会提供	・児童館主催クリスマス会や水島中央図書館絵本の読み聞かせに参加し、地域の児童と共に楽しんだ。 ・認知症利用者との交流：認知症の方が創作したフェルト玩具で一緒に遊び、楽しい時間を共に過ごした。 ・地域の特養でキッズボランティア活動 お掃除ボランティアを行い（車椅子拭き、床掃除）、感謝状をいただき、晴れがましい児の姿が認められた。地域の多様な活動に参加し、児が想像以上に環境に適応し楽しめること、人の役に立つ経験を通して児が誇りを体現できると分かった。
プライバシー保護マニュアル作成・周知	プライバシー保護マニュアルを作成、周知した。

■地域公益事業活動■

活動内容	実施内容
------	------

発達支援についての地域住民向け啓蒙活動	<p>○ サポーター養成講座（通年開催、受講者 20 名限定） 本講座は法人理念を実現する第一歩の事業として位置づけ幹部職員が担当した。受講者は、保護者、幼稚園職員、学校支援員、民生児童委員、地域住民である。学びの場を介し知り合い、語り合い、子どもたちが暮らす地域状況を理解しあった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初級編、中級編、上級編全て演習とし、3 回目には体験実習で障がい児と触れ合い学びを深めた。 ・修了者には学びを活かす活躍の場を提供了。
○ひろば にじいろと協働し、地域の発達障がいニーズに応える	<p>・基本相談（地域の発達障がい支援に関する無料相談：センター1名、ひろば出向1名を配置） つなぎの支援と資源開発 必要な社会資源への調整を行った（親子、単独、他機関、他事業所へ）が、年度後半より親子通園入所待機者が増加したため、「プレ療育」（無料）を創設し待機中の母子へのフォローアップ支援を開始した。</p>

■行事報告■

行事名	実施月	実施内容
入園式	4月	新入園児歓迎・紹介
新入園児、在園児保護者説明会	4月	法人理念・方針、センター事業方針等説明
家庭訪問	5月	保護者と面談、家庭環境把握、プラン作成
夏祭り（単独・親子）	7月	季節の行事を保護者、住民と楽しむ
年長児課外活動（単独）	8月	就学に向けセンター外活動を体験
One De-march（単独・親子）	10月	保護者と共に地域の公園まで歩き体力向上
芋ほり	10月	保護者とスマイル畑で収穫を楽しむ
発表会	11月	成長した児の姿を共有、子育て意欲を喚起
Xmas会	12月	楽器・歌・贈り物・会食など住民と楽しむ
在園児・新入園児説明会	3月	支援の方向性を共有するため事前説明
お別れバス旅行（保護者会主催）	3月	園児、保護者・家族・職員がバス2台でおもちゃ王国へ
卒園式	3月	卒園児（幼稚園2人、小学校13人）

■利用者状況■

I 利用者動向															単位:人		
■単独通園 定員32名																	
項目/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	差異	累計月	差異	
実績	767	743	756	814	796	828	820	1182	744	760	732	761	761	-	9,703	-	
計画	725	752	799	826	836	819	845	807	792	787	742	792	792	-31	9,522	181	
昨年度実績	694	711	753	799	736	753	791	742	737	713	726	750	750	11	8,905	798	
開所日	実績	21	21	22	22	23	22	23	22	21	22	20	22	22	-	261	-
	計画	20	20	22	23	21	21	23	21	22	21	20	21	21	1	255	6
	昨年度	20	20	22	22	21	21	23	21	22	21	20	21	21	1	254	7
月平均利用者数	36.5	35.4	34.4	37.0	34.6	37.6	35.7	53.7	35.4	34.5	36.6	34.6	34.6	-	-	37.2	-
稼働率	114%	111%	107%	116%	108%	118%	111%	168%	111%	108%	114%	108%	108%	-	116%	-	
昨年度稼働率	108%	111%	107%	113%	110%	112%	107%	110%	105%	106%	113%	112%	112%	-4%	110%	7%	
■親子通園 定員16名															単位:人		
項目/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	差異	累計月	差異	
実績	159	190	232	313	357	379	379	375	351	306	314	364	364	-	3,719	-	
計画	263	297	320	306	318	328	339	313	312	315	291	334	334	30	3,736	-17	
昨年度実績	195	229	289	294	274	287	312	263	271	268	288	314	314	50	3,284	435	
開所日	実績	20	21	22	22	23	22	23	22	21	22	20	22	22	-	260	-
	計画	20	20	22	23	21	21	23	21	22	21	20	21	21	1	255	5
	昨年度	20	20	22	22	21	21	23	21	21	21	20	20	20	2	252	8
月平均利用者数	8.0	9.0	10.5	14.2	15.5	17.2	16.5	17.0	16.7	13.9	15.7	16.5	16.5	-	-	14.2	-
稼働率	50%	57%	66%	89%	97%	108%	103%	107%	104%	87%	98%	103%	103%	-	89%	-	
昨年度稼働率	61%	72%	82%	84%	82%	85%	85%	78%	81%	80%	90%	98%	98%	5%	81%	8%	
■タイムケア															単位:人		
項目/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	差異	累計月	差異	
実績	82	93	92	119	117	124	117	128	113	101	137	115	115	-	1,338	-	
計画	99	119	109	100	99	120	109	108	103	103	94	113	113	2	1,276	62	
昨年度実績	50	75	75	87	70	77	101	69	74	72	79	79	79	36	908	430	

●利用者支援目標

<児童発達支援センター>

センターに通うことをきっかけに、やりたいこと、求めていることが満たされ、「楽しい」「大好き」「できた」経験を積み重ね、親子の愛着形成の基礎づくりとし、“不安な子育て”から“楽しい子育て”ができるよう支援した。また、個々の理解力に応じて自分で判断し行動する力を育て、月齢・発達に応じたADLの獲得（「できる」）経験を積み上げた。

■保護者・家族との交流■

○保護者のリフレッシュの機会と場を提供し、保護者同士のつながりの強化を図った。

○保護者のエンパワメント

- ・先輩ママとしての活躍の場を提供しエンパワメントと自己肯定感の醸成を図った。その結果、にじいろで開催する“ゆめいろ”“なないろ”ボランティア、親子通園ボランティア、プレ療育ボランティア、花壇づくり等々積極的参加者が増えた。

- ・特技を活かし児童、保護者や職員にもシェア

アロママッサージ、ピアノ演奏等の特技を子どもや他の保護者にもシェアして貰った。

■事業所研修■

研修項目	実施月	実施内容
虐待防止、人権研修	4月	子どもの権利を理解させ、代弁者として日常支援に活かせる研修内容にした。
フクシに従事する者の職業倫理	5月	支援者に必要な倫理を理解させ、子どもを尊厳をもって対応する必要性と自立支援について研修した。
発達検査の取り方（遠城寺、キッズ）	6月	発達検査法を学習することにより、子どもの生活のしづらさの背景を知る手がかりとした。
接遇とコミュニケーション	7月	職業人として基本的な人への接し方を学び、日常対応に活かすようOJTした。
幼児期の発達	8月	幼児の定型発達を学習し、こどもとして成長・発達の全体像を捉える機会とした。
自閉症スペクトラムの特性	9月	自閉症の特性を学ぶことにより、一人ひとりの子どもがもつ生活のしづらさを理解し、共感的支援ができる機会とした。
職員のストレス対処方法の理解と自己実現	10月	上手なストレス対処方法を学び、職業上の葛藤を軽減し、自己実現を図る一助とした。
身体・運動・感覚面の発達と支援の視点	11月	子どもの身体、運動、感覚の発達を構造的に理解し、支援に活かす機会とした。
自閉症スペクトラム児への関わり方	12月	好ましい自閉症児との関わり方を理解し、日常支援に役立てるようにした。
保護者の理解、支援者としての関わり方	1月	障がいをもつ子の親がもつ心理、立場を総合的に理解し、共感的支援ができる機会とした。
食事支援について	2月	発達障がい児の食の特徴と支援のあり方が理解し、日々の食支援に活かす機会とした。
児童発達支援センターの役割（次年度方針）	3月	4月1日に延期した。

■ワークライフバランスに対する取組み■

定時退社ができるよう業務の整理を行い、周知した。

■防災・安全・衛生活動■

防災：毎月1回防災訓練（地震は年2回、火災は毎月、水島消防署来所指導は年1回）実施、備蓄もした。安全：不審者対応訓練を水島警察署の指導のもと年2回実施、防犯カメラを四方に設置。

■その他特記事項■

なし

平成 28 年度事業報告

きらり倉敷

■事業実施概要■

地域で生活していくことを念頭に、関係機関との連絡を積極的に行った。具体的に園訪問や電話での状況把握、連絡帳でのやりとりを行った。また、家庭環境等により療育以外のアプローチが必要なケースに関しては関係機関（園、小学校、相談支援員）との連絡相談を丁寧に行い、包括的な支援を考えた。次年度も、子どもが地域で活き活きと生活していくよう多方面からのアセスメントと専門的な療育を考え進めていきたい。

■重点方針■

重点方針		子どもの豊かな発達支援		
利用者支援目標	具体策	実施内容		
		①-1 法人階層別研修	・法人人材育成プロジェクト計画に沿い実施。 ・法人事業グループの計画に沿い実施。 ・拠点センターへ参加。	
		①-2 専門研修		
		①-3 拠点研修・事業所研修。		
		①-4 第三者評価受診後の改善		
		②専門研修(人権・人権に基づいた支援提供)	・子どもの尊厳と人権に基づいた支援提供。	
		③-1 グループ内での専門職連携	・OT 配属(12 月まで)。 ・ST 専攻職員配属。	
		③-2 地域機関との連携	・園訪問、電話、連絡帳のやりとり等により、利用者のタイムリーな情報の共有。	
		③-3 ケース会議の参加	・栄養士による食事に関するアセスメント。 ・相談支援専門員によるモニタリング後の情報の共有。 ・相談員、保護者、きらり間でのケース会	

				議。	
	重点方針	家族の子育て力の強化支援			
家族支援目標	①保護者との協働関係の強化	具体策	①-1 ペアレントトレーニングの実施	実施内容	・拠点を軸に、ペアレントトレーニングに参加(6回/1クール)。
			①-2 保護者勉強会の開催		・拠点センターでの勉強会に参加。
			①-3 個別懇談の実施		・懇談を随時、面談室にて実施。 ・年長児保護者を対象に就学前懇談。(2回/年)
			①-4 保護者のニーズ把握。		・意見箱の設置。 ・保護者要望書の配布 ・引継ぎ時確認。
	②家庭訪問		②困り感をもつ保護者への関わり方を支援する。		実施なし。
	③兄弟児・祖父母支援		③リフレッシュ		実施なし。
	重点方針		生涯生活できる地域環境づくり		
地域支援目標	① 機関連携	具体策	①-1 所属機関訪問支援	実施内容	・定期的な園との情報の共有(書面や電話等) ・定期的な所属機関への訪問の実施。 ・訪問後保護者への情報提供(懇談・報告書)
			①-2 健診保育への参加		・計画に基づいて実施
	② アウトリーチ		②障害児相談支援 関係機関への出向き支援		実施なし。
	③ 地域住民への理解・啓蒙活動		③栗の家(地域交流スペースの活用)クラコトへ 参加		・クラコトへ参加。

■中期経営計画に対する事業所単独の取組み■

目標	具体策	実施内容
利用者主体の支援計画に基づく支援の実施	障がい特性のために生活のしづらさを感じている個々の子どもたちの生活しにく	4月、10月 (モニタリング後の再アセスメント実施後)

	い環境の改善を図る視点でアセスメントし支援計画に基づいた支援を実施。支援後はモニタリングを実施。	
--	--	--

■第三者評価に対する取組み■

取組み内容	実施内容
関係者が見やすく内容が伝わりやすい連絡帳の改善。	見方の説明書（プロンプトの説明）作成。平成29年4月に配布済。
園や学校との連携手段を再検討。	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者からの要望以外にも、事業所から保護者に発信。 ・利用児が所属している園(学校)を訪問し、利用児への支援や、支援者が感じる課題に対し、具体的な関わりや、環境調整を行う。

■地域公益事業活動■

活動内容	実施内容
発達支援について地域住民向け啓蒙活動 (ホームページ、広報誌による情報発信)	広報誌5月・11月 ホームページブログ2回更新
ひろばと連携・協働し地域の発達ニーズに応える (発達障害について、きらり事業所紹介。専門職の派遣)	実施なし。

■行事報告■

行事名	実施予定月	実施内容
個別懇談	隨時	子どもの家庭での様子を聞き取り、保護者のニーズを引き出し、療育の中に取り入れた。
就学前懇談	5・6月(前期) 9・10月(後期)	年長児の保護者を対象に実施。保護者の就学への不安の解消と就学

		にあたってのニーズ調査を実施。	
就学に関する勉強会		6月	教育委員会の教員を講師に招いた倉敷学園の勉強会に参加。
クッキング		8・12月	学童を対象に実施
		毎月最終日	年長児を対象に実施

■利用者状況■

平成28年度 3月予算実績管理表														事業所名: きらり倉敷		責任者名: 久保田 奈穂美					
I 利用者動向																					
■児童発達支援 定員10名																					
項目/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	差異	累計月	差異					
実績	172	183	224	199	219	215	203	216	205	209	203	213	213	-	2,461	-					
計画	150	170	231	210	220	231	220	231	210	199	209	209	209	4	2,490	-29					
昨年度実績	162	181	231	230	202	199	229	207	218	219	210	220	220	-7	2,508	-47					
■放課後デイサービス																					
項目/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	差異	累計月	差異					
実績	31	15	34	32	24	30	27	29	27	25	29	30	30	-	333	-					
計画	20	20	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	3	310	23					
昨年度実績	17	24	26	21	28	21	21	28	34	32	19	22	22	-	293	-					
II 月間開所日																					
項目/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	差異	累計月	差異					
実績	21	21	25	23	25	25	24	25	24	22	23	22	22	-	280	-					
計画	21	21	25	23	25	25	24	25	23	22	23	23	23	-1	280	0					
昨年度実績	20	22	25	24	23	21	24	22	23	22	22	22	22	0	270	10					
III 月平均利用者数																					
項目/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	差異	月平均	差異					
実績	9.7	9.4	10.3	10.0	9.7	9.8	9.6	9.8	9.7	10.6	10.1	11.0	11.0	-	10.0	-					
計画	9.0	9.3	10.3	10.5	10.0	10.5	10.4	10.7	11.0	11.4	10.4	11.0	11.0	0.0	10.4	-0.4					

●利用者支援目標

発達に何らかのつまずきや遅れのあるお子さんを対象に、一人ひとりがその子らしい生活を確立できるように個別支援を実施。

■保護者・家族との交流■

登降園時に家庭や所属機関での様子を伺った。また、きらりでの療育内容の説明や家庭で取り組める支援を提案。その際、連絡帳や使用した物品を紹介しながら説明を行った。

■事業所研修■

研修項目	実施月	実施内容
		<p>実施なし。</p> <p>事業所責任者交代、キャップ産休等が重なり事業所内での設定が困難であった。</p> <p>しかし、日々の終礼等により児の支援について話し合いの時間を設けた。</p>

■ワークライフバランスに対する取組み■

- ・責任者からその他職員へ向けて有給取得を促した（毎月）。
- ・デスクワークの時間を設け、仕事の効率化を図った。

■防災・安全・衛生活動■

- ・毎週末にチェックリストを基に衛生管理に努めた。
- ・毎月末にチェックリストを基に安全点検を行った。
- ・年間3回利用児と共に避難訓練を実施。

■その他特記事項■

なし

平成 28 年度事業報告

きらり児島

■事業実施概要■

きらり児島は、まず利用児の権利を守ることを大前提と捉えることができる支援者の育成の為、毎月事例を通して権利擁護研修を行ってきた。また利用児の特性の把握だけでなく、生活の大半を過ごす園や学校、家庭訪問を実施し、家庭や地域の中での姿を数者で共有し課題を共通認識した上で支援にあたることができた。加えて家庭や地域と関わりを持つことで、定期的な園・学校訪問、利用児の連絡帳のやりとりに繋がり、いつでも連携がとれる体制になってきた。

■重点方針■

重点方針		子どもの豊かな発達支援		
利用者支援目標	具体策	実施内容		
		①- 1 法人階層別研修	• 法人人財育成プロジェクト計画に沿い参加した。	
		①- 2 専門研修	• 法人事業グループ計画に沿い参加した。	
		①- 3 拠点研修	• 拠点センターと合同で参加した。	
		①- 4 第三者評価受審後の改善の実施	• 専門研修にて必要な療育的知識・技能を習得した。 • 事業所内の環境を明るく整える（季節の壁面制作）	
		②事業所内研修	• 月1回権利擁護研修を行った。	
		③- 1 グループ内での専門職連携	• O.Tと対象児のアセスメントと指導を実施した。 • 栄養士による食事アセスメントを実施した。	
		③- 2 地域機関との連携	• 保健師・相談支援専門員・園等の地域の関係機関とのタイムリー	

					な情報交換を実施した。 ・対象となる児のケース会議や移行会議等を相談支援専門員や所属園・学校、保護者と実施した。
	③-3 ケース会議の参加	家族の子育て力の強化支援			
家族支援目標	①保護者との協働関係の強化	具体策	①-1 ペアレントトレーニングの実施	実施内容	・年間1クール(全6回)実施 保護者2名参加。
			①-2 保護者勉強会・座談会		・拠点きらり合同で拠点専門職による勉強会・座談会(5・11・2月)を実施した。保護者数名参加。
			①-3 家族療育の実施		・年1回社会活動実施 ・毎月家族見学週間実施
			①-4 個別懇談の実施		・就学前懇談(夏季・秋季) ・随時実施
			①-5 保護者ニーズ把握		・行事後アンケート実施 ・保護者要望書、家庭訪問を活用して把握。
	②家庭訪問		②保護者への関わり方の支援		・家庭訪問にて家庭での様子の聞き取りを行ったり、一緒に関わりを考えたりした。
	③きょうだいじ支援		③リフレッシュ		・社会活動実施時に兄弟児保育実施 ・栗の家の活動に参加はできていない。保護者への案内は行った。
	重点方針	生涯生活できる地域環境づくり			
地域支	①機関連携	具体策	①-1 所属機関訪問支援 (定期的に園・学校訪	実施内容	・定期的な園・学校訪問や見学受け入れを実施した。今年度は利用

援 目 標		問、見学受け入れ)		児の全園に訪問する事ができた。
		①-2 健診保育への参加		・計画に基づき健診へ参加した。
		①-3 実習生・ボランティアの受け入れ		・受け入れマニュアルに基づきボランティアの受け入れを実施。1名アルバイトに繋がっている。
		②アウトリーチ		・出向き支援にて地域の課題を抱えている人達の抽出はできていない。
		③地域住民への理解		・クラコトに参加。利用児も数名参加。
		啓蒙活動		・利用児や退所した方への案内を個別で行った。

■中期経営計画に対する事業所単独の取組み■

目標	具体策	実施内容
①利用者主体の支援計画に基づく支援の実施	・障がい特性のために生活のしづらさを感じている個々の子どもたちの生活しにくい環境の改善を図る観点でアセスメントし支援計画に基づいた支援を実施する。支援後はモニタリングを実施。	4・10月 随時(モニタリング後の再アセスメント実施後)

■第三者評価に対する取組み■

取組み内容	実施内容
①職員の療育的知識・技術の習得	・専門研修や拠点センター研修にて学んだ。
②連絡帳の改善	・きらり各事業所統一して改善には至っていないが、事業所として必要項目を追加したり、記入すべき内容

	の統一を図ったりした。
③事業所内の環境を明るく整える（季節の壁面制作）	<ul style="list-style-type: none"> 季節に合わせた壁面制作を掲示した。 事業所のクロスや床の修繕を行い、利用児が療育を受けやすい環境に整えた。

■地域公益事業活動■

活動内容	実施内容
発達支援について地域住民向け啓蒙活動	ホームページにて発信。
ひろばと連携・協働し地域の発達ニーズに応える	基本相談機関を退所した利用児保護者に個別に紹介。 専門職を事業所に派遣し特定児のアセスメントや支援の指導を受けた。

■行事報告■

行事名	実施予定月	実施内容
保護者向け勉強会・座談会	5・11・2月	拠点専門職による幼児・学童の保護者を対象にした勉強会・座談会の実施
就学に関する勉強会	6月上旬	教育委員会の教員を講師に招いた倉敷学園の勉強会へ参加
ペアレント・トレーニング	前期：5～8月	幼児の保護者を対象に、講義やグループワークを実施
家族療育	10月 毎月	<ul style="list-style-type: none"> 利用児・保護者を対象に社会活動を実施 家族を対象に家族見学週間を実施
きょうだい児支援	10月	利用児の兄弟児を対象に保育を実施

■利用者状況■

I 利用者動向															単位:人	
■児童発達支援 定員10名																
項目/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	差異	累計月	差異
実績	158	166	199	192	221	226	216	235	212	205	202	226	226	-	2,458	-
計画	190	180	220	210	230	230	230	220	210	210	220	210	210	16	2,560	-102
昨年度実績	168	165	215	210	192	176	188	167	190	195	184	188	188	38	2,238	220

■放課後デイサービス															単位:人	
項目/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	差異	累計月	差異
実績	21	24	28	28	26	29	29	32	26	31	19	28	28	-	321	-
計画	20	30	30	30	30	30	30	30	30	30	20	30	30	-2	340	-19
昨年度実績	20	27	27	19	26	19	16	20	28	23	12	15	15	-	252	-

II 月間開所日															単位:日	
項目/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	差異	累計月	差異
実績	21	21	25	23	25	25	24	25	23	23	22	23	23	-	280	-
計画	21	21	25	24	25	25	24	24	23	23	22	23	23	0	280	0
昨年度実績	20	22	25	23	23	21	24	22	23	23	22	22	22	1	270	10

III 月平均利用者数															単位:人	
項目/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	差異	月平均	差異
実績	8.5	9.0	9.1	9.6	9.9	10.2	10.2	10.7	10.3	10.3	10.0	11.0	11.0	-	9.9	-
昨年度実績	9.4	8.7	9.7	10.0	9.5	9.3	8.5	8.5	9.5	9.5	8.9	9.2	9.2	1.8	9.2	0.7

●利用者支援目標

〈きらり児島〉

- ・発達に何らかのつまずきや遅れのある子どもを対象に、一人ひとりがその子らしい生活を確立できる力を育てる為に、アセスメントで利用児や利用児を取り巻く環境の把握を行い、支援計画を立案して支援を提供した。
- ・地域により近い立場で支援するサービスを提供する為に、園・学校や家庭で取り入れやすい支援を事業所内でまず実践し上手くいった事は園・学校や家庭に伝達した。
- ・“できた”という達成感や自己肯定感を子ども達自身が味わえるように、課題を細分化し支援にあたった。

■保護者・家族との交流■

家族見学週間にて母親のみでなく父親にも見学に来て頂き、利用児の姿を見て頂いたり、普段の様子や支援の意図を伝えたりする事で利用児の理解に繋がるようにした。

10月には利用児と保護者が参加する社会活動を実施する上で、保護者自身でねらいの立案をしたり、支援ツールを作成したり、保護者が利用児にとっての療育者となれるようサポートを行った。

■事業所研修■

研修項目	実施月	実施内容
子どもの権利擁護（拠点）	4月	子供の権利を尊重し利用者主体の実践について

		て理解できるよう講義やグループワークに取り組んだ。
利用者支援（これってどうなん？）（事業所）	5月・7月・9月・2月・	対象児を決めてグループ検討。
家族支援(家族理解と支援者としてのかかわり方について)（拠点）	6月	拠点研修対象職員（友實）が研修に参加し、事業所にて伝達講義を実施している。
チームアプローチ（拠点）	9月	〇丁の役割やどのような事を協働して取り組めるのか事業所にて説明を受けた。
事業所間実習（事業所）	夏季	未実施。
権利擁護勉強会（事業所）	毎月	事例検討や全社協セルフチェックシートを用いてセルフチェック実施。

■ワークライフバランスに対する取組み■

週に2回の定時退社。週1回は毎週定期的に実施できた。残り1日は帰宅できる時に実施した。終礼での報告内容を特記事項に絞り終礼記録を簡素化した。

■防災・安全・衛生活動■

防災…消防計画に基づき防災訓練の実施（毎月）

防災設備の点検委託 年二回

災害時を想定した常食糧の備蓄

安全…事業所内外安全点検(月一回)、

不審者訓練、救急法の研修会に参加

衛生…環境衛生(事業所周りの樹木の手入れ月1回・ゴキブリ害虫駆除年2回)実施

事業所内の消毒・玩具等消毒実施の徹底（週1回）

感染予防(園児への手洗い)、感染症に関する情報提供

■その他特記事項■

なし

平成 28 年度事業報告

きらり中庄

■事業実施概要■

H28 年度も「地域で育む子どもと子育て」を基盤に、住み慣れた地域でその子らしく生活することが出来るよう、生活状況や環境面などをアセスメントを実施し、支援の提供へと繋げてきた。地域への啓発活動としては、園訪問だけではなく、ひろば栗の家にも参加を行い、地域の方との交流を進めた。また、職員の働く環境についても、業務の分散化を行い、定時で帰宅することが出来るように業務整理も実施した。

■重点方針■

重点方針		子どもの主体性を育み支える子育て支援	
利用者支援目標	具体策		
		①人材育成	
		①-1 法人階層別研修	<ul style="list-style-type: none"> ・法人の研修計画に沿って実施。 ・発達支援事業 Gr の計画に沿って実施。 ・拠点研修には該当職員が参加。事業所研修については倉敷学園と合同で実施。 ・書式の統一。 ・サービス終了時の引き継ぎを実施。 ・意見箱を設置。
		①-2 専門研修	
		①-3 拠点研修 事業所内研修	
		①- 4 第三者評価受審 後の改善の実施	
		②事業所研修	<ul style="list-style-type: none"> ・倉敷学園と合同で実施。 ・ST、OT 共に倉敷学園内の専門職と連携し、支援の実施。
		③- 1 グループ内での専門職関連	
		③- 2 地域関係との連携	
		③- 3 ケア会議の参加	<ul style="list-style-type: none"> ・所属園のある児に関しては園訪問を全児対象に実施をしている。また、電話対応やきらりへの訪問を受け入れている。 ・該当児については実施。

			③-4 ケース会議の実施		・栄養士による食事に関するアセスメントの実施。 ・事業所内ケース会議については随時実施。
	重点方針	子育て力を高めるための保護者との協働			
家族支援目標	① 保護者との協働関係の強化	具体策	①-1 ペアレントトレーニングの実施	実施内容	・倉敷拠点で前期に1回、倉敷学園と合同で後期に1回実施（6回／1クール）
			①-2 保護者勉強会・座談会		・拠点での勉強会や座談会の実施。 ・きらり内で年3回の勉強会の実施。
			①-3 家族療育の実施		・月に1回家族見学週間を設け、見学を促した。
			①-4 個別懇談の実施		・年長児は年2回、未就園児は年1回の個別懇談を実施。 ・通所支援計画に関する懇談は、随時実施。
			①-5 保護者のニーズ把握		・意見箱の設置。 ・保護者要望書の配布 ・送迎時の引き継ぎの実施。
	②家庭訪問	具体策	②新規療育開始児童（2～3歳児）及びセンター退園後、地域ときらりの併用児の家庭での様子と要望、助言に応じる		・新規療育開始児について全員の家庭訪問の実施。
	③兄弟児・祖父母支援		③各対象別支援の実施（療育の基礎講義と余暇支援等理解を促す支援実施）		・兄弟児参観、祖父母参観を年1回ずつ実施。
	重点方針	地域とともに育む子育ての環境づくり			
愛日票 地域支	①機関連携	具体策	①-1 所属園との情報共有及び事業所見学・園訪問の実施	実施内容	・全園児対象に所属園訪問の実施。 ・希望園からのきらり

			の見学の受け入れ。 ・電話での相談や、支援グッズの共有を実施。
	①-2 健診業務へ参加し地域支援を図る		・計画にもとづいて実施。
②アウトリーチ	障害児相談支援		・園訪問時に別児童についての相談の受付。 ・栗の家の活動の中で相談の受付。
③地域住民への理解・啓蒙活動	③-1 栗坂地区交流スペースの活用		・月2回の栗の家の活動に参加。
	③-2 クラ☆コト		・クラコトへ参加。

■中期経営計画に対する事業所単独の取組み■

目標	具体策	実施内容
利用者主体の支援計画に基づく支援の実施	・障がい特性のために生活のしづらさを感じている個々の子どもたちの生活しにくい環境の改善を図る視点でアセスメントし支援計画に基づいた支援を実施する。支援後はモニタリングを実施。	アセスメントシートの原稿の見直しを実施。アセスメントについては、日々の連絡帳や通所支援計画書の中で実施。その後、モニタリングを実施。

■第三者評価に対する取組み■

取組み内容	実施内容
○サービス終了時の引継ぎ ○個別支援計画策定に伴う課題 ○記録様式を統一	サービス終了時の引き継ぎについては、引き継ぎ書類を作成し、各小学校へ直接引き継ぎを行った。また、個別支援計画策定については、事前に案を持ちより、多方面の視点からプランを立案している。 記録様式の統一については、全事業所で連絡帳の書式の統一を図った。

○個人の尊厳に尊重に関する取り組み ○提供しているサービスと定められた基準事項や手順等との整合性の点検	個人情報に関する内容については契約時に書面で確認し、再度その必要性が出てきた場合に保護者へ確認を取っている。また、点検については、外部からの目で見る公開療育の機会はなかった為、H29年度には実施していく。
○業務の一定水準維持のための様々な取り組み ○地域の関係機関と連携を取りながら支援を行う	職員間での意識の統一に関しては、法人全体としての嘱託職員に対する研修と、療育終了後に毎日実施する振り返りの中で、話し合いを実施している。 地域との関係性については、園訪問を行う中で、情報交換を実施している。また、ひろば栗の家の活動に参加をした。

■地域公益事業活動■

活動内容	実施内容
発達支援について地域住民向け啓蒙活動	広報誌の配布。ホームページの更新。
ひろばと連携・協働し地域の発達ニーズに応える	ひろば栗の家を利用後、きらり中庄の利用へと繋げた。

■行事報告■

行事名	実施予定月	実施内容
療育開始児童（2～3歳児）対象 親子でふれあい楽しい療育	4～6月	希望保護者には実施。就労している保護者も多く、希望者は少ない。
事業所内 保護者向け勉強会・座談会	7・10・1月	発達障がいについて、発達検査について、サポートブックについての内容の勉強会・座談会の実施。
倉敷拠点 保護者向け勉強会・座談会	5・11・2・月	専門職からの勉強会には参加。
きょうだい児支援	12月	希望者に対して実施。
祖父母支援	11月	希望者に対して実施。

就学に関する勉強会	6月上旬	倉敷市、岡山市の教育委員会の職員を講師に招いて実施。
クリスマス会	12月	倉敷学園のクリスマス会に参加。
ペアレントトレーニング	4月～7月	前期のみでなく、後期も実施、

■利用者状況■

I 利用者動向																
■児童発達支援 定員10名																
項目/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	差異	累計月	差異
実績	179	188	246	217	238	232	224	225	210	219	208	216	216	-	2602	-
計画	155	185	228	230	231	231	241	241	218	228	218	198	198	18	2,604	-2
昨年度実績	129	166	233	241	235	214	246	213	223	211	215	216	216	0	2,542	60

■放課後デイサービス																
項目/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	差異	累計月	差異
実績	17	15	23	17	12	17	16	14	16	12	12	12	12	-	183	-
計画	18	18	18	19	22	22	22	22	16	16	16	16	16	-4	225	-42
昨年度実績	15	17	28	19	18	17	12	17	15	16	12	14	14	-2	200	-17

II 月間開所日																
項目/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	差異	累計月	差異
実績	21	21	25	24	24	24	25	25	23	24	22	22	22	-	280	-
計画	20	21	25	24	24	24	25	25	23	24	23	21	21	1	279	1
昨年度実績	20	22	25	24	23	21	24	22	23	21	22	23	23	-1	270	10

●利用者支援目標

- ・発達に何らかのつまずきや遅れのある子どもを対象に、一人ひとりがその子らしい生活を確立できる力を育てることを目指す。
- ・子どもの発達や特性に応じた方法を通し、地域により近い立場で支援するサービスを提供する。
- ・“できた”という達成感や自己肯定感を子ども達自身が味わえるように、スマールステップで取り組む。

上記のことに対し、生活の中で子どもがその子らしく生活が出来るようアセスメントを実施した。家庭での様子も聞き取る中で、家庭での困り感にもよりそう支援を実施した。また、子どもが達成感を感じられるよう、支援の手立てを検討するように実施した。

■保護者・家族との交流■

・家族見学週間（毎月）

毎月第3週目を家族見学週間とし、保護者へも発信をした。その際、希望者の方に對しては別室から見学していただくことで、きらり中庄での取り組みや子どもの様子を見ていただくことが出来た。

■事業所研修■

研修項目	実施月	実施内容
権利擁護について	3ヶ月/1回	倉敷学園と合同で実施。
家族支援（家族理解と支援者としての関わり方にについて）	3ヶ月/1回	倉敷学園と合同で実施。
合理的配慮について	3ヶ月/1回	倉敷学園と合同で実施。

■ワークライフバランスに対する取組み■

週に2回の定時退社を実施することができ、概ねどの曜日も遅くとも18時までには帰宅することができた。

■防災・安全・衛生活動■

防災…月に1回、倉敷学園と合同で避難訓練を行った。また、消防署の職員にも来所して頂き、火災訓練を実施した。

また、防災設備の点検も実施し、災害時を想定した常備食料の備蓄を実施している。

安全…安全点検実施表を使用し、月に1回点検を実施している。不審者訓練を避難訓練計画の中に入れ、取り組みを実施している。保護者への送迎時の交通マナーについても書面で啓発活動を実施。救急法についても年1回、講習会を実施している。

衛生…害虫発生時には、業者に依頼し、駆除、消毒の実施。事業所内については、最低週に1回はカード、玩具の消毒を実施。保健便りを毎月発行することにより、保護者へも情報提供を実施している。

■その他特記事項■

なし

平成 28 年度事業報告

きらり玉島

■事業実施概要■

発達支援事業グループが大切にしたい価値観は、「地域で育む 子どもと子育て」であり、子どもたちが内在している生きる力を最大限發揮できるように、培った知識や技術、人間力を發揮し支援をしていきたいという思いを基に、きらり玉島では発達障がいのある子ども達が生活しやすい地域作りを共に目指すため地域の関係機関との情報共有の実施、更に地域の社会資源であるかたつむりの会やちーむ玉島修活 PJ 等、地域で育む活動を行った。今後も継続して地域を根ざした活動を継続的に取り組んでいきたいと考える。

■重点方針■

重点方針		子どもの主体性を育み支える子育て支援		
利用者支援目標	重点方針	具体策	実施内容	実施内容
	1. 人財育成 2. 子どもの権利擁護	<ul style="list-style-type: none"> ・法人階層別研修 ・専門研修 ・水島拠点（3事業所）合同研修 		<ul style="list-style-type: none"> ・法人階層別研修及び専門研修に参加。 ・水島拠点合同研修を実施し、知識及び支援内容の統一化を図った。
3. 専門性の開拓と多職種協働による包括的な支援		<ul style="list-style-type: none"> ・アセスメントから支援計画までの流れの構築と実践 ・C クムレとの連携 		<ul style="list-style-type: none"> ・アセスメントシートを使用し、通所支援計画会議を実施し計画書を立案。支援実施済。 ・ケア会議の実施（年2回 実施済） ・サポーター養成講座に参加しサポーター養成講座の育成に努めた。
重点方針		子育て力を高めるための保護者との協働		
家族支援目標	1. 保護者とのコミュニケーションによる協働関係の構築	具体策	実施内容	実施内容
	2. 家庭訪問（在宅児）			
		<ul style="list-style-type: none"> ・ペアトレ ・保護者勉強会 ・座談会 ・家族見学週間 ・個別懇談 ・保護者ニーズの把握 	<ul style="list-style-type: none"> ・前期、後期で実施済 ・年2回実施済 ・年2回実施済 ・毎月第3週で実施済 ・随時実施済 ・アンケートを実施し勉強会や座談会内容の実施済 	<ul style="list-style-type: none"> ・在宅児の全児の家庭訪問を実施し情報共有実施済

	3. きょうだい児支援		・家族療育		・家庭訪問時や懇談その他送迎時の際にきょうだいの関わりを伝達済
	重点方針	地域とともに育む子育ての環境づくり			
地域支援目標	1. 機関連携	具体策	・健診保育 ・実習生、ボランティアの受け入れ	実施内容	・玉島健診保育参加済 ・ボランティア 1 名受け入れ実施済
	2. アウトリーチ		・園訪問		・園に所属している全児の園訪問実施済
	3. 地域への理解、啓発活動		・かたつむりの会 ・ちーむ玉島修活 PJ ・C クムレの行事の手伝い		・2か月に1度の開催で参加済。OB 方及び他の保護者や関係機関と実施済。 ・さくよう大学の橋本先生や学生、その他の関係機関と実施済。 ・センター養成講座に参加しセンター養成講座の育成に努めた。

■中期経営計画に対する事業所単独の取組み■

目標	具体策	実施内容
権利擁護を実践できる職員育成	・専門研修 ・支援の振り返り（終礼） ・ケース会議 ・チームアプローチの充実 他機関連携・グループ内）	・専門研修を実施し講義及びグループワークを行い、学びを深めた ・終禮で支援の振り返りを実施、不適切な関わり、適切な関わりについて話し合った ・他機関と連携しケア会議実施済

■第三者評価に対する取組み■

取組み内容	実施内容
（支援計画に基づく支援の実施） グループ内でアセスメントから通所支援計画まで様式を統一化	通所支援計画書を作成し支援を実施し、運用が円滑にできるように勉強会を実施。

■地域公益事業活動■

活動内容	実施内容
かたつむりの会 (玉島地区の保護者との集い)	2か月に1回開催、参加。地域で生活するOBを含む保護者と座談会を行い関係機関が保護者の悩みに耳を傾け、一緒に考えた。
ちーむ玉島修活PJ (玉島地区の機関連携作り)	2か月に1回開催、参加。他機関と顔の見える関係性を構築し、事例発表を行い支援者としての視点を共有した。

■行事報告■

行事名	実施予定月	実施内容
家族見学週間	毎月	毎月第3週に実施した。
保護者勉強会	拠点で年2回	拠点の保護者勉強会にきらり玉島の保護者が参加した。
保護者座談会	9月、1月	勉強会後年2回実施済
個別懇談	随時	随時実施済。
ペアトレ	年数回(拠点で)	前期・後期の年2回実施済
きょうだい児支援	年1回	きょうだい児のみの活動は未実施。引き継ぎ時、保護者にきょうだい児対応方法伝達。

■利用者状況■

平成28年度 3月予算実績管理表		事業所名:きらり玉島												責任者名:大隅 淳代																	
I 利用者動向																															
■児童発達支援 定員10名																															
項目/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	差異	累計月	差異															
実績	183	191	212	199	196	210	211	232	206	205	192	217	217	-	2,454	-															
計画	190	190	220	220	220	230	220	230	210	220	200	210	210	7	2,560	-106															
昨年度実績	172	185	201	208	196	201	237	200	215	205	202	201	201	16	2,423	31															
■放課後デイサービス																															
項目/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	差異	累計月	差異															
実績	20	10	22	25	23	23	17	19	22	16	17	24	24	-	238	-															
計画	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	4	240	-2															
昨年度実績	20	17	21	17	16	19	16	15	16	15	13	14	14	-	199	39															
II 月間開所日																															
項目/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	差異	累計月	差異															
実績	21	21	24	24	24	25	24	25	23	23	23	24	24	-	281	-															
計画	21	21	24	24	24	25	24	25	23	24	22	23	23	1	280	1															
昨年度実績	20	22	25	24	23	21	24	22	23	22	22	22	22	2	270	11															
III 月平均利用者数																															
項目/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	差異	月平均	差異															
実績	9.7	9.6	9.8	9.3	9.1	9.3	9.5	10.0	9.9	9.6	9.1	10.0	10.0	-	9.6	-															
昨年度実績	9.6	9.2	8.9	9.4	9.2	10.5	10.5	9.8	10.0	10.0	9.8	9.8	9.8	0.3	9.7	-0.1															

●利用者支援目標

<児童発達支援>

ひとり一人の発達特性に合わせた支援を行い、家庭や地域と連携しながら児童の生活の質をあげていけるように支援した。

<放課後デイサービス>

ひとり一人の発達特性に合わせた支援を行い、家庭や地域と連携しながら児童の生活の質をあげていけるように支援した。

■保護者・家族との交流■

行事計画と同様。

■事業所研修■

水島拠点 3 事業所は合同研修（全 12 回）

研修項目	実施月	実施内容
虐待防止（専門研修）	4月	子どもの権利を理解し、代弁者として日常支援に生かすことができる内容の講義実施済
発達検査（遠城寺、キッズ）のとり方	5月	発達検査法を学び、子どもの生活しづらさの背景を知る手がかりとする内容の講義実施済
接遇とコミュニケーション方法	6月	職業人として基本的な人への接し方を学ぶ内容の講義実施済
幼児期の発達	7月	幼児の定型発達を学習し、子どもの全体像を理解できる内容の講義実施済
自閉症スペクトラムの特性	8月	自閉症の特性を学び、生活のしづらさを理解し、共感的支援ができる内容の講義実施済
職員のストレス対処方法の理解と自己実現	9月	上手なストレス対処を学び、自己実現を図る一助とする内容の講義実施済
保護者の理解、支援者としての関わり方	10月	障がいもつ子の親の立場を総合的に理解し、共感的支援ができる内容の講義実施済
自閉症児スペクトラム児への関わり方	11月	好ましい自閉症児との関わり方を理解し、日常支援に役立てる内容の講義実施済
身体・運動・感覚面の発達と支援の視点	12月	子どもの身体、運動、感覚の発達を構造的に理解し、支援に生かす内容の講義実施済
食事支援について	1月	発達障がい児の食の特徴と支援のあり方が理解できる内容の講義実施済

福祉に従事する者の職業倫理	2月	支援者として必要な倫理を理解し、子どもの尊厳と自立を支援できる内容の講義実施済
法の理解と児童発達支援センターの役割（次年度に向けて）	3月	法で定められたセンターの機能・役割、次年度計画の理解内容の講義実施済

■ワークライフバランスに対する取組み■

業務整理や役割分担を行い、毎日18時までには退社できるような職場作りをした。

■防災・安全・衛生活動■

- ・防災訓練を計画に沿って実施済。
- ・安全チェック表を用いて衛生面、環境面のチェックの実施済。

■その他特記事項■

なし

平成 28 年度事業報告

きらり水島

■事業実施概要■

きらり水島は、水島地区の発達支援を必要とするお子さん、ご家族、園と小学校への支援を実施してきた。支援内容としては、お子さんの発達特性に応じて個別支援を行い、支援内容をご家族と共有した。また、地域の園や小学校での生活において、お子さんが生活しやすいよう、訪問し、先生方と支援方法を共有している。特に、小さくら保育園とはチームで支援を組み立てており、発達特性のあるお子さんが地域で生活しやすくなることを目的として実施した。

■重点方針■

重点方針		子どもの主体性を育み支える子育て支援		
利用者支援目標	人材育成 子どもの権利擁護	具体策	法人階層別研修 専門研修 拠点研修	実施内容 3種の研修を受講した。受講後、現場で活かしたり、振り返りをしながら学びを深めたりした。 児童家庭支援センターとの連携、相談支援事業所とのやりとりを行い支援に活かした。
	多職種協働による包括的な支援		専門職との連携 地域機関との連携	
重点方針		子育て力を高めるための保護者との協働		
家族支援目標	保護者との協働関係の強化	具体策	ペあとれの実施 保護者座談会の開催 親子療育の実施 個別懇談の実施 ニーズ把握	実施内容 ペあとれの開催（2 クール）、座談会の実施、親子レクリエーションの実施、懇談を実施し、保護者の力を高めた。
	家庭訪問		家庭の状況を把握	
	きょうだい児・祖父母支援		家庭の要望を把握	
重点方針		地域とともに育む子育ての環境づくり		
支援目標	機関連携	具体	小さくら保育園との連携、協働	内容実施 ケア会議 勉強会、3者懇談

		園との連携 訪問支援の充実 健診保育の参加 実習生、ボランティアの受け入れ 人材発掘事業への協力	連絡帳の共有 水島地区の園、小学校との連携 ボランティアの受け入れ等を行った。
アウトリーチ		障がい児相談支援事業	相談支援事業所とのやりとりを行った。 保健師と連携し、発達相談を受けた。
地域住民への理解・啓発活動		センターC の事業への参加	サポーター養成講座を実施した。

■中期経営計画に対する事業所単独の取組み■

目標	具体策	実施内容
利用者主体の支援計画に基づく支援の実施	アセスメント→サービス調整会議→通所支援計画の立案	アセスメント→サービス調整会議→通所支援計画の立案→日々のモニタリングのサイクルの実施

■第三者評価に対する取組み■

取組み内容	実施内容
家族支援の強化	座談会の実施、サポートブックの作成等
帳票の見直し	アセスメントシートの活用→通所支援計画書の立案

■地域公益事業活動■

活動内容	実施内容
サポーター養成講座の開催	サポーター養成講座（初、中、上級）の実施

■行事報告■

行事名	実施予定月	実施内容
幼児レクリエーション	10、12、3月	季節に合わせた活動を経験する
座談会	9、11、2月	保護者同士が集い、悩みを共有する
家族見学週間	毎月 1週間	家族が子どもの様子を把握する。
ペあとれ	年2クール	家族が子どもの行動を分析し、対応する力を養う。

■利用者状況■

I 利用者動向																
■児童発達支援 定員10名																
項目/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	差異	累計月	差異
実績	194	205	232	217	210	229	219	225	209	206	211	223	223	-	2,580	-
計画	190	200	230	220	210	220	220	220	210	210	210	220	220	3	2,560	20
昨年度実績	199	216	257	241	226	220	242	232	228	215	200	212	212	11	2,688	-108

■放課後デイサービス																
項目/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	差異	累計月	差異
実績	18	12	24	22	16	21	20	21	23	20	21	21	21	-	239	-
計画	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	1	240	-1
昨年度実績	10	10	11	10	8	8	9	10	9	9	7	8	8	-	109	130

II 月間開所日																
項目/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	差異	累計月	差異
実績	21	22	25	24	23	24	24	24	23	23	23	24	24	-	280	-
計画	21	22	25	24	23	24	24	24	23	23	23	24	24	0	280	0
昨年度実績	20	22	25	24	23	21	24	22	23	22	22	22	22	2	270	10

III 月平均利用者数																
項目/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	差異	月平均	差異
実績	10.1	9.9	10.2	10.0	9.8	10.4	10.0	10.3	10.1	9.8	10.1	10.2	10.2	-	10.1	-
昨年度実績	10.5	10.3	10.7	10.5	10.2	10.9	10.5	11.0	10.3	10.2	9.4	10.0	10.0	0.2	10.4	-0.3

●利用者支援目標

<児童発達支援>

ひとり一人の発達特性に合わせた支援と、家庭や地域の園と連携しながら生活の質を上げられるよう支援した。

<放課後デイサービス>

ひとり一人の発達特性に合わせた支援と、家庭や地域の小学校と連携しながら生活の質を上げられるよう支援した。

■保護者・家族との交流■

- ・幼児レクリエーション
- ・座談会（サポートブックの作成）
- ・ペあとれ
- ・見学週間

■事業所研修■

研修項目	実施月	実施内容
権利擁護、虐待防止	4月	人権、虐待防止に向けた知識の習得
発達検査	4月	遠城寺発達検査の理解
職業倫理	5月	職業人として守るべき倫理の理解
接遇、コミュニケーション	6月	接遇マナーの理解と実践
幼児期の発達	7月	幼児期の発達過程の習得
自閉症の特性	8月	自閉症スペクトラムの特性理解
ストレス対処方法の理解	9月	自分自身のストレス状態、対処方法を知る
自閉症児への関わり方	11月	特性から関わり方を知り、実践に活かす
食事支援	1月	偏食のある子への関わり方を知る
保護者支援	2月	保護者の気持ちの理解とアプローチ方法の習得
水島拠点の取り組み	H29.4月	平成29年度の水島拠点の事業展開の理解

■ワークライフバランスに対する取組み■

- ・週1回の定時退社

■防災・安全・衛生活動■

- ・月1回の防災訓練の実施
- ・安全点検の実施
- ・衛生点検の実施

■その他特記事項■

特になし

平成 28 年度事業報告

てとて

■事業実施概要■

福祉サービスの利用ニーズがある児童を対象に、福祉サービス受給者証更新に伴う手続き（サービス等利用計画の作成）やサービス提供事業所の利用状況や対象児の状況の確認（モニタリング）を行い、保護者やサービス提供事業所との協働のもと、一人ひとりの子どものよりよい成長発達の支援を行った。利用計画作成は更新時期に合わせて実施したが、定期的なモニタリングが不十分であり、大きな課題である。

■重点方針■

重点方針		子どもの主体性を育み支える子育て支援				
利用者支援目標	① 人材育成	具体策	法人内階層別研修	実施内容	計画された法人内の研修に参加した。	
			専門研修			
			事業所内研修			
	② 子どもの権利擁護		子どものニーズ把握	実施内容	行動観察とアセスメントにより、個々の子どものニーズ確認を行った。	
重点方針		子育て力を高めるための保護者との協働				
家族支援目標	保護者とのコミュニケーションによる協働関係の構築	具体策	ニーズ把握	実施内容	インテークやモニタリング時に保護者の希望や家族のニーズの確認を行った。また、必要に応じて、情報提供を行った。	
			情報提供			
重点方針		地域とともに育む子育ての環境づくり				
地域支援目標	機関連携	具体策	所属機関連携	実施内容	所属機関への訪問を行い、情報共有を行った。	
			フォーマルな機関連携			
	地域住民への理解、啓発活動		啓発のための研修実施		倉敷発達障がい者支援フォーラムに參加した。	

					FM くらしきでの相談支援事業に関する情報発信を行った。
--	--	--	--	--	------------------------------

■中期経営計画に対する事業所単独の取組み■

目標	具体策	実施内容
利用者主体の支援計画に基づく支援の実施	生活しにくい環境の改善を図る視点でアセスメントし、利用計画を作成する。定期的にモニタリングを実施する。	対象児に合わせたアセスメントに基づく利用計画の作成を行った。 モニタリングは、サービスの内容や量の変更にあわせて実施した。

■第三者評価に対する取組み■

平成28年度に受審

■地域公益事業活動■

なし

■行事報告■

なし

■利用者状況■

I 利用者動向																
■相談契約																
項目/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	差異	累計月	差異
実績	30	27	23	31	30	26	24	19	17	27	49	45	45	-	348	-
計画	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	20	20	25	229	119
昨年度実績	30	12	20	35	30	35	18	17	18	14	59	60	60	-15	348	0
■モニタリング																
項目/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	差異	累計月	差異
実績	3	4	4	3	3	7	2	5	9	3	2	2	2	-	47	-
計画	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	20	20	-18	229	-182
昨年度実績	0	4	5	3	4	5	7	10	6	3	7	11	11	-9	65	-18
II 概算収入																
項目/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均	差異	通期	
計画作成件数	16	73	28	11	14	18	26	32	16	13	12	7	22	-	266	
昨年度実績	46	15	7	10	43	46	30	18	24	10	10	4	22	0	263	

●利用者支援目標

＜指定特定相談支援事業・指定障害児相談支援事業＞

保護者が主体的に自信をもって子育てができるように、発達の遅れや障害のある子どもたちや家族の状況に応じて、利用計画を作成し、必要なサービスに関する情報提供や利用調整を含めたサポートを行う。

■保護者・家族との交流■

インテーク時やモニタリング時に家庭訪問による保護者との面談を実施した。

第三者評価受審の際に、利用者アンケートにより、保護者の思いや意見を確認した。

■事業所研修■

スタッフ1名の事業所のため、事業所内研修は未実施。

拠点研修に参加した。

■ワークライフバランスに対する取組み■

週1回の定時退社デーの設定

担当ケースの面談希望時間に合わせて、訪問するため、実施の困難さ有。

■防災・安全・衛生活動■

家庭訪問、面談前後の手洗い、うがいの実施、消毒などの感染予防の実施

■その他特記事項■

なし

自立支援事業グループ

平成 28 年度事業報告

あしたば

■事業実施概要■

今年度はスヌーズレン(ワクワクルーム・キラキラルーム)を始め、運動会・あした BAR・自治会と職員と利用者が共に準備実施し活動的な場面があった。家族会での各班の取り組み紹介や家族と共に地域清掃活動への参加など、今年度は利用者支援・家族支援・地域支援をひとつの支援として捉えていくスタートの年度であった。また、業務改善も一つの課題であり、職員の「働く（ワークライフバランス）」を考え実施した一年でもあった。

■重点方針■

重点方針		その人らしい生き方の支援		
利用者支援目標	本人特性を踏まえた、日課の組み立てと支援の統一を図る	具 体 策	本人が理解しやすい日課の組み立てと日中活動の固定化	各班での日中活動での固定化に加え、班を超えた連携体制に取り組む
			職員会議を報告の場ではなく、ケース検討などの場にする	
			日中活動の提供の場を検討、広げる（他事業所）	
			外出支援の目的・内容の見直しと実施（外出計画を立てる段階から本人とともにを行い、主旨を明確にしておく）	
			買物や散髪など店に出向き、本人で選択できる体制づくり（自治会・公共交通機関の利用含む） T P Oにあった身だしなみの提供	
	社会資源やサービスを知り活用し、活発に外出に向く	実 施 内 容	個人ケースに関して、プランへの質問などが活発に行えている わきあいあい（6名）・やさしい畠クムレ（3名）の日中活動場への移行（体験も含む） 個人外出計画については、職員の一方的な思いがあるが、班行事に関しては利用者の意向実施傾向にある 買物は各班で個別計画を立てて取り組む中で、散髪は3人理髪店にて行っている 家族を含め、利用者の身だしなみ（おしゃれ）の意識が低い	

	高齢化、重度化に伴つての医療や専門機関との連携		身体機能の低下など生活に支障を生じた場合は、専門機関や相談事業所、家族など早急に連絡を取り合い、調整会議（ケア会議）を開く 医療との連携も欠かさない		高齢また身体機能の低下にある利用者に対しての、日中活動の場について相談事業所も含めて検討する 個別ケースで病院でのケア会議に出席、施設の意見方向性なども踏まえて連携を図った
	重点方針 家族と支える利用者の暮らし				
家族支援目標	本人の自立を家族と共に考え支援の体制を図る	具体策	懇談会や家庭連絡表などを通して、情報を共有する	実施内容	個別・班での懇談会を行い、家庭連絡表での情報共有を行った
	家族の入所に対する意識の改革（終の棲家ではない）		本人を中心とした家族と職員の関係づくり（両者で挨拶などの交流を意識する）		職員の呼称（名前）や家族会から挨拶を家族からなどの発信もあり、雰囲気も良くなっている
地域支援目標			本人の出来ることの共通認識を図り、必要な支援の方法を職員と共に考える		本人ができることを家庭で介助する、また施設でも手を出している為、家族職員共に自立に対する認識が低い
			家族会や家族会役員会での発信 家族会勉強会の実施		相談事業所やグループホーム職員の勉強会を通して、明確化していないこともありグループホームで暮らすことには抵抗がある。
			家族にアンケートをとり、意識の確認をする		第三者評価を通しての、アンケートの実施を行い、入所での暮らしを望んでいる家族が多い
	重点方針 地域で支えあう環境づくり				
	日差地区・さくらだい団地、他地域も含め交流を深め、顔見知りになる（さくらだい事業）	具体策	掲示板を建てる（事業所活動情報等の提供） サロン活動の実施と活性化	実施内容	計画からは遅れるが、さくらだい作業所に掲示板を設置し、行事などの発信を行うが、効

	所での特色を出した地域貢献活動を行う)	地域の方との語る会（食事）を設けるボランティアの受け入れの強化	果は薄く、方法や掲示内容の検討をする日差地区は高齢の世帯であり清掃活動での交流が効果的であった地域の方との語る会は行えていないが、行事を通して語る時間を設けてきた
	キーパーソンの存在と地域との繋がりの構築	民生委員の集まりに参加し、地域福祉を考える会（仮）の設立と運営に繋げる	民生委員の集まりには参加できないとのことであり、行事での参加での繋がりとなる
	利用者本人・家族も含めた交流活動	地域の清掃活動などに、利用者本人・家族会からも参加を募る（さくらだい・日差地区）	地域の清掃活動の情報を家族会に発信して、家族・職員で交流を含め参加した

■中期経営計画に対する事業所単独の取組み■

目標	具体策	実施内容
業務改善への取り組み 定時退社マークの実施と増日（ワークライフバランス）	高齢、重度化に伴っての日課・勤務体制の洗い出しと見直し 月間、モニタリングなどの書類内容の見直しと簡素化 育児をする女性職員の勤務体制の構築	日中活動から夜間体制への職員配置の検討を行い、班構成の見直しを行う 書類の簡素化と書き方（箇条書きなど）の見直しを行い実施する 育児中の職員の勤務の配慮を行う
福祉避難所としての体制設備	関係施設と行政との情報の共有 地域住民との協力体制の構築と情報収集・共有	地震を想定しての紙トイレの設置や非常食・ガスコンロなどの設置の練習を行う 地域との取り組み・連携には至っていない
大規模修繕等に向けた準備・計画	利用者定員や事業内容の見直し（自立支援事業グループでの事業展開） 実施計画などに向けての情	生活介護の定員 40 人を目指して、あしたば生活介護には無い日中活動先の提供体験を行う（やさい畠クムレ）

	報収集やベンチマークの取り組み	スヌーズレンや観葉植物・絵画などでの環境改善を行う
--	-----------------	---------------------------

■第三者評価に対する取組み■

改善点	実施内容
年間計画作成時の職員参加	職員アンケートを基にキャップ会責任者会議であしたば年間計画作成を行う
職員個人の目標管理の確実な実行	計画面談・中間面談を通してあしたばの方向性（気付き・家族支援とは）や個人目標の進捗についてフィードバックする。しかし短期でのフィードバックやチューターの機能が不十分であった
職員の人権意識を風化させないための取り組み	あしたば人権委員会での勉強会が予定よりも実施されていない為、グループワークの取り組みができていない。（法人人権委員会での勉強会が主になる）

■地域公益事業活動■

活動内容	実施内容
ひろば栗の家を中心として地域のニーズを把握することで、設備や人材を活用し、必要なサービスの提供や災害時の協力体制の構築を行います。生活困窮者支援として①一時的な住まいの場の調整、②中間的就労の場を提供します。	実施できていない
生活困窮者等に対する無償の緊急ショートステイの提供（食事・入浴を含む）	緊急受け入れを行ない、支給量を超すものに関しては無料での提供を行なう

■行事計画■

行事名	実施予定月	実施内容
お花見会	4月	地域や他事業所、ボランティアの方を招き、屋外内に分かれて花見弁当を食し、職員利用者による出し物で

		コミュニケーションを図った
障がい者スポーツ大会	5月	岡山県主催のスポーツ大会にフライングディスク・陸上で参加した
納涼大会	8月	利用者・家族・地域・ボランティア・他事業所の方が 350 名程度参加し、露店や出し物・ゲームを楽しみ交流を図った
収穫祭	10月	ハロウィンパーティーに変更し職員や利用者が仮装をして地域の方を招いて、食事や出し物を楽しみ交流を図った
バス旅行	11月	利用者の慰安もかねて、旅行先を 3 コースに分かれて温泉やりんご狩りなどを家族と共に楽しんだ
クリスマス会・忘年会・新年会	12月・1月	各班で年末年始、嗜好を凝らして行事を企画し実施した
正月行事	1月	家族・地域の方、ボランティア・職員でうどん造りチャレンジして食した。後に出し物を楽しんだ
ツーデーマーチ	3月	倉敷市主催ツーデーマーチ 5k 10 k コースに分かれて、利用者・家族・職員でウォーキングに参加した
各地域行事	通年	地域の運動会や清掃活動、毘沙門天のお祭りに参加した
サロン活動	毎月	地域を含む行事月以外に開催する。地域の参加が減る中、ボランティア参加がある。

■利用者状況■

I 利用者動向													単位:人			
■入所支援 定員50名																
項目/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	差異	累計月	差異
実績	1,354	1,319	1,362	1,372	1,332	1,272	1,375	1,385	1,349	1,327	1,296	1,423	1,423	-	16,166	-
計画	1,360	1,360	1,370	1,430	1,329	1,350	1,430	1,360	1,360	1,350	1,200	1,350	1,350	73	16,249	-83
昨年度実績	1,352	1,300	1,373	1,445	1,347	1,346	1,443	1,360	1,355	1,330	1,285	1,352	1,352	71	16,288	-122
開所日	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	31	-	365	-
請求利用者数	50	49	49	49	48	49	50	50	50	50	50	50	50	-	49.5	-
稼働率	90.3%	85.1%	90.8%	88.5%	85.9%	84.8%	88.7%	92.3%	87.0%	85.6%	92.6%	91.8%	91.8%	-	88.6%	-
昨年度稼働率	90.1%	83.9%	91.5%	93.2%	86.9%	89.7%	93.1%	90.7%	87.4%	85.8%	88.6%	87.2%	87.2%	4.6%	89.0%	-0.4%
■生活介護 定員50名													単位:人			
項目/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	差異	累計月	差異
実績	1,057	1,068	1,071	1,088	1,083	965	1,072	1,065	1,080	1,099	981	1,111	1,111	-	12,740	-
計画	1,100	1,150	1,100	1,150	1,090	1,100	910	870	910	910	790	910	910	201	11,990	750
昨年度実績	1,104	1,141	1,130	1,180	1,111	1,096	1,131	1,078	1,107	1,084	943	1,114	1,114	-3	13,219	-479
開所日実績	22	23	22	23	23	22	23	22	23	23	20	23	23	-	269	-
開所日計画	22	23	22	23	23	22	23	22	23	23	20	23	23	0	269	0
請求利用者数	52	51	51	51	51	51	51	51	51	50	51	51	51	-	51.0	-
稼働率	96.1%	92.9%	97.4%	94.6%	94.2%	87.7%	93.2%	96.8%	93.9%	95.6%	98.1%	96.6%	96.6%	-	94.8%	-
昨年度稼働率	98.0%	95.0%	99.2%	100.3%	96.0%	98.7%	100.0%	98.7%	98.6%	97.7%	99.3%	88.2%	88.2%	8.4%	97.5%	-2.7%
■短期入所													単位:人			
項目/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	差異	累計月	差異
実績	118	123	122	133	116	122	140	122	120	115	105	128	128	-	1,464	-
計画	115	115	115	115	120	125	125	125	105	100	90	105	105	23	1,355	109
昨年度実績	120	115	119	107	107	118	107	115	103	89	78	110	110	18	1,288	176
請求利用者数	22	26	26	27	25	22	28	27	23	23	19	23	-	-	24.3	-
■日中一時													単位:人			
項目/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	差異	累計月	差異
実績	61	51	59	49	48	46	55	58	52	56	58	66	66	-	659	-
計画	85	80	85	85	50	50	55	50	45	45	50	50	50	16	730	-71
昨年度実績	85	67	90	86	75	78	92	75	66	71	71	78	78	-12	934	-275

●利用者支援目標

＜施設入所＞

日常生活（余暇活動・休日）の充実、また障がい別、個人の困り感（高齢者・ストレス性情緒不安定者など）に適応した余暇プランの提供を図るために、スヌーズレン要素を取り入れ、ワクワクルーム（アクティビティ）・キラキラルーム（ホワイオスヌーズレン）を取り入れる。又、昼食時間や生活介護後には音楽のある生活と様々なジャンルの音楽を流している。年間行事以外にも経験の場を増やそうと、職員有志で「あしたBAR」を行い夜景と音楽と食事を提供している。

＜生活介護＞

社会生活の充実を図るため、利用者朝礼を行い生活と作業の区切りを付けて、朝礼前には生活支援（身嗜み・整理・整頓・清潔・健康管理）に取り組む。また挨拶・礼儀（ルール）を職員の日頃の姿勢から利用者に伝え支援をしてきた。支援の成果を、班行事（宿泊や外食など）などで、経験から把握している。

作業場面において、生活リズムが図りやすいように週間計画では各班固定化して明確化した。個々に必要な療育治具やプラン（スケジュール）を取り入れると共に、社会体験（行事・外出・地域の方との交流）の場を提供している。

＜短期入所・日中一時＞

第一に健康や安全に配慮した適切な支援・保護を行い、その中で知的・身体・精神などの利用者個々に応じた日課やサービスの提供に努めてきた。

■保護者・家族との交流■

- ・家族会の開催（納涼大会・バス旅行の月はなし）
 - 「あしたばからのお知らせ」を配布している（不参加の家族には郵送する）
 - 作業班毎に利用者家族と職員との意見交換、又、作業や行事の映像を紹介している
 - あしたばからの報告と共に今後の入所施設やあしたばの方向性について伝えている
 - 理事長、河本先生、相談事業所の勉強会や事業所見学などを実施している
- ・家族会役員会との意見交換会（四半期に一度）を実施している
 - 理事長、河本先生、管理者、サビ管、事務員、家族会役員（全員）の参加
- ・栗の家スペースでの、職員や他事業所家族、利用者、地域の方との交流する機会を設ける。→家族会としてクラコトに参加や栗の家の見学を行なう
- ・家庭連絡表での利用者状況、施設や家庭の情報の共有を図っている。帰宅が長期にない家庭は、電話連絡は行うが、家庭訪問の実施には至っていない。
- ・地域の清掃活動に参加している

■事業所研修■

研修項目	実施月	実施内容
リスクマネジメント研修	年2回	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急時（交通事故・無断外泊）の対応 ・緊急連絡網の実施練習（年2回） ・各班でのKYT
権利擁護（虐待）研修	年2回	<ul style="list-style-type: none"> ・県の研修を受講しての報告と人権に対するアンケートの実施
障がい研修	4月	<ul style="list-style-type: none"> ・新人、中途職員対象にあしたばオリエンテーション時に
強度行動障害・自閉症研修	年3回	<ul style="list-style-type: none"> ・強度行動障害基礎実践研修受講者による、研修報告と支援計画シートの作成
保健衛生研修 (蘇生法のロールプレイ)	季節毎	<ul style="list-style-type: none"> ・ノロウイルス、インフルエンザ流行前に看護師による感染予防研修 ・ロールプレイでの蘇生法はリスクマネジメント委員会と合同開催
障がいの制度と障がい種別について	4月	<ul style="list-style-type: none"> ・専門研修での実施
介護保険制度、認知症について	4月	<ul style="list-style-type: none"> ・専門研修での実施
てんかんについて	4月	<ul style="list-style-type: none"> ・専門研修での実施
介護技術について	4月	<ul style="list-style-type: none"> ・専門研修での実施

■ワークライフバランスに対する取組み■

- ・育児を行う（女性）職員が働く環境づくり→勤務の調整
- ・週2回の定時退社日の設定、実施→15時以降の職員配置（記録時間の確保）
- ・有給休暇年5日以上の計画的取得の奨励→計画的取得は年2回
- ・休憩時間の確保→15時以降の職員配置（記録時間の確保）と同様の目的で行なうが、標準固定化はされていない
- ・事業グループ内でサークルを立ち上げ、活発なコミュニケーションの場とする
→サークル活動の立ち上げはしていない

■防災・安全・衛生活動■

- ・月一度の避難訓練の実施（非常食やガスコンロ・紙トイレの設置訓練を行なう）
- ・月一度の安全点検を行い、生活環境の改善を行う
- ・年2回の緊急連絡網の練習を行い、素早く連絡を回せるように訓練する
- ・リスクマネジメント委員を中心に、緊急マニュアルの確認とロールプレイに取り組む
- ・看護師・栄養士を中心に消毒（アルコール）、ジアノックの補充確認など、衛生面の確認を行い、効果的な掃除や机拭きの方法や効果について周知を図る
- ・朝礼時に車両担当による、車両の安全確認を行うが定期には取り組めていない
- ・福祉避難所としての役割（倉敷市、他法人、機関との連携）については、連携は図れていない（備蓄品の補充程度である）

■その他特記事項■

なし

平成 28 年度事業報告

共同生活援助事業所クムレ

■事業実施概要■

本年度は、管理者が変更となり、事業計画の項目を確認・理解しながらの実施となった。全体的には大体計画通り実施できたと評価しているが、家族・地域との交流や防災面で課題が残った。また、大病を患う利用者がおり、健康面における総括的な取り組みの必要がある。28年度も1名の一人暮らしを実現できたことは、地域移行への取組みが定着しつつあると評価できる年であった。第三者評価の受審しており結果を受けた改善策を一部実施した。

■重点方針■

重点方針		その人らしい生き方の支援		
利用者支援目標	利用者を深く知る	具体策	本人や家族への丁寧なアセスメントを繰り返し、本人の能力を知るとともに、詳細なフェイスシートを作成する	実施内容
	利用者の夢（ニーズ）を探る		中間評価やモニタリング、ケア会議時において、家族の協力も得ながら本人の希望を聞き出す	

	QOL の向上		本人の能力を活かしつつ、IADL 向上を目的とした日常生活における機能訓練、外出等による社会経験の推進や SST 等による社会的スキルの向上、相談支援事業所等との連携による就労・日中活動・地域移行等の情報の提供		機能訓練として、調理活動(17 回)、居室清掃、ATM 操作練習等を実施している。社会経験として、移動支援(53 回)、地域等のイベントへの参加(13 回)、ホーム行事(4 回)、外食支援、選挙投票 GH お茶会、利用者送別会を実施している。就労・日中活動・地域移行等の情報の提供は本人のニーズに合わせて隨時提供している。 その他の取組みとして健康診断(全員)、歯科通院、がん検診等予防的観点から健康寿命維持の為に積極的な受診をしている。
重点方針		家族と支える利用者の暮らし			
家族支援目標	家族に利用者本人の能力・成長を実感してもらい、家族の能力もエンパワメントする	具体策	今後出てくる課題だけでなく、今日の前に直面している課題にも目を向け、家族とともに解決を図っていく。	実施内容	本年度、家族会を 9 回開催している。事業計画の説明や、施設(GH)見学、コトノハ家族会への参加し(4 回)、情報交換と勉強会の参加している。利用者の今後の課題については問題提起できた。
	家庭環境を知ることにより、利用者本人の成育歴(生活歴)を知るとともに、本人の望む将来へ向けて家族との意思疎通を図る		家庭訪問もしくは家族面談を行う		年間を通じて 15 回であり、目標の年 2 回以上の実施には達していない(実施率 31%)。

重点方針		地域で支えあう環境づくり		
地域支援目標	地域住民との交流（事業所・利用者）を深め、互いの顔を知る	具体策	地域行事への参加（客としてボランティアとして）と、地域住民を招く行事の開催	実施内容
	地域住民等に事業所・サービス内容について理解してもらう		定期的なホームページの更新と広報紙等による情報発信	

■中期経営計画に対する事業所単独の取組み■

目標	具体策	実施内容
グループホームの増設（サテライト型含む）と重度化対応に向けた準備	法令等、常に情報収集を行い、物件の確保やベンチマークを実施する。	物件を8軒視察。サテライト型ホームを運営している他事業所のベンチマーク2回。新規物件を1件購入している。平成29年度運営開始。
地域のネットワークづくり	地域内にある各種団体への加入や協力、民生委員等の地域を支える方々、キーパーソンとの交流を深める	地域パトロール、自治会総会、地域清掃、花植えを通して民生委員、自治会役員との交流を深めた。
サービスの質の向上と適切な運営	利用者アンケートの実施により、支援体制や支援の質・量の分析を行い、サービスの質の向上を図ると同時に業務の効率化も図る。また、自己点検を行うことにより、各種法令・制度に則った事業運営を行う。	手書き書類のデータ化、過年度書類の整理、第三者評価を受けての改善の実施。

■第三者評価に対する取組み■

取組み内容	実施内容
サービス提供に関する自主点検の実施	8月の第三者評価を受けて、アセスメント表の新規作成、利用者の主体的な活動の実施、虐待のセルフチェック、苦情解決フローの見直し、ケース記録の内容見直しを実施。
他事業所の第三者評価の結果による改善	他事業所の第三者評価は閲覧したが、未検討。

■地域公益事業活動■

活動内容	実施内容
ひろば栗の家を中心として地域のニーズを把握することで、設備や人材を活用し、必要なサービスの提供や災害時の協力体制の構築を行います。生活困窮者支援として①一時的な住まいの場の調整、②中間的就労の場を提供します。	未実施。
生活困窮者等に対する無償の緊急ショートステイの提供（食事・入浴を含む）	居室の空きがなく未実施。

■行事報告■

行事名	実施予定月	実施内容
バーベキュー	5月	クムレ栗坂の庭で各ホーム利用者・家族・職員でバーベキュー実施。利用者 18 名、職員 4 名参加。
障がい者スポーツ大会	6月	岡山県主催の障がい者スポーツ大会「輝いてきらりんピック」への参加。利用者 3 名参加
グループホーム入居者交流会	7月	岡山県グループホーム協会主催の宿泊交流会 利用者 15 名、職員 3 名参加。
夏のお疲れ様会、新規入居者歓迎会	7月	食事を実施 利用者 21 名、職員 5 名参加。
花火大会	8月	事業所主催の行事

		地域住民 10 名参加
あしたば納涼大会	8月	あしたば主催の夏祭り 利用者 5 名参加
庄地区大運動会	10月	地域の運動会への参加 利用者 8 名、職員 4 名参加
クラコトフェスティバル	10月	やぎふれあいコーナー実施 来場者 200 名以上
新年会	1月	ホーム利用者での食事会 利用者 24 名、職員 3 名参加。
ひなすし作り	3月	地域の公民館で実施 地域の方 4 名、利用者 7 名、職員 4 名参加
ツーデーマーチ（ふれあいウォーク）	3月	ウォーキング大会への参加 利用者 8 名、ボランティア 2 名、 職員 1 名参加
誕生日会	4、5、7~11、 1~3月	各ホームにて入居者の誕生日会

■利用者状況■

■共同生活援助 定員24名														単位:人		
項目/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	差異	累計月	差異
実績	658	690	691	710	698	640	675	655	679	689	610	672	672	-	8,067	-
計画	683	693	675	703	683	671	701	671	679	662	621	687	687	-15	8,129	-62
昨年度実績	664	666	660	684	654	636	669	624	626	621	639	684	684	-12	7,827	240
開所日	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	31	-	365	-
請求利用者数	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	0	0		24.0	-
稼働率	91.4%	92.7%	96.0%	95.4%	93.8%	88.9%	90.7%	91.0%	91.3%	92.6%	90.8%	90.3%	90.3%	-	92.1%	-
昨年度稼働率	92.2%	89.5%	91.7%	91.9%	87.9%	88.3%	89.9%	86.7%	84.1%	83.5%	91.8%	91.9%	91.9%	-1.6%	89.1%	2.9%

●利用者支援目標

<共同生活援助>

- ・利用者の個別の課題について相談支援事業所等の関連機関を巻き込みながら、解決に向けた取り組みを実施。
- ・日中活動先や就職先等の関連機関との連携に努め、利用者の情報共有を図った。
- ・自立を目指した生活が送れるよう、本人の思いや能力を活かしつつ、生活・社会的スキルや金銭管理等を身につける練習を行った。
- ・地域での生活をする上で、地域住民との交流や社会経験を積んだ。

■保護者・家族との交流■

- ・家族会を9回開催している。事業計画の説明や、施設(GH)見学、コトノハ家族会への参加し(4回)、情報交換と勉強会の参加している。
- ・年間を通じて15回家庭訪問を実施。目標の年2回以上の実施には達していない(実施率31%)。
- ・利用者の状況の変化については、その都度電話等により連絡。
- ・帰宅のない利用者については、年に3回程度、本人の状態について知らせている。
- ・帰宅時には家庭連絡表にて、本人の様子の情報交換を行う。
- ・利用者の課題状態に応じて、家庭への電話連絡や家庭訪問を実施。

■事業所研修■

研修項目	実施月	実施内容
世話人会議（勉強会）	5月	発達障がいについて
世話人会議（勉強会）	7月	サテライト型住居について
岡山県 GH 世話人等研修会	7月	支援や制度について学び、技術・知識を向上。職員3名、利用者15名参加。
世話人会議（勉強会）	11月	感染症について
世話人会議（勉強会）	2月	虐待について

■ワークライフバランスに対する取組み■

- ・週2回の定時退社日の設定、実施（火・土）したが、突発的な対応が多く定時に帰ることができない日があった。その場合は他日に勤務時間を調整する等の対応を実施。
- ・有給休暇年12日程度の取得を実施。

■防災・安全・衛生活動■

- ・避難訓練の実施 1回（地震）
- ・感染症予防対策品の準備、説明、資料の配布（世話人会議）
- ・救急蘇生法の全員参加
- ・ホーム屋内外環境の整備
- ・利用者への手洗い・うがい、マスク装着等の啓蒙活動

■その他特記事項■

特になし。

平成 28 年度事業報告

コトノハ

■事業実施概要■

利用者支援を再度考え直していく目的で、河本先生のコンサルテーション、アドバイスを受けながら「自立」「尊厳」「ハビリ」の考え方を家族とともに学び、考え、支援観の統一や浸透を図っていった。地域へは栗坂地区合同の行事や学生等との交流、見学の受け入れを積極的に行い、まずは知つてもらうことからの関わりとなっている。

また業務改善を行い働き方の見直しと職員の休憩時間の確保を試行した一年であった。

■重点方針■

重点方針		その人らしい生き方の支援			
利用者支援目標	正確な利用者情報を掴み、支援に反映させる。	具体策	アセスメント項目の見直しを行い、現在の本人、家族、環境の状態を整理していく。	実施内容	年2回の本人、家族との面談・家庭訪問実施。事業グループ共通のシート作成し、評価実施。
	本人の状態に合わせた個別支援計画の作成、評価。		職員会議内でのケース検討、サービス担当者会議等でのサービスの確認や情報共有。		毎月の班会議、職員会議にて、個別支援計画の進捗確認。
	本人の意思決定支援を図る。		本人のやりたいこと、希望等を家庭でも行うことが出来るように事業所で取り組み、家庭へ広げていくことや、社会資源を活用して生活の幅を広げたり、充実を図ったりする。		半期に1回評価実施。河本先生のアドバイスも受け、1日の予定の視覚化（写真・イラスト）、選択できる仕組みを入れている。
	重度化、高齢化、身体障がいの状態に合わせた医療、専門職との連携を図る。				法人内で生活環境の変化のある方について、ケース会議を行い、日中活動の場として利用している。
重点方針		家族と支える利用者の暮らし			
家族支援目標	家族の方とともに、利用者本人を支えていくという認識を合わせていく。	具体策	家庭での利用者本人の姿を知り、家庭での自立や将来について共に考えていく。	実施内容	家庭訪問・面談（年2回実施）
	家族に利用者本人の能力・成長を実感しても		今後出てくる課題だけでなく、今日の前に直		毎月家族会（共同生活、就労事業所含む月もあ

	らい、家族の能力もエンパワメントする。		面している課題にも目を向け、家族とともに解決を図っていく。		り）を開催し、勉強会や意見交換できる場を設けた。(家族会年間計画)。年度末には次年度へ向けての合同説明会及び契約を実施。
	重点方針	地域で支えあう環境づくり			
地域支援目標	地域の方と協働し、農耕等に取り組む。	具体策	年間作付け計画に基づき、利用者本人の方とともに積極的に参加していく。	実施内容	年間作付け計画に基づき実施。収穫後の精米、配達までも一貫して行っている。玄米の保管状況向上維持のため、保冷庫購入。
	地域に事業（所）を知ってもらう。		①広報誌やチラシの配布。 ②ホームページの定期的更新。		①利用者本人の方とともに納品先等へ配布。 ②トピックスを定期的に更新。
	地域に出向く。		地域行事（10月子ども神輿等）、活動への参加。		参加できていない。
	ひろば栗の家との連動		① i) 当事者と大学生との交流活動、 ii) ボランティア育成・養成、支え合う仕組み作り ②栗坂地域にある事業所合同での催しものの開催。 ③利用者本人の作品を展示して活動内容を知ってもらう。 ④栗坂地区避難訓練の実施・協力		① i) 第3木曜午後(2回)、 ii) 庄地区の方など見学者への説明に留まっている。 ②③10月2日(日)実施。建物スペースに利用者本人の作品展示やワークショップを開催。 ④同一敷地内事業所のみでの実施に留まる(2月、3月)

■中期経営計画に対する事業所単独の取組み■

目標	具体策	実施内容
利用者主体の支援計画に基づく支援の実施	アセスメント、支援計画書の事業グループ間統一	事業グループ共通の評価シート作成し評価実施。

利用満足度、課題の抽出	利用者アンケート実施。	シートの作成は済。未実施。
ワークライフバランスの推進	定時退社の実施と、そのための業務改善の実施	2ヶ月に1度ペースで業務手順を見直し。休憩時間の確保に努めた。

■第三者評価に対する取組み■

取組み内容	実施内容
自己点検の実施	改善評価項目を元に、点検実施。
手順書、要領書の現状にあった改訂	現行手順書等の見直し。 要領書の現状にあった内容の作成が課題。
利用者の意思決定、自己選択の機会支援	面談・評価等実施により本人像の把握を行い、活動の選択、実施を開始。

■地域公益事業活動■

活動内容	実施内容
ひろば栗の家を中心として地域のニーズを把握することで、設備や人材を活用し、必要なサービスの提供や災害時の協力体制の構築を行います。生活困窮者支援として①一時的な住まいの場の調整、②中間的就労の場を提供します。	実施できていない
生活困窮者等に対する無償の緊急ショートステイの提供（食事・入浴を含む）	緊急受け入れを行ない、支給量を超すものに関しては無料での提供を行なう

■行事報告■

行事名	実施予定月	実施内容
音楽療法発表会	7月	季節（七夕）に因んだ音楽や演出を行い、音楽療法で取り組んだ成果を披露。取り組んでいる活動内

		容を家族に知つてもらう機会となつた。
デイキャンプ	9月	雨天のため事業所内での実施。家族、利用者同士の交流、職員の半期の取り組みの報告の場となつた。
ふれあい旅行	10月	利用者・家族・職員との日帰り旅行。相互に交流を深める
クラコトフェスティバル	10月	地域交流を目的として開催。展示、ワークショップを通じ活動を知つてもらう。栗坂にある事業所の協力、ひろば栗の家の活用。広く地域の方に知つてもらう機会となつた。
人権フェスタ庄	11月	利用者の作成・製作物を展示する形で参加。地域住民との交流。
クリスマス会	12月	利用者の希望を伺い、買い物、外出等、事業所周辺にある地域資源や地域へ参加する機会となつた。

■利用者状況■

I 利用者動向																単位:人	
■生活介護 定員40名																	
項目/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	差異	累計月	差異	
実績	882	883	936	928	943	878	888	913	911	870	819	916	916	-	10,767	-	
計画	961	949	970	1,009	974	925	944	928	931	900	850	950	950	-34	11,291	-524	
昨年度実績	801	756	838	870	829	803	852	805	827	796	777	855	855	61	9,809	958	
開所日実績	22	23	22	23	23	23	23	22	23	23	20	23	23	-	270	-	
開所日計画	22	23	22	23	23	22	23	22	23	23	20	23	23	0	269	1	
請求利用者数	59	60	61	59	58	59	57	60	60	59	59	59	59	-	59.2	-	
稼働率	100.2%	96.0%	106.4%	100.9%	102.5%	95.4%	96.5%	103.8%	99.0%	94.6%	102.4%	99.6%	99.6%	-	99.8%	-	
昨年度稼働率	91.0%	82.2%	95.2%	94.6%	90.1%	91.3%	92.6%	91.5%	89.9%	86.5%	92.5%	92.9%	92.9%	6.6%	90.9%	8.9%	

●利用者支援目標

< (生活介護) >

受託作業、製作、機能訓練等の班に分かれ活動を実施していった。利用者の方の自立を目的とした支援の中で、班の活動だけに留まらず、他班の活動内容も紹介したいとの希望のある方は選択した班の活動に参加することができるよう、情報共有等を行った。

芸術や音楽療法等の製作、自己表現の時間も定期的に設定し、グループを組んでセッションしたり、地域や家族へ向けた発表会等への目標を定めて練習、製作をしたりしている。

■保護者・家族との交流■

- ・家族会開催（月1回）し、事業所との情報交換を行う機会とする。
(毎月1回。平日、土曜、祝日開所日に合わせて開催)
食事会・懇談会を実施し、意見・情報交換、交流（4月、9月）。
年度初め・末に、班キャップから班年間計画、新採用職員の挨拶（4月、9月、3月）。
- ・ふれあい旅行にて、利用者本人・家族・職員との交流を図った（10月）。
- ・クラコトフェスティバル（10月）を通して地域・利用者本人・家族との交流を図る（ワークショップ、バザー、カフェ等）。
- ・農業実習地の活用（稻作2年目 作付け計画に基づき利用者（田植え）、職員参加）。
- ・自立支援事業グループ内の他事業所と合同の家族会を開催する。
→就労継続支援B型事業所利用者家族、共同生活入居者家族との合同家族会実施。

■事業所研修■

研修項目	実施月	実施内容
制度改正等に伴う、勉強会	4月、5月	年度の事業計画の説明を実施。年度途中に嘱託職員へも研修会の場を設けての説明を実施。
手洗い講習	5月	チェック等を使用し、正しい手洗いの方法を講習。
緊急時対応シミュレーション 虐待防止についての勉強会	8月 10月	癲癇事例を用い、シミュレーションを通して、危険箇所への気付き、回避・改善方法を検討。 事例をもとに、グループワークで意見交換を行い気づきの共有、適正な対処等を研修。
障がいの制度と障がい種別について	4月	専門研修での実施
介護保険制度、認知症について	4月	専門研修での実施
てんかんについて	4月	専門研修での実施
介護技術について	4月	専門研修での実施

■ワークライフバランスに対する取組み■

- ・週2回の定時退社日の設定、実施
→年間で業務手順の見直し
- ・有給休暇年5日以上の計画的取得の奨励
→計画的な取得には繋がっていない。
- ・事業グループ内でサークルを立ち上げ、活発なコミュニケーションの場とする
→四ツ葉会への申請はしているが、正式には決定していない。

■防災・安全・衛生活動■

- ・消防署による、消火訓練の実施（栗坂事業所合同）
- ・救急蘇生法、うがい手洗い、感染症予防講習の実施
- ・避難訓練の実施
→年度後半からは、毎月訓練実施 火災、地震等を想定
- ・事故等対応シミュレーションの実施
→8月に緊急時対応シミュレーション実施
- ・安全・衛生委員会による、安全パトロールと指摘事項の改善
→業務改善、環境整備の一貫で危険箇所の改善と動線等の見直し実施。
- ・毎月の屋内環境整備（冬季は屋内環境整備）
- ・交通安全教室（年1回）→未実施。

■その他特記事項■

なし

平成 28 年度事業報告

クラシス

■事業実施概要■

上東地区を主たる事業所、栗坂地区を従たる事業所として各事業を行っている。今年度は、新たにカフェ事業を行ってきた。カフェ事業は、ゼロからのスタートであったが、形になり、地域との交流も少しではあるが出来ている。ケーキ事業と洗車事業が1人事業所であり改善が必要であった。洗車は2人体制、ケーキもパート職員が入ることで対応が出来ている。今年度は、多くの課題が見つかり、次年度は、事業運営重視よりも利用者が関わられる事業運営を行っていき、売り上げアップを図りたい。

■重点方針■

重点方針		その人らしい生き方の支援		
利用者支援目標	自己決定の重視	具体策	実施内容	
			本人の思いを聞きながら個別支援計画を実施し、3ヶ月に1回モニタリングを職員間で行い、支援に反映した。	
			日常生活または就労・社会生活において何が出来て、何が出来ないか1人1人確認を行い、職員間で共有している。利用者が出来ることを伸ばす支援を行っている。	
			本人の希望、意思を反映した個別支援計画を作成し、本人に内容を丁寧に説明し、理解を得たうえで承認して頂いている。	
			1人1人の利用者の出来ることを増やす支援を行っている。より高度な内容が出来るよう	

			を目指す。		になったり、工賃が昨年度より上がっている利用者も多い。
重点方針		家族と支える利用者の暮らし			
家族支援目標	家族に利用者本人の能力・成長を実感してもらい、家族の能力もエンパワメントする。	具体策	今後出て来る課題だけでなく、今日の前に直面している課題にも目を向け、家族とともに解決を図っていく。 家族の方に事業所に来て頂き、調理や自主製品の開発等に助言・協力してもらう。	実施内容	家族会の実施 5/12、6/9(コトノハ見学)、7/9(コトノハ見学)、9/26、1/25、3/28 岡山県産の果物をジャムに加工をする時に家族の方に来て頂き、協力をして頂いている。
重点方針		地域で支え合う環境作り			
地域支援目標	クラシスの事業や集う人を知ってもらうイベントの開催や、地域の行事・活動に出向いていく。	具体策	クラシスカフェの実施 (クラシスのケーキを通じた地域交流) 共同生活援助事業所クムレと合同での地域に向けたイベントの実施 庄地区人権学習推進委員会を通じて地域活動に参加	実施内容	クラシスカフェの実施 (1月、3月) 民生委員、愛育委員、お巡りさん、保健師など来所し情報交換をしている。 8月に花火大会をクラシスの玄関先で行っている。20名程度の地域の人と花火を楽しみ、交流を図っている。 定期的にある会議に参加をしている。また、庄地区的福祉施設見学、公民館の花植えに参加したりしている。

■中期経営計画に対する事業所単独の取組み■

目標	具体策	実施内容
人権推進委員会での活動・学区担当保健師・心ほっとサポートとの関係を強化していく。	・福祉施設交流会の参加 ・人権学習推進事業への参加 ・庄公民館での季節の花植え	・7/7、7/14に庄地区的福祉施設の見学と交流会を行っている。 ・7月、3月に花植えに参加

	<p>の参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権フェスタ庄での立ち上げ・準備・片付けに参加 ・心ほっとサポーター、学区担当保健師と利用者・事業所の交流を深める機会を作っていく。 	<p>をしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・11月に人権フェスタ庄に参加をしている。 ・1月と3月にクラシスカフェを開催し、交流をしている。利用者も交流をし、歌を歌ったり楽しい一時を過ごしている。
--	---	--

■第三者評価に対する取組み■

取組み内容	実施内容
<ul style="list-style-type: none"> ・施設内外での作業中のリスクを洗い出し、適切な対策の検討をその都度していく。 ・クラシス会議にて月ごとにヒヤリハットを集約し、洗い出しを行い対策について職員全員で検討していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各作業（ケーキ、洗車、カフェ、清掃）でのリスクを上げ、十分安全に配慮し、活動を行っている。 ・ヒヤリハットがあるとその日の終礼で話し合い、解決策をあげ、職員共有のもとで実施している。
<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度より進めてきたクラシス・やさい畑・共同生活合同の家族会において、今年度はコトノハ家族会と合同で行い昨年以上に意義のある会になることを目指す。 	<p>年度初めは、コトノハ家族会と合同で家族会を行うか話し合い、実際にコトノハ家族会の見学を行ったり、アンケートを取りながら実施している。全体ではコトノハ家族会と合同で行わずに、参加したい家族においてはコトノハ家族会に参加する方向で進めている。コトノハ家族会合同で進める前に、まずは、3事業所家共同家族会の強化を図ることを重視することになる。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・クラシスカフェの実施を継続し、利用者・事業所への理解を深めてもらう事で、地域に根付いた店舗を目指す。 ・地域行事に参加する中で、地域に溶け込みクラシスや利用者への社会資源の構築を目指す。 	<p>クラシスカフェには、保健師、民生委員、愛育委員、お巡りさんなど地域の人が多く来られ、クラシス商品を食べながら利用者、職員との触れ合いや情報交換を行っている。</p>

■地域公益事業活動■

活動内容	実施内容
<p>ひろば栗の家を中心として地域のニーズを把握することで、設備や人材を活用し、必要なサービスの提供や災害時の協力体制の構築を行います。生活困窮者支援として①一時的な住まいの場の調整、②中間的就労の場を提供します。</p> <p>生活困窮者に対する無償の緊急ショートステイの提供（食事・入浴を含む）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・クラシス独自でなく法人全体として栗の家では、栗坂地区の人を招き、毎月第三水曜日に赤提灯を行い、情報交換を行っている。 ・栗の家が出来て1年目と言う事もあり、地域の人との関係作りも重視し、地域清掃、事業所を知って頂く為のパンフレット配布、西栗坂地区のおしゃべり会の参加（11月、12月、1月）など関係作りを行ってきた。 ・栗の家がある栗坂地区の事業所と合同で毎月避難訓練も実施している。 ・生活困窮者支援として①②は、ニーズがなく未実施である。

■行事報告■

行事名	実施月	実施内容
花見	4月	酒津公園に行き、弁当を食べ、花見をしながら、交流を図っている。
招待ボウリング	6月	アミパラボウリングへ行き、ボウリングを楽しみ、その後昼食を食べ、交流を図っている。
花火大会	8月	共同生活援助クムレと合同で地域の方を招いて花火を行っている。カキ氷やジュースを用意し楽しく地域の方と交流をしている。
初詣	1月	最上稻荷と吉備津神社へ分かれて、初詣に行っている。ケーキやカフェの商売繁盛も合わせてお参りしている。
ボウリング大会	2月	上東地区と栗坂地区の利用者の交流が少なくなり、ボウリング大会を企画している。同じクラシスであり久しぶりに交流をし、団結力を高めて

クラシス・やさい畠クムレ 合同日帰り旅行	3月	いる。 毎年 11 月に行うが、その時期は寒い意見があり、今年度は 3 月に行っている。利用者の意見を聞きながら場所決めをし、広島県へ行っている。マツダミュージアム、広島お好み焼き、宮島観光を行っている。
-------------------------	----	---

■利用者状況■

I 利用者動向														単位:人		
■就労継続支援B型 定員20名																
項目/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	差異	累計月	差異
実績	432	453	453	462	456	421	450	411	434	456	400	435	435	-	5,263	-
計画	470	513	493	536	480	460	480	460	480	480	440	480	480	-45	5,772	-509
昨年度実績	498	497	487	511	503	471	502	456	480	452	434	451	451	-16	5,742	-479
開所日実績	22	23	22	23	23	22	23	22	23	23	22	23	23	-	271	-
開所日計画	22	23	22	23	23	22	23	22	23	23	21	23	23	0	270	1
請求利用者数	25	26	26	25	25	25	25	25	26	26	27	27	27	-	25.6	-
利用率	98.2%	98.5%	103.0%	100.4%	99.1%	95.7%	97.8%	93.4%	94.3%	99.1%	90.9%	94.6%	94.6%	-	97.1%	-
昨年度利用率	113.2%	108.0%	110.7%	111.1%	109.3%	107.0%	109.1%	103.6%	104.3%	98.3%	103.3%	98.0%	98.0%	-3.5%	106.3%	-9.3%

●利用者支援目標

- ・ケーキ事業：きびの国からの商品化を行い、清水白桃、ピオーネ、温州みかんを果実からジャムにし、パウンドケーキを作っている。果実をジャムにする工程やきびの国からのラッピングなど作業工程が増えたことにより、多くの利用者が作業に関われるようになり、さらに、売り上げも大幅に上がっている。
- ・カフェ事業：今年度からスタートし、4月15日にオープンし、当初は、ドリンクとデザートセットのみの販売、6月からランチをスタートさせている。利用者の選定、メニューの選定などゼロからのスタートであったが、利用者の接客スキル、厨房でのスキルなど1年を通して向上をすることが出来ている。地域にもチラシを配り周知活動を行いながら、地域住民との関わりの機会も多く作っている。
- ・洗車事業：事業所移転に伴い、洗車事業は1人で送迎、洗車、片付けなど多くの事を抱えることになっていた。1名援助する体制を作ろうと試みるが上東地区から職員を回すことが出来ない状況であり、洗車台数を高めることが出来ていない。さらに、職員の体調不良も重なり、営業日も減り、H29年1月にパート職員の補充を行っている。パート職員が洗車の技術を取得することは出来たが、パート職員も神経痛で洗車を行うのが難しくなっている。洗車事業の見直しが求められ、改善を図っている。
- ・清掃事業：清掃手順の見直しを行い、手順書を作成している。1人で作業を行える利用者は1名から2名になっている。また、清掃に以前は行っていない人も3人は増えている。スキルの向上は、週1回行う人が多く、1回行くと次は忘れている人が多い為、机の拭き方など毎日ソーシャルスキルトレーニ

ングを行う事で、スキルの向上に努めることで向上をしている利用者も多い。

- ・受託事業 : ネット作業を行っている。ネット作業は、利用者のスキルも高くなり、仕上げる量は多くなっている。ネットより高単価の受託事業を行う課題もあり、1月にペットフードの作業を行っている。1つ12円の作業であるが、1日職員2名利用者4名程度で150ヶ程作れることができている。高単価であるが、手間がかかることもあり検討をするが、受託事業であるが機材を自費購入する必要があるため断っている。引き続き高単価の受託作業は探していく。

■保護者・家族との交流■

- ・毎週末に連絡帳で情報交換を行っている。必要に応じて電話で連絡をしたり、休みが長い場合は、家庭に連絡し本人の容態を聞いたりしている。
- ・支援の状況に応じて面談を行い、本人と家族の同意のもと支援を行っている。
- ・家族会では、コトノハと合同で家族会を行うか話し合っており、コトノハの家族会に参加する意義もあるが、まずは、クラシスとやさい畠クムレ、共同生活援助クムレの家族会がしっかり団結することが第一と言う理由で、合同では行わずに、参加を必要とする方は参加する方向になる。

■事業所研修■

研修項目	実施月	実施内容
地域共生社会について	4月	栗の家が開所し、理事長から地域共生社会についての勉強会を行っている。栗の家の在り方、その中でカフェの在り方の話を聞く事で職員全員が同じ思いを持つことが出来ている。
他事業所への視察	8月	チョコレート販売をしている尾道の事業所へ見学に行っている。カフェの職員が行き、その後ケーキ担当と洗車担当が各分野の見学を行っている。チョコレート事業をバレンタインシーズンに進めるように企画するが、後援会プレゼントがあるため今年度は行う事が出来ていない。
他事業所への視察	9月	社会福祉法人 ひまわりの会が運営するA型事業所スワンベーカリーの見学と食事に利用者、職員が行っている。A型事業所は、どのような所かどのような物を販売しているか視察している。
クラシス利用者を対象とした勉強会	10月	食の安全衛生を分かりやすく利用者に伝えていく。

工賃向上について	12月	クラシスの各事業の収入と支出を上げ、経費を抑える必要性の話をしている。ケーキ事業、カフェ事業は経費の割合が高く、売り上げを高くするだけでなく、利益を抑えつつ利益を出す方法を再度考える機会になっている。

■ワークライフバランスに対する取組み■

- ・週2回の定時退社日の設定を行うが、達成出来ることは少なく、全員が週2回同じ日に達成することは難しいので、一人一人が達成するために曜日を変えながら行ってきたが、それでも達成することは難しかった。出来ない要因としては、終礼は定時に終わることが出来るが、それからの時間各自事務の時間になっていることがあげられる。
- ・有給取得については、年間5日間の取得の奨励であり、職員の半分は取得することが出来ている。
- ・事業所内でのサークル活動は、行う事は出来ていない。

■防災・安全・衛生活動■

- ・5/2に上東地区で水難の想定で避難訓練を行っている。ハザードマップにある安全な場所へ避難をしている。
- ・1月、2月に栗坂地区の事業所で合同の避難訓練を個なっている。コトノハが出火場所の想定、カフェが出火場所の想定で行っている。1次非難の想定で行う事は出来ているが、2次非難の事も検討をする課題がある。
- ・3月には、法人全体での避難訓練を行っている。地震が想定で避難場所へ避難している。地震の際の上からの落下物を防ぐために机の下に隠れるが、利用者の人数が多い場合、机の下に避難に出来る人が限られていた。
- ・寒くなる時期に消毒の整備を行っている。
- ・ヒヤリハット、気づきによる振り返りを職員で行っている。包丁の取り扱い方、作業中に後ろを通る時の声かけなど安全に配慮した環境で作業を行うようにしている。

■その他特記事項■

なし

平成 28 年度事業報告

やさい畠クムレ

■事業実施概要■

平成 28 年度は行政を含む関係機関へ訪問するなどして連携の機会を増やし、自治会への参加や総社市でのイベント参加数を増やし、地域に根ざす活動の機会を積極的に設けた。また自然農法研修を受講し農法を取り入れたり、民間企業と連携しタンポポ(コーヒーの原料)の試験的栽培を始めたりして工賃向上の為の業務の選択肢を増やした。6 次産業化の取り組みとして安納芋チップスを作成した。また環境整備(5S)にも力を入れ、事業所内外の環境を向上させた。売上高減少に対する取り組みと業務及び利用者支援に関する手順書の作成が今後の課題である。

■重点方針■

重点方針		その人らしい生き方の支援			
利用者支援目標	個別支援計画を定期的に見直し、全利用者が支援目標を達成できるようになる。	具体策	個別支援計画の取り組み状況や支援方法を、PDCAサイクルで進めていく。	実施内容	アセスメントを実施。(継続)
	一人ひとりの仕事の評価をし、仕事の楽しさ、達成感を伝えていく。		ケースワークを行い、就労目標や取り組みたい活動等の希望を話し合い、本人のスキルに合わせ支援する。		現場で取り組んだことを終礼等で共有し支援に反映。
	工賃アップを図る。		収穫量の増加と、市場調査により、高値で取引される作物の栽培、6 次作業化による付加価値のある商品の開発・販売。		自然農法取り組み開始。 安納芋チップスを試験的に作成。 耕作放棄地を新規、借り入れ。
重点方針		子育て力を高めるための保護者との協働			
家族支援	家族に利用者本人の能力・成長を実感してもらい、家族の能力も工	具体策	今後出てくる課題だけでなく、今日の前に直面している課題にも	実施内容	家族参加日を設け、利用者といっしょに作業に携わり、現状を確認

地域支援目標	ンパワメントする。	具体策	目を向け、家族とともに解決を図っていく。	実施内容	
	家族と一緒に事業所の取り組みを行う。		家族の方に事業所に来て頂き、調理や自主製品の開発に助言・協力してもらう。		家族参加日実施。
重点方針		地域とともに育む子育ての環境づくり			
	地域に出向き、事業所の取り組みの浸透を図る。	具体策	広報誌の配布。合わせてやさしい畠クムレの活動が分かる情報も発信していく。	実施内容	定期的に広報誌配布。総社市主宰の事業所紹介行事参加。自治会参加(1月から)
	地域にある社会資源を知り、支え合える基盤作り、関係作りを行う。		地域の方との交流を通して、農作業のアドバイスや、地域の情報を得る。共同で作業していく関係性を構築していく。		地域の農業従事者と情報交換。総社市農林課及び地食べ公社との連携。
	地域との接点を増やし、収穫物の販路拡大を行うとともに、6次産業化（加工品）を図る。		ひろば栗の家、無人市などの販売、法人内専門職や専門機関等の協力を得て加工品の製造、販路拡大を行う。		無人市は未実施。(管理上の問題で) 鶴心寮を販路に加える。 安納芋を収穫し安納芋チップスを作成。

■中期経営計画に対する事業所単独の取組み■

目標	具体策	実施内容
安定した事業運営 (利用者20名の確保)	様々な機関との連絡 ・支援学校、支援センター訪問 ・やさしい畠クムレ周知するイベント開催	総社千人雇用紹介利用者見学(6月) 特定非営利活動法人わおん紹介利用者体験(7月) 早島支援学校教諭施設見学

	(8月) まきび支援学校参観日出席 (10月) 倉敷芸術科学大学教諭紹介 利用者見学(3月) あしたば利用者体験(9月から)
--	---

■第三者評価に対する取組み■

取組み内容	実施内容
個別支援計画作成時における課題について	アセスメント研修参加後、アセスメントシート作成
苦情解決の仕組みについて	重要事項説明書内に第三者委員2名の氏名、連絡先を明示 苦情解決の仕組みを事業所内に掲示

■地域公益事業活動■

活動内容	実施内容
ひろば栗の家を中心として地域のニーズを把握することで、設備や人材を活用し、必要なサービスの提供や災害時の協力体制の構築を行います。生活困窮者支援として①一時的な住まいの場の調整、②中間的就労の場を提供します。	法人所有の施設外ホームの紹介 当事業所の紹介 公益活動推進協議会(総社市)出席
生活困窮者等に対する無償の緊急ショートステイの提供（食事・入浴を含む）	対応可能な状態になっておらず未実施

■行事報告■

行事名	実施予定期 月	内容	結果
入社式	4月	新入社員（利用者・職員） 入社を祝う。	利用者3名 職員1名

花見	4月	砂川公園（バーベキュー）	施設外でバーベキューを行うことで利用者と職員の交流を深めた。
招待ボーリング	6月	アミパラ(倉敷)でボーリング実施	作業時と異なる利用者の様子確認ができた。
さつま芋ほり	10月	他事業所の利用者に芋ほりを体験してもらう	やさい畠クムレの宣伝活動になった。利用者とその家族との交流を深めた。
家族参加日	12月 3月	利用者家族に利用者と一緒に農作業体験をもらう	農作業時の様子を家族に見てもらえることができた。
初詣	1月	最上稻荷で参拝後、チャレンジにて食事	利用者と職員の交流を深めた。
他施設見学	10月	(株)パーソナルアシスタンント青空(愛媛県)で自然農法を学ぶ	自然農法の取り組みにつなげた。

■利用者状況■

平成28年度 3月予算実績管理表												事業所名: やさい畠クムレ		責任者名: 大西 志功					
I 利用者動向																			
■就労継続支援B型 定員20名																			
単位:人																			
項目/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	差異	累計月	差異			
実績	274	269	279	278	261	256	249	248	239	248	239	262	262	-	3,102	-			
計画	264	276	264	276	276	286	299	308	322	345	300	368	368	-106	3,584	-482			
昨年度実績	221	228	239	243	209	204	211	195	192	196	213	253	253	9	2,604	498			
開所日実績	22	23	22	23	23	22	23	22	23	23	20	23	23	-	269	-			
開所日計画	22	23	22	23	23	22	23	22	23	23	20	23	23	0	269	0			
請求利用者数	16	16	16	16	16	16	15	15	15	15	16	16	16		15.7	-			
稼働率	62.3%	58.5%	63.4%	60.4%	56.7%	58.2%	54.1%	56.4%	52.0%	53.9%	59.8%	57.0%	57.0%	-	57.7%	-			
昨年度稼働率	50.2%	49.6%	54.3%	52.8%	45.4%	46.4%	45.9%	44.3%	41.7%	42.6%	53.3%	63.3%	63.3%	-6.3%	49.1%	8.6%			

●利用者支援目標

<就労継続支援B型 やさい畠クムレ 農業>

農業の売り上げ目標は、年間 200 万円、また平均工賃 10000 円/月と設定したが、仕組みや天候不良等の影響で、農作物が不作であった。自然農法や6次産業化への取り組みを行ったものの、目標は達成できず。次年度は更に効率よい仕組みの構築を心がけるとともに、地域の農業指導員獲得し目標を達成する必要がある。

■保護者・家族との交流■

家族参加日を始めて、事業所を利用している家族間交流の足がかりとなった。

■事業所研修■

研修項目	実施月	実施内容
第二期中期経営計画勉強会	12月 1月	法人理念を実現させる為の考え方、業務の考え方など、資料を基に実施。
自然農法現地勉強会	10月 12月	やさい畠クムレ所有の畠でコンサルタントの指導を受け、玉ねぎ定植。

■ワークライフバランスに対する取組み■

天候に左右される農作業を行う為、定時退社日を設定できなかったが、結果として週2日 の定時退社日を目指した。

有給休暇取得については公休取得を優先し、取り組みまで至らず。

■防災・安全・衛生活動■

避難訓練実施(9月・3月)

事業所環境整備計画に基づく施設内、外の環境整備

救急蘇生法研修参加

防犯研修(総社警察署)受講後の職員への周知

公用車運行時の安全意識の啓発

緊急連絡網(職員・利用者・家族)を作成し職員は常時携帯

利用者への作業場(畠)へ移動時の安全確認啓発

■その他特記事項■

なし

平成 28 年度事業報告

なないろ 居宅介護・訪問介護・日中一時

■事業実施概要■

平成 28 年度、なないろは事業の再編、統廃合を実施しました。
 ①4月1日付日中一時支援活動場所を一か所に統合②訪問介護（介護保険）を9月30日付休止③1月1日付放課後等ディサービスを新規開設④日中一時支援を3月31日付廃止以上を実施し、よりニーズの高い事業へ特化すべく再編を行いました。

■重点方針■

重点方針		その人らしい生き方の支援			
利用者支援目標	支援体制の確立 認識を合わせる	具体策	新規活動場所での支援を定着させるため、管理者を交えた支援目的や、内容を確認する機会を定期的に設ける。	実施内容	月1回、第4金曜日に職員会議を定期的に開催。各ケースの情報共有を行った。
	ニーズの把握と、個人の力を最大限にいかした支援		利用者の出来ること、ニーズ、要望を、本人・家族から聞き取りを行い、個別支援計画に反映させる。 相談支援専門員との連携を深め、対象者のニーズ把握を行なう。		計画的に聞き取りを実施。支援に反映していくために情報の共有を図った。 カンファレンスへの出席 相談支援専門員への定期的な報告
	在宅生活の継続 (法人内外の資源の再確認)		法人内外の人的、物的資源やノウハウを有効活用し、利用者に提供する。		関係機関を交えた情報交換を行った。 (サービス担当者会議等)
重点方針		家族と支える利用者の暮らし			
家族支援目標	コミュニケーションの場を設ける	具体策	管理者、常勤職員で訪問	実施内容	契約ヘルパーが主担当になっているケースを中心に訪問を行った。
	家族の意見を聴取する		アンケートの実施		未実施

	機会を設ける。		アンケートに基づく改善		
	地域のサービスや関連情報を提供する		計画作成時や支援、モニタリング時に、現状に合わせた地域資源等の情報を伝える。		「保健福祉の手引き」等を参考に、必要な情報を利用者に提供了した。
重点方針		地域で支えあう環境づくり			
地域支援目標	事業所周辺の情報収集	具体策	事業所周辺に出向く。	実施内容	家主宅へ定期的に訪問し、地元情報の収集を行った。
	地域資源との関係づくり		倉敷拠点での新たなニーズを探る。		田植えに参加 地域の方が集まる際、定期的に参加した。
	ボランティアの確保・受け入れ態勢の整備		地域住民、近隣の大学等へのPR		【居宅】ガイドヘルパー研修会に参加。大学生等のヘルパー従事者の確保を行った。 【日中一時】クリスマス会にて学生ボランティアの受け入れを行った。

■中期経営計画に対する事業所単独の取組み■

目標	具体策	実施内容
関係機関や地域の社会資源との顔の見える関係作り	・なないろ居宅・訪問の事業所情報（事業内容や活動状況）を法人ホームページで定期的に発信していく	広報「ふれあい」にて移動支援事業の紹介 ブログにて、日中一時行事を中心に発信し、PRに努めた
安定した事業運営	・ヘルパー、アルバイト確保に向けた労働条件の見直し ・固定経費(移転に伴う賃料等)の圧縮 ・事業別収支の改善(人員配置の適正化)	・事務局と協力し「非常勤登録型ヘルパー就業規則」を新たに制定し、雇用条件の整備を行った。 ・移転計画が延期となつたため、未達。 ・27年度比、事業所全体、正規職員2名減で運営を行った。

■第三者評価に対する取組み■

取組み内容	実施内容
将来を見通した事業内容の検討	<ul style="list-style-type: none"> ・日中一時支援を廃止し、放課後等デイサービスへ切り替えることで、法人に求められているより重度な方への支援にシフトした。 ・居宅ヘルパーへの待遇改善については、就業規則を定めて、働きやすい環境の整備を行った
アセスメントの見直し	<ul style="list-style-type: none"> ・法人で取り組んだアセスメントシートを活用し、利用者の状況を正確に把握できるよう取り組んだ。

■地域公益事業活動■

活動内容	実施内容
ひろば栗の家を中心として地域のニーズを把握することで、設備や人材を活用し、必要なサービスの提供や災害時の協力体制の構築を行います。生活困窮者支援として①一時的な住まいの場の調整、②中間的就労の場を提供します。	未実施
防災のための備蓄を整備し、有事の際は地域で暮らす利用者へ配布します	未実施

■行事報告■

居宅介護

行事名	実施予定月	実施内容
職員研修・ヘルパー座談会	隔月	<ul style="list-style-type: none"> ・4/13 新年度体制事業計画について ・6/8 ヘルパー間の情報交換 ・9/14 成年後見制度について（はれるや 石原副会長） ・2/22 研修報告（強度行動障害

		支援者養成研修)
--	--	----------

日中一時

行事名	実施予定月	内容	目的
保護者参加行事	10月	やさい畠クムレ で芋掘り	・保護者間の交 流
クリスマス会	12月	クリスマスを祝 う	・利用者間の交 流 ・ボランティア と利用者の交流
行事	上記を除く、毎 月第4日曜(原 則)	季節の行事	・余暇支援 ※1月以降は利 用者減のため中 止

■利用者状況■

■居宅介護															単位: H	
項目/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	差異	累計月	差異
居宅介護	518.5	572.5	552.0	561.0	551.0	520.8	531.0	543.3	535.5	523.0	477.0	527.5	527.5	-	6413.1	-
行動援護	80.5	128.5	129.5	79.5	107.0	90.5	89.0	116.0	96.5	114.5	114.0	123.5	123.5	-	48.0	-
重度訪問介護	0.0	6.0	0.0	5.0	11.0	4.0	4.0	0.0	6.0	6.0	6.0	0.0	0.0	-	1269.0	-
実績合計	599.0	707.0	681.5	645.5	669.0	615.3	624.0	659.3	638.0	643.5	597.0	651.0	651.0	-	7730.1	-
居宅介護	600.0	600.0	600.0	600.0	580.0	580.0	580.0	580.0	580.0	580.0	580.0	580.0	580.0	-52.5	7040.0	-626.9
行動援護	120.0	120.0	120.0	120.0	120.0	120.0	120.0	120.0	120.0	120.0	120.0	120.0	120.0	3.5	36.0	12.0
重度訪問介護	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	-3.0	1440.0	-171.0
計画合計	723.0	723.0	723.0	723.0	703.0	703.0	703.0	703.0	703.0	703.0	703.0	703.0	703.0	-52.0	8516.0	-785.9
居宅介護	640.5	549.5	673.5	649.0	578.0	630.5	501.5	620.5	513.5	625.0	590.0	542.0	542.0	-14.5	7113.5	-700.4
行動援護	128.5	151.5	117.0	132.5	139.5	150.0	126.0	132.5	131.0	79.0	106.5	106.5	106.5	17.0	29.0	19.0
重度訪問介護	0.0	13.0	0.0	7.0	0.0	0.0	0.0	9.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1500.5	-231.5
昨年度実績合計	769.0	714.0	790.5	788.5	717.5	780.5	627.5	762.0	644.5	704.0	696.5	648.5	648.5	2.5	8643.0	-912.9
開所日実績	30	31	30	31	31	31	31	31	31	29	28	31	31	-	365	-
開所日計画	22	23	22	23	23	22	23	22	31	31	28	31	31	0	301	64

■訪問介護(※9月30日を以て休止)															単位: H	
項目/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	差異	累計月	差異
実績	83.0	73.0	81.0	70.0	52.0	54.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	413.5	-
計画	95.0	95.0	100.0	100.0	70.0	60.0	-	-	-	-	-	-	#VALUE!	520.0	-106.5	
昨年度実績	115.0	105.0	95.5	93.0	74.5	78.5	92.0	87.0	84.5	80.5	84.0	81.5	81.5	-81.5	1071.0	-657.5
開所日実績	30	31	30	31	31	31	0	0	0	0	0	0	0	-	184	-
開所日計画	30	30	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	31	-31	364	-180

■移動支援															単位: H	
項目/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	差異	累計月	差異
実績	194.0	182.5	213.5	207.0	181.5	202.0	195.0	189.5	193.0	191.0	178.0	247.5	247.5	-	2374.5	-
計画	220.0	220.0	220.0	220.0	220.0	220.0	220.0	220.0	220.0	220.0	220.0	220.0	220.0	27.5	2640.0	-265.5
昨年度実績	235.0	229.5	224.5	224.0	191.0	233.5	232.0	212.0	201.0	193.0	191.5	229.0	229.0	18.5	2596.0	-221.5
開所日実績	30	31	30	31	31	30	31	31	31	29	28	31	31	-	364	-
開所日計画	30	30	30	31	31	30	31	31	31	31	28	31	31	0	365	-1

■日中一時支援															単位: 人	
項目/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	差異	累計月	差異
実績	335.0	307.0	339.0	344.0	411.0	302.0	306.0	331.0	331.0	208.0	160.0	229.0	229.0	-	3603.0	-
計画	380.0	380.0	380.0	380.0	380.0	380.0	380.0	380.0	380.0	380.0	380.0	380.0	380.0	-151.0	4560.0	-957.0
昨年度実績	421.0	327.0	376.0	419.0	389.0	335.0	367.0	332.0	366.0	346.0	359.0	407.0	407.0	-178.0	4444.0	-841.0
開所日実績	26	23	27	27	23	24	27	26	24	20	20	22	22	-	289	-
開所日計画	26	26	26	27	23	24	27	26	24	24	25	27	27	-5	305	-16

●利用者支援目標

<居宅介護>

当初予定より、事業所移転が遅延したことにより、想定された移転による不安解消という課題は先送りになった。強度行動障害支援者養成研修（基礎研修2名、実践研修2名）に職員を派遣し、より専門性の高い利用者本位の支援が提供できるよう、スキルアップを図った。介護保険事業を休止したことで、次年度以降もより障がい者支援に専門特化した事業所として、利用される方に喜んで頂ける支援を目指していきます。

<日中一時支援>

今年度を以て、日中一時は役割を終え、放課後等デイサービスに転換することとなった。終了を惜しむ声が多く聞かれると同時に、新規事業に期待する声も同じ位聞かれた。学校と家庭の中間にある、異なる年齢の子どもたちが一堂に会して活動することでお互いを思いやる気持ちを育てるという目標については達成といえる。

■保護者・家族との交流■

日中一時支援においては、10月に保護者参加行事（芋掘り）に出掛けている。保護者の参画に加えて、やさしい畠クムレで実施することにより、学校卒業後の進路を具体的にイメージできる機会にもなったのではないか。

■事業所研修■

研修項目	実施月	実施内容
職員研修・ヘルパー座談会	隔月	<ul style="list-style-type: none">4/13 新年度体制事業計画について6/8 ヘルパー間の情報交換9/14 成年後見制度について（はれるや 石原副会長）2/22 研修報告（強度行動障害支援者養成研修）

■ワークライフバランスに対する取組み■

- 週2回の定時退社日の設定、実施

（居宅）ヘルパーの都合上、定時勤務時間帯を超える場合があるが、時差出勤などの勤務時間調整等で対応し、時間外勤務を抑制した。繁忙期以外は実施出来た

（日中一時）平常時には実施を推進したが、長期休暇（学校の夏季、冬季、春季の休業）の際には、早い時間帯からの受け入れ希望に対応するため、時差出勤等で対応して、時間外勤務の抑制を図った。

- ・有給休暇年5日以上の計画的取得の奨励

(利用者情報の共有で複数の職員が対応可能な体制を整える)

(居宅) ヘルパー予定が利用者都合でキャンセルになった時などに有給休暇取得するなどして対応した。利用者を複数の職員で対応できるよう引継ぎを実施し、休暇を取得しやすい体制を構築した。

(日中一時) 常勤職員については私事で休暇取得する必要が生じたため、有給休暇を活用させた。取得できた職員とそうでない職員の偏りが生じたため、次年度以降は計画的に取得できるよう、年間計画を策定させる。

- ・事業グループ内でサークルを立ち上げ、活発なコミュニケーションの場とする
未達成。他の事業所との参加可能時間が異なるため、参加方法の検討が必要。

- ・勤務予定を早い段階で確定させる。

未達成。他事業所の開所日との兼ね合いや重なる希望日の調整が必要になり、月末によく完成する月が多かった。人員の確保などで編成しやすくなるよう検討する。

- ・会議等を計画的に実施し、勤務の見通しを立てやすくする。

職員会議を、原則第4金曜日に必ず開催することとし、予定の調整を行った。

■防災・安全・衛生活動■

- ・防災計画については、ひろば栗の家の計画に準じ、連携をとる。

栗のお家に移転しなかったため未達成。現事業所での避難マニュアルを作成し、訓練時に活用した。

- ・訪問時における衛生面において、アルコール消毒等の衛生器具の活用により、感染症予防に努める。

マスク着用等注意喚起し、インフルエンザ等の重大な感染症への罹患を防いだ。

- ・車両による移動が主となるため、交通事故防止に関する啓発や運転管理等を常に行う。

人身傷害を伴う事故は発生しなかったが、擦り傷などの車体損傷事故は発生している。日常的に車両を使用し、同じ場所を走行させることでの慣れが生んだ事故が多くなった。管理者が車両に同乗する機会を設ける等、安全運転のポイントを再確認する機会を設けていく。

■その他特記事項■

なし

平成 28 年度事業報告

放課後等ディサービス なないろ

■事業実施概要■

H29年1月より、新たに支援学校に在籍している小学1年生から高校3年生までを対象とした放課後等ディサービス事業を展開してきた。新規事業ながら、重度の障害の方に對して、「生涯を通じて地域で活動する土台作りを目標に自立支援・尊厳・ハビリテーションの視点を持って利用者に対しサポート展開を行ってきた。

■重点方針■

重点方針		子どもの主体性を育み支える子育て支援		
利用者支援目標	支援体制の確立	具体策	本人がライフステージを経るごとに生じるテーマ（生活自立・余暇活動・社会性や行動・コミュニティー等）に注目し、地域でその人らしい生活をおくり続けるために必要な支援を継続的に提供する。 6歳～18歳の幅広い年齢層の受け入れを行なう放課後等ディサービスでの支援体制について、標準化を図る。	月1回のミーティングと毎日の朝礼を実施した。（支援の振り返り、検証を実施した） ・支援、業務手順書のマニュアルの整備を実施した。

	成長に合わせた支援の実施		<ul style="list-style-type: none"> ・小学校低学年までは、主に生活面の向上を図る支援内容の構成を図る ・小学校高学年以降は、主に思春期特有の行動課題や社会性に目を向けた支援の構成を図っていく。特に高等部以降は発達支援（生活面、余暇の過ごし方、就労に向けた操作性の向上やコミュニケーションの指導を重点的に行なう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者要望書や引き継ぎの場面で計画的に聞き取りを実施し、支援に反映していくための情報の共有を図った。
重点方針		子育て力を高めるための保護者との協働		
家族支援目標	保護者との協働関係強化	具体策	支援等の情報を提供する	月1回の通信の配布を実施した。
			個別懇談の実施	個別懇談が必要な保護者に対し、懇談を実施し、保護者の意見を聴取した。
			保護者ニーズの把握	<ul style="list-style-type: none"> ・意見箱の設置を行い、保護者の意見の受付を行った。 <p>保護者要望書より保護者のニーズを把握するように努めた。</p>
			家庭訪問機会を設け、必要に応じ、生活環境の見直し等を提案する。	家庭を訪問は実施していないが、引き継ぎの場面で、支援や児との関わり等への助言を実施した。
重点方針		地域とともに育む子育ての環境づくり		

地域支援目標	機関連携	具体策	所属機関訪問 地域住民、近隣の大学等へのPR	計画	必要な児に対して、学校訪問を実施し先生との懇談を行った。 訪問後は保護者へのフィードバックを行い、学校での様子を
	地域資源との関係づくり				くりのおうち行事の参加
	ボランティアの確保・受け入れ態勢の整備				ボランティア向けテキストを整備

■中期経営計画に対する事業所単独の取組み■

目標	具体策	実施内容
関係機関や地域の社会資源との顔の見える関係作り	・事業内容や活動状況を法人ホームページで定期的に発信していく	事業開始時に更新した。
安定した事業運営	次年度以降の利用児確保に向け、集客活動に注力していく。	支援学校・相談支援事業所への訪問と事業紹介を実施した。

■第三者評価に対する取組み■

取組み内容	実施内容
将来を見通した事業内容の検討	業務遂行マニュアルを作成し安定した運営がおこなえる体制を作った。
アセスメントの見直し	自立グループでワーキングチームを作り、アセスメント用紙を新たに作成、勉強会を実施し、職員への周知を行った

■地域公益事業活動■

活動内容	実施内容
ひろば栗の家を中心として地域のニーズを把握することで、設備や人材を活用し、必要なサービスの提供や災害時の協力体制の構築を行います。生活困窮者支援として①一時的な住まいの場の調整、②中間的就労の場を提供します。	①、②とも連絡があれば栗の家と連携を図り、就労の体験に繋げる。
防災のための備蓄を整備し、有事の際は地域で暮らす利用者へ配布します	有事の際は事業所保管の備蓄を持出、利用者に配付する。

■行事報告■

行事名	実施予定月	実施内容
個別懇談	1月～3月	職員との懇談し、家庭での様子を聴取する。保護者ニーズの明確化を図る。

■利用者状況■

I 利用者動向 定員: 10名

■放課後デイサービス 休日

項目/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	差異	累計月	差異
実績										7	7	24	24	-	38	-
計画										50	60	75	75	-51	185	-147
昨年度実績													0	24	0	38

単位: 人

■放課後デイサービス 平日

項目/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	差異	累計月	差異
実績										4	13	27	27	-	44	-
計画										0	20	50	50	-23	70	-26
昨年度実績													0	-	0	-

単位: 人

II 月間開所日

項目/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	差異	累計月	差異
実績 休日										9	7	13	13	-	29	-
実績 平日										13	12	9	9	-	34	-
実績 合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	22	19	22	22	-	63	-
計画 休日										9	8	12	12	-	29	-
計画 平日										11	12	10	10	-	33	-
計画 合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	20	20	22	22	-9	62	-33
昨年度 休日													0	9	0	34
昨年度 平日													0	22	0	63
昨年度実績計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13	0	29

単位: 日

III 月平均利用者数

項目/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	差異	月平均	差異
実績										0.5	1.1	2.3	2.3	-	1.3	-
昨年度実績													0.0			

単位: 人

●利用者支援目標

「学校」と「家庭」の間に位置する、生活体験の場としての役割を担うため、支援体制

の確立を最優先としたい。

放課後、休日、長期休暇の時間同世代の子ども達や支援者とのあたたかい関係性に育まれ、主体的に過ごすことで、豊かな人間性が育つよう支援を展開します。

上記の内容に対し学校連携を行い情報の把握と、保護者と引き継ぎ場面で家庭での様子を確認することで、利用者主体の生活体験の場としての役割を担えるような支援体制を整えた。

■保護者・家族との交流■

- ・ 保護者向けに活動内容を発信する。
- ・ 送迎時の引継ぎ項目を明確にして、連絡漏れを防ぐ。

上記内容に対し、法人ホームページ更新や利用希望発信の際に事業所情報を織り込む等、適宜発信し、家族見学習慣をもうけた。また引き継ぎの際には次月利用日などを通信にてお知らせを行った。

■事業所研修■

研修項目	実施月	実施内容
職員研修	月1回	職員会議後に利用者の状態についてケースカンファレンスを実施した。

■ワークライフバランスに対する取組み■

- ・週2回の定時退社日の設定し通所支援計画書作成時期を除いて概ね達成できていた。

■防災・安全・衛生活動■

- ・地震を想定した防災活動に参加した。

■その他特記事項■

なし

平成 28 年度事業報告

倉敷地域生活支援センター

■事業実施概要■

平成 29 年度に倉敷地域（倉敷市・早島町）で基幹相談支援センターが設置されることに伴う「地域生活支援拠点事業」を見据え、障害福祉分野のみでなく、高齢者支援分野や各関係機関、地域との連携強化体制の構築について積極的に取り組んだ。また、倉敷地域自立支援協議会の事務局としても市内サービス支援事業所に対し、各種連絡会や研修会の実施を行い横の連携の強化にも努め、研修会等を主催するのみでなく各事業所の自主性を引き出す様な仕組みづくりを行っている。職員に対する人材育成においてはプログラム等無く課題を残している。

■重点方針■

重点方針		その人らしい生き方の支援			
利用者支援目標	本人のニーズを把握し、エンパワメント（力を引き出す、力を高めていく）の視点を持って支援を行なう。	具体策	適切なアセスメントの実施	実施内容	ケースに合わせたアセスメント内容の実施
			ケース検討		1回/週（金曜）実施
			サービス提供事業所との連携		ケースにおいて実施
			サロン活動においては利用者の利用目的を明確にする。		初回利用時の面談と必要に応じてケア会議への参加
			サロンで行なうイベント、勉強会を利用者に提案をしてもらう。		3/16 に実施。29年度予定へ反映
			利用者満足の把握を行う。		2月～3月に実施
	利用者の求める支援を提供する。			<td></td>	
重点方針		家族と支える利用者の暮らし			
家族支援目標	利用者の暮らしを考える時に、公的サービスばかりで支えるのではなく、家族にも役割をもって関わってもらうようにする。	具体策	計画相談において、ご家族がいる人については家族の役割も明記をしていく。	実施内容	ケースごとに実施
			事業所の利用者家族に対してはモニタリング		ケースごとに実施

	ていただく。		時にお話をする。 家族向けの勉強会の開催。 法人の利用者家族に対して、家族会の場を利用し説明をする必要がある場合には積極的に参加する。		希望者なく、未実施だが、個別面談時に実施 6/5 あしたば家族会にてサービス等利用計画と個別支援計画の連動性について説明実施
重点方針		地域とともに育む子育ての環境づくり			
地域支援目標	障がいがあってもなくても暮らしがやすい倉敷地域にしていく。	具体策	第12回くらしきフォーラムにて一般の方への障がい者へ興味や関心を持っていただけるよう啓発活動を行う。	実施内容	11/6 に川崎医療福祉大学にて実施。1499名の参加あり
	地域の方に事業所、障がい者と関わっていただく。		事業所周辺の地域住民と障がい者との交流の場を設ける。		7/30 に BBQ 実施済 地域参加 7名、地域との合同災害訓練はH29年度に予定
	地域に向けて情報の発信を行なう。		地域の方、家族向けの勉強会の開催		希望者なく未実施
			HPの活用		毎月更新
			広報誌の発行		毎月発行し、サロン利用者の協力で関係機関へも配布
			事業所周辺の清掃活動		毎月1回実施し 4/10 の町内川掃除にも参加
			高齢者支援センターとの連携		各高齢者支援センターのケアマネ交流会や市内全高齢者支援センターの勉強会へ参加。
			サロン活動やひろば栗の家での地域交流を通じて、キーパーソンとの関係づくりを行う		ひろば連絡会での地域連携強化についての検討や赤提灯への参加
	全世代型地域包括ケアに向けた準備		ケア会議を積極的に行うことで、地域とのつながりをより強固なもの		保健師や高齢者支援センターと協働し実施

			のとする。	
--	--	--	-------	--

■中期経営計画に対する事業所単独の取組み■

目標	具体策	実施内容
ワンストップ相談窓口の整備とチームアプローチの構築にむけて、生活困窮者支援に取り組む。 今年度は相談支援員の見識を広め、さまざまな相談に事業所として質の高い対応ができるようにする。	相談員それぞれの得意とする分野をつくり、事業所においてそのことに詳しい相談員を作る。そして、担当者が他のスタッフにも情報を伝える。	相談員ごとに分野担当を決め、各専門部会や研修へ参加し、他職員へ研修報告として実施
	定期的に関わりを持っている人に対しては職員が2人体制で関わりを持ち協力して対応をすることができる体制を構築するとともに、2人で支援の検討をすることで相談の質の担保も行う。	原則 2名体制での相談支援実施
	倉敷市生活自立相談支援センターと協力し、ケースに取り組む。支援調整会議に呼ばれた際には出席をし、意見を述べる。	10/25 に I 型輪番当番として参加
	全世代型地域包括ケアに向け、クムレ内でのチームプレイをより強化なものにしていくため、他事業所職員との交流を積極的にもち、互いの強みについて知る機会とする。	ひろば連絡会の活用や高齢者支援センターとの協働を行い、隨時実施
関係機関や地域の社会資源との顔の見える関係づくりに対し、今年度は地域の方と共に協働していく形を目指しますは顔見知りとなる。	2年目はサロンのイベントに参加していただく方を増やていき、当センターの活動を知っていただく。5年後には地域の方とともにイベントを企画できるようにしていく。イベントを共に企画することで、困ったときに相談しあえるような関係性を事業所と地域とがもつこと	7/30BBQ 実施。地域住民7名参加

	が目標。	
--	------	--

■第三者評価に対する取組み■

取組み内容	実施内容
虐待の相談受付は別シートを作成。	行政作成の共通シートを使用
第三者委員について重要事項に掲載。	掲載済、事業所内掲示にも追加
後見人制度の利用についての勉強会の実施。	希望者なく未実施。ケースごとに説明している

■地域公益事業活動■

活動内容	実施内容
非常災害時の食料を事業所にて備蓄し、災害時には地域の方にもご利用いただけるようにする。また、備蓄・防災の啓発のために年に1回防災イベントを実施し、消費期限が切れる前に、備蓄品を地域の方に食べていただく。	後援会補助金使用できず未実施
ひろば栗の家を中心として地域のニーズを把握することで、設備や人材を活用し、必要なサービスの提供や災害時の協力体制の構築を行います。生活困窮者支援として①一時的な住まいの場の調整、②中間的就労の場（サロン）を提供します。	①緊急支援必要者に対する法人内の施設外ホームの利用②職場見学の実施

■行事報告■

行事名	実施予定月	実施内容	結果
花見	4月7日(木)	酒津公園で花見後、アリオのバイキングにて食事会	利用者 5名 利用者負担 1300円/人
4月クッキング	4月21日(木)	今年度にむけた茶話会 炊飯器を使ってのチーズケーキ・ホットケーキ	利用者 6名 利用者負担 300円/人

マッサージ体験	5月 10日(火)	五月病対策、足ツボ健康講座	利用者 5名
5月クッキング	5月 19日(木)	カレーうどん	利用者 8名 利用者負担 300円/人
三菱自動車見学	6月 10日(金)	三菱自動車にて見学	利用者 3名 利用者交通費負担 320円/人
6月クッキング	6月 16日(木)	手作りぎょうざ	利用者 7名 利用者負担 300円/人
地域交流 BBQ 交流会	7月 30日(土)	センター主催の地域交流会	利用者 10名 地域の方 8名 利用者負担 1000円/人
8月クッキング	8月 18日(木)	たこ焼き	利用者 5名 利用者負担 300円/人
サロンマッチ	8月 20日(土)	菅生小学校体育館を借りて、 午前中スポーツイベントを開催する	利用者 8名
9月クッキング	9月 15日(木)	冷しゃぶ	利用者 6名 利用者負担 300円/人
サロン文化祭	9月 20日(土)	台風で警報発令の為中止	
サロン旅行	10月 16日(火)	姫路城・太陽公園	利用者 7名 利用者負担 2944円/人 内訳 高速往復 6040円 昼食代 10800円 太陽公園 入場料 6000円 ガソリン 2208円 返金分 556円/人
10月クッキング	10月 20日(木)	簡単ピザ	利用者 4名 利用者負担 300円/人
第 12 回くらしきフォーラム参加	11月 6日(日)		利用者 4名
11月クッキング	11月 17日(木)	パッとピラフ&スープ	利用者 8名 利用者負担 300円/人
栗のお家でお飾り作り to ランチ	12月 9日(金)	栗のお家でお飾りを作り、その後ランチを食べる	利用者 3名 利用者負担 500円/人
クリスマス会	12月 12日(木)	ジョイフルでランチ、その後	利用者 3名

		ぼちたまカラオケに行き紅白歌合戦	利用者負担 1000 円/人
初詣	1月 5 日 (木)	阿智神社で初詣、美観地区散策、かっぱで昼食	利用者 5 名 利用者負担 1000 円/人
1月クッキング	1月 19 日(木)	けんちんうどん	利用者 5 名 利用者負担 300 円/人
2月後楽園芝焼き	2月 1 日 (水)	後楽園の芝焼きが雨天の為順延となる。後楽園を散策しランチを食べ、岡山市内をウォーキング。	利用者 3 名 利用者交通費負担 620 円/人 利用者負担 800 円/人
節分	2月 3 日 (金)	豆まき	利用者 4 名
2月クッキング	2月 16 日(木)	手巻き寿司	利用者 6 名 利用者負担 300 円/人
倉敷商店街雑めぐり	3月 7 日 (水)	雑めぐりをし、風習を味わう。その後昼食をとりウォーキングを行う。	利用者 3 名 利用者負担 昼食代
3月クッキング	3月 16 日(木)	来年度のクッキングの茶話会を行う。	利用者 8 名 利用者負担 300 円/人

■利用者状況■

I 利用者動向																
■訪問																
項目/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	差異	累計月	差異
実績	92	113	131	113	117	107	106	117	82	86	103	109	109	-	1276	-
計画	67	67	67	67	67	67	67	67	66	66	66	66	66	43	800	476
昨年度実績	76	67	54	85	54	63	44	45	56	39	53	99	99	10	735	541
■来所																
項目/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	差異	累計月	差異
実績	12	13	18	14	20	15	9	9	11	13	14	26	26	-	174	-
計画	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	16	120	54
昨年度実績	19	26	30	22	5	14	14	8	6	17	16	17	17	9	194	-20
■同行																
項目/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	差異	累計月	差異
実績	25	23	41	28	27	33	21	38	26	25	31	27	27	-	345	-
計画	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	20	20	20	7	250	95
昨年度実績	12	19	21	22	15	22	13	17	7	9	13	18	18	9	188	157
■電話																
項目/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	差異	累計月	差異
実績	79	87	129	105	101	147	55	95	54	139	172	203	203	-	1366	-
計画	250	250	250	250	250	250	250	250	250	250	250	250	250	-47	3000	-1634
昨年度実績	352	327	371	420	239	183	198	183	274	276	232	199	199	4	3254	-1888
■メール																
項目/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	差異	累計月	差異
実績	2	3	3	0	4	4	10	1	4	2	26	41	41	-	100	-
計画	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	5	5	5	36	50	50
昨年度実績	6	8	8	13	6	3	2	2	4	5	2	1	1	40	60	40
■ケア会議																
項目/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	差異	累計月	差異
実績	11	7	9	4	11	12	7	13	7	6	12	12	12	-	111	-
計画	8	8	8	8	8	8	8	8	9	9	9	9	9	3	100	11
昨年度実績	9	7	18	6	8	16	7	11	7	6	8	7	7	5	110	1
■関係機関																
項目/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	差異	累計月	差異
実績	66	150	178	120	190	202	140	155	148	217	415	406	406	-	2387	-
計画	8	8	8	8	8	8	8	8	9	9	9	9	9	397	100	2287
昨年度実績	40	34	47	41	27	34	52	23	29	21	20	57	57	349	425	1962
■入居支援																
項目/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	差異	累計月	差異
実績	1	0	1	0	0	1	5	0	2	0	0	61	61	-	71	-
計画	2	2	2	2	2	2	2	2	1	1	1	1	1	60	20	51
昨年度実績	2	3	2	0	3	3	0	1	3	0	2	0	0	61	19	52
■サロン																
項目/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	差異	累計月	差異
実績	140	103	109	128	107	95	105	111	77	95	89	127	127	-	1286	-
計画	125	125	125	125	125	125	125	125	125	125	125	125	125	2	1500	-214
昨年度実績	153	134	139	135	120	131	175	140	122	134	118	151	151	-24	1652	-366
■計画プラン																
項目/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	差異	累計月	差異
実績	25	14	1	8	10	9	5	2	6	6	4	11	11	-	101	-
計画	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	6	6	6	5	61	40
昨年度実績	17	8	11	3	3	5	7	3	2	2	4	4	4	7	67	34
■計画モニタリング																
項目/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	差異	累計月	差異
実績	13	9	24	18	19	15	16	15	18	21	23	38	38	-	229	-
計画	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	21	21	21	17	262	-33
昨年度実績	12	14	13	22	15	24	20	21	24	21	15	37	37	1	238	-9
■地域定着																
項目/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	差異	累計月	差異
実績	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	2	2	-	46	-
計画	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	6	40
昨年度実績	5	6	6	5	5	5	3	4	4	4	4	4	4	-2	55	-9

●利用者支援目標

〈相談支援〉

利用者尊重、プライバシー保護の視点のもと、相談者の方の思いに寄り添い、どうなりたいかと一緒に考え、そのために今出来ることは何かを分かりやすく伝える。また、本人の持っている力を引き出せるような支援（エンパワメントの視点での支援）を行い、徐々に支援が減っていくよう支援実施。

困ったときにはいつでも連絡出来る関係を築く。

<サロン活動>

サロン利用者の増加を図ると共に、当センターの利用にとどまらず、他のサービスが利用できる方には自己実現を目指し、他のサービスを利用して頂き、いつでもサロンに戻って来られるような環境を提供する。

■保護者・家族との交流■

- ・ケースごとに定期的な面談を行い、必要に応じて臨時での面談も実施
- ・満足度調査の実施で保護者・家族の思いの確認

■事業所研修■

研修項目	実施月	実施内容
事例検討（勉強会）	毎月	毎月の職員会議に加え、毎日の朝礼にて新規相談ケースについて情報共有
研修報告	毎月	毎月の職員会議に加え、毎日の朝礼にて新規相談ケースについて情報共有

■ワークライフバランスに対する取組み■

- ・週2回の定時退社日の設定、実施（水・土）
- ・有給休暇年5日以上の計画的取得の奨励

■防災・安全・衛生活動■

- ・避難訓練の実施 年2回（6月、9月）
- ・救急蘇生法、うがい手洗い、感染症予防対策品の準備、説明、資料の配布
- ・事務所の屋外環境の整備 毎月職員会議前
- ・公用車の運行に伴う、交通安全の啓発や運転管理の実施
- ・利用者への防災や交通安全、感染症予防等の啓発活動

■その他特記事項■

なし

平成 28 年度事業報告

倉敷発達障がい者支援センター

■事業実施概要■

発達障がいの診断のある方、またはその疑いのある方の相談機関として、まず相談者が何に困っているのか、今どうしたいのか、そして将来どうありたいのかをご本人が気付き、自分の言葉で表現できるよう発達相談、機関連携、就労支援等行いました。また、発達障害に特化した相談機関として普及啓発活動を行い、障がい分野以外の団体への勉強会も実施しました。

■重点方針■

重点方針		子どもの主体性を育み支える子育て支援			
利用者支援目標	相談者本人の能力・ニーズを把握し、支援に活かす。	具体策	適切なアセスメント	実施内容	相談者と接する時には随時アセスメントをしている。しかし記録として分かりやすい形で残せていないのが課題である。
			事業所内や法人内の相談系事業所との、定期的なケース検討		予定どおりのまとまった時間はなかなか取れず、計画どおりの実施には至らなかった。
			必要なことを視覚的に整理し、本人とともにプランを練る。		随時行っている。よく使用するものは事業所の書類として整備・改定していく。
			サービス提供事業所や関係機関（相談事業所や就労先や地域等）との情報交換・連携		支援の充実につながるよう関係機関との連携を心がけ実施した。
重点方針		子育て力を高めるための保護者との協働			
家族支援目標	家族に相談者本人の能力を理解してもらう。	具体策	本人だけでなく、家族とも面接等の機会を持つ。家族の思いも把握し、本人の能力や関わり方についてのアドバ	実施内容	面接が可能な家族とは積極的に関わるようつとめている。研修紹介など有益な情報提供は随時行った。

			イスをする。 家族の抱える困難や問題に合った研修を紹介する。		
重点方針		地域とともに育む子育ての環境づくり			
実施内容	障がいがあってもなくても暮らしやすい倉敷地域にしていく。 地域の方に事業所、障がい者について知っていただく。	具体策	くらしきフォーラムの開催。一般市民に、障がい者もともにある生活について考える機会を持つもらう。	実施内容	11/6に実施済み。
			発達障がい支援フォーラムの開催。		12/10に実施済み。 参加者 161名であった。アンケート回収率は 72.8%。福祉関係者の参加が 37%と保護者を上回った。
			障がい特性や支援についての研修等の啓発活動を行う。		今年度は8回実施。高齢者支援センター キャリアカウンセラーなど障がい分野以外の依頼もあった。
			地域の方との交流を持ち、キーパーソンとの関係づくりのため、倉敷地域生活センターのサロンイベントに参加する。		7月にバーベキューを実施。回を重ねるごとに、参加者が親近感を持ってくださるようになった。
			定期的なホームページの更新		今まで出来ていなかったフォーラムの実施報告を行った。

■中期経営計画に対する事業所単独の取組み■

目標	具体策	実施内容
ワンストップ相談窓口の整備とチームアプローチの構築を図る。 コーディネーターの見識を広め、各自引き出しを増やす	事業所内でのケース検討を定期的に行い、相談の傾向、支援の方向性について探ることで、幅広いケースに対応できる力を養っていく。	事業所内でのケース検討は不十分であったものの、地域生活支援センターのケースの流れを知ることで、幅広い知識を得ることが出来たと

し、ご利用者に合った提案が出来るようにしていく。	全世代型地域包括ケアに向け、クムレ内でのチームプレイをより強化なものにしていくため、他事業所職員との交流を積極的にもち、互いの強みについて知る機会とする。	感じる。
--------------------------	---	------

■第三者評価に対する取組み■

平成28年度に受審

■地域公益事業活動■

活動内容	実施内容
ひろば栗の家を中心として地域のニーズを把握することで、設備や人材を活用し、必要なサービスの提供や災害時の協力体制の構築を行います。生活困窮者支援として①一時的な住まいの場、②中間的就労の場を提供します。	②外出し、職場で他者と共同して仕事をすることが困難な相談者に対し、小規模作業所へつないだり、センターから内職的な作業依頼を行い自信をつけてもらった。

■行事報告■

行事名	実施予定月	実施内容
地域交流イベント	7月	バーベキューを実施。
子育て応援シリーズ	7月	17名の保護者対象に発達障がいについて概論を説明した。
くらしきフォーラム開催	11月	川崎医療福祉大学にて実施。
くらしき発達障がい支援フォーラム開催	12月頃	くらしき健康福祉プラザにて実施。
防災の日	1月	倉敷地域生活支援センターと合同で地震を想定した訓練を実施。

■利用者状況■

月別実績・計画比較表																
■訪問																
項目/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	差異	累計月	差異
実績	31	39	28	34	27	26	34	26	22	21	24	33	33	-	345	-
計画	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	13	240	105
昨年度実績	42	33	37	29	26	38	37	35	43	35	26	43	43	-10	424	-79
■来所																
項目/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	差異	累計月	差異
実績	42	53	48	52	45	54	40	55	41	50	49	51	51	-	580	-
計画	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	11	480	100
昨年度実績	62	49	66	62	48	39	57	62	44	53	43	40	40	11	625	-45
■電話																
項目/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	差異	累計月	差異
実績	38	33	53	41	41	56	45	60	32	60	47	54	54	-	560	-
計画	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	13	420	140
昨年度実績	63	89	57	51	50	37	47	35	29	48	42	33	33	21	581	-21
■機関コンサルテーション																
項目/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	差異	累計月	差異
実績	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	0	-
計画	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	1	-1	4	-4
昨年度実績	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
■調整会議																
項目/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	差異	累計月	差異
実績	5	6	10	6	10	9	9	12	6	8	5	10	10	-	96	-
計画	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	6	48	48
昨年度実績	6	4	10	5	4	8	6	11	4	7	5	5	5	5	75	21
■個別支援計画作成																
項目/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	差異	累計月	差異
実績	19	17	25	20	16	18	13	17	12	17	11	14	14	-	199	-
計画	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	-1	180	19
昨年度実績	21	20	21	20	20	20	20	20	19	17	16	10	10	4	224	-25
■研修																
項目/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	差異	累計月	差異
実績	0	0	1	2	1	0	1	0	1	0	0	2	2	-	8	-
計画	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	1	1	6	2
昨年度実績	0	1	0	0	1	0	1	0	1	0	1	0	0	2	5	3
■新規相談件数																
項目/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	差異	累計月	差異
実績	12	12	20	11	14	13	12	14	14	17	16	16	16	-	171	-
計画	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	16	0	171
昨年度実績	13	27	11	11	10	5	9	5	14	6	5	8	8	8	124	47

●利用者支援目標

<発達障がい者相談支援事業>

発達障がいの診断のある方、またその疑いのある方が、生活で直面する困りごとを解決できるよう、問題の整理、助言、情報提供等を行います。また、発達障がいについて正しい理解を進めていくために普及・啓発活動を行います。

■保護者・家族との交流■

本人の生活のサポートをより強化なものに出来るよう、面接の際には、家族の思いの傾聴・関わりの助言等を行った。

また、第三者評価受審にあたり利用者アンケートを行い、家族の考えを知ることができた。

■事業所研修■

研修項目	実施月	実施内容
事例検討	毎月	事例検討を毎月行い、ケースへの対応力を挙げた。

■ワークライフバランスに対する取組み■

- ・週2回の定時退社日を設定した。ケース量の多さ、相談者の都合等から、徹底した実施は困難であった。

■防災・安全・衛生活動■

- ・倉敷地域生活支援センターと合同の避難訓練を実施した。
- ・面接時のマスク着用、相談室の空気清浄、消毒液の設置により、感染症予防に努めた。
- ・毎月の事務所周辺環境整備を行い衛生活動に努めた。
- ・公用車の運行に伴う、交通安全の啓発や運転管理の実施

■その他特記事項■

なし

平成 28 年度事業報告

居宅介護支援事業所クムレ庄新町

居宅介護支援事業所では、高齢になっても住み慣れた地域でご本人が望む生活が出来ることを目標に支援を行っていきました。在宅生活の継続の為にも家族の力と、サービス、地域の力を借りて、互助が活きるコミュニティ作りを行い、高齢になっても住みやすい地域作りを目指しました。

■事業実施概要■

利用者本位のケアプランを立案するために、ご本人の能力及びニーズを導くアセスメントを実施し、利用者の望む生活の実現に努めました。

ご本人のご家庭での生活状況の把握、ご家族のエンパワメントも目的として、モニタリング（家庭訪問）を行い、ケアプランの見直しや利用者の暮らしを支えていきました。また、サービス提供先の事業所や地域の民生委員との情報交換をしたり、定期的に地区のサロンに参加したり関係作りに取り組みました。

しかしながら、自立支援事業グループの再編により今年度（平成 29 年度 3 月末日）をもって事業廃止となり、平成 29 年 2 月中に他事業所へ全利用者を引継ぎました。

■重点方針■

重点方針		その人らしい生き方の支援		
利用者支援目標	本人の能力、ニーズを導き出し、望む生活を実現する	具体策	本人や家族との詳細なアセスメントの実施	実施内容
			ケース検討（倉敷地域生活支援センター、高齢者支援センター）	
			短期目標の定期的な見直し	
			地域移行支援への参加、アプローチ	
			障がい相談事業所との連携（第2号被保険者）	
	制度の切れ目のない支援の実施		契約時および介護保険証更新時にアセスメントを実施 年度途中よりインライ方式を試験利用 ケアマネ交流会への参加（開催時） 各支援センターと合同ケース検討（年2回） モニタリング時に見直し 病院からの退院時や、施設退所時のケア会議に参加 倉敷地域生活支援センターとの連携・調整	

			等も視野に入れて)	
重点方針		家族と支える利用者の暮らし		
家族支援目標	制度内容の理解を促し、活用して頂く	具体策	モニタリング時の相談 家族のエンパワメントや介護保険外制度の活用支援	月1回実施 モニタリング・再アセスメント時に提案
	家族との顔の見える関係作り		モニタリングの家族参加、情報共有	月1回実施
			法人内事業所家族会や通所介護座談会への参加の呼びかけ	法人内事業所家族会には参加できていない
重点方針			地域で支える利用者の暮らし	
地域支援目標	地域の相談機関との関係作り	具体策	通所介護座談会参加	月1回実施 (毎月第3土曜日)
	居宅クムレを活用していただく		民生委員との情報交換	座談会において、町内役員、民生委員と情報交換を行った
	全世代型地域包括ケアに向けた準備		地区のサロン会への参加	未実施
			地域回り、実態を把握する(地域を回ることで相談や支援の実施、キーパーソンとの関係構築を図る)	町内利用者宅訪問のみで、地域回りにまでは至っていない

■中期経営計画に対する事業所単独の取組み■

目標	具体策	実施内容
安定した事業運営 担当利用者人数の増加 (介護支援専門員1人あたり40件を目標とする)	医療機関、相談支援事業所、高齢者支援センターとの顔の見える関係作り クムレの介護保険事業の周知を図る	要介護平均18件/年 要支援平均7件/年 (※請求ベース 平成29年3月をもって事業廃止)
ワンストップ相談窓口の整備とチームアプローチの構築	全世代型地域包括ケアに向け、クムレ内でのチームプレイをより強化なものにしていくため、他事業所職員との	ひろば連絡会(ひろば栗の家)に参加

	交流を積極的にもち、互いの強みについて知る機会とする。	
65歳を迎える方、40歳以上で第2号保険者特定疾患をお持ちの方の障がいサービスから介護保険サービスへの移行モデル作成	法人内の対象者選定と、他事業所とも連携を図り情報収集する	実際に65歳以上の精神疾患をお持ちの方、措置入院からの介護保険サービスへの移行のケースがある

■第三者評価に対する取組み■

取組み内容	実施内容
虐待の相談受付は別シートを作成。	未実施
第三者委員について重要事項に掲載。	重要事項に掲載した
後見人制度の利用についての勉強会の実施。	未実施

■地域公益事業活動■

活動内容	実施内容
ひろば栗の家を中心として地域のニーズを把握することで、設備や人材を活用し、必要なサービスの提供や災害時の協力体制の構築を行います。生活困窮者支援として①一時的な住まいの場の調整、②中間的就労の場を提供します。	オレンジカフェでの体操や講義を行ったが、生活困窮者支援は行っていない

■行事報告■

行事名	実施予定月	実施内容
和気藹藹座談会	毎月第3土曜日 13時30分～ 15時まで	参加者の方からの声によりテーマを決め、ともに学び楽しむことにより住民同士の交流を深めると

		ともに、誰もが安心して暮らせる街づくりを目指した活動を、通所介護事業所とともにした
庄新町盆踊り大会	8月	町内会の一員として町内会に協力し、準備片付け反省会まで参加させていただいた
庄新町文化祭	10月	通所介護事業所に協力
人権フェスタ庄	11月	通所介護事業所とともに、手工芸コーナーとしてブースを担当

■利用者状況■

居宅介護		介護予防ケアマネジメント 業務委託	
年間プラン 作成件数	年間 訪問件数	年間プラン 作成件数	年間 訪問件数
229	229	82	38

I 利用者動向																
■居宅介護支援 計画作成件数																
項目/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	差異	累計月	差異
実績	19	19	19	21	19	20	19	18	18	15			18	-	172	-
計画	20	22	23	25	27	29	31	34	35	33	35	35	35	-17	246	-74
昨年度実績	16	14	14	14	13	13	14	14	14	14	16	16	14	4	126	46
■庄北高齢者支援センター																
項目/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	差異	累計月	差異
実績	5	5	5	5	5	5	5	5	5	4			5	-	45	-
計画	2	2	2	2	2	2	3	3	5	5	5	5	5	0	23	22
昨年度実績	2	2	2	2	2	4	4	3	3	3	4	5	3	2	24	21
■岡山市包括支援センター																
項目/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	差異	累計月	差異
実績	1	2	2	2	2	2	2	2	1	1			1	-	16	-
計画	1	2	2	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	-2	22	-6
昨年度実績								2	1	1	2	2	1	0	3	13
■倉敷北高齢者支援センター																
項目/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	差異	累計月	差異
実績	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1			1	-	9	-
計画	1	1	2	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	-2	21	-12
昨年度実績													2	0	1	9

●利用者支援目標

＜居宅介護支援事業＞

その人に合った在宅生活が継続できた。65 歳を迎え、障害者総合支援法から介護保険法へ移行しても継続した切れ目のない支援を行うことができた。また、介護予防ケアマネジメントの業務を受託した。

■職員配置■

変更なし。

事業種別	計画					現員	常勤換算
	正規	嘱託A	嘱託B	専門職	その他		
	1					1	1

職種	基準	実員	常勤換算	過不足	備考
介護支援専門員	1	1	1	0	管理者兼務

■保護者・家族との交流■

- ・家族向けに法人や各事業所の活動内容を発信（法人広報誌配布）。
- ・法人ホームページ更新はできていない。

■事業所研修■

研修項目	実施月	実施内容
介護保険、総合事業について	4月	倉敷市での要支援者に対するサービスが総合事業として変更になることについての理解
介護技術	7月	介護技術の基本についての復習
認知症ケア	11月	認知症ケアに対する考え方の復習

■ワークライフバランスに対する取組み■

- ・週2回の定時退社日の設定、実施（毎週月、木曜日）

■防災・安全・衛生活動■

- ・防災計画については、通所介護事業所クムレの計画に準じ、連携を取り訓練を実施した。
- ・訪問時における衛生面において、アルコール消毒等の衛生器具の活用により、感染症予防に努めることができた。
- ・車両による移動が主となるため、交通事故防止に関する啓発や運転管理等を常に行つた。

■その他特記事項■

 クムレ

- ・利用者の意見・要望・苦情の発生に対して、タイムリーにかつ真摯に対応ができなかつた事を反省している。

平成 28 年度事業報告

通所介護事業所 クムレ

■事業実施概要■

自立グループの事業再編により平成 29 年 3 月末での事業廃止に伴い、積極的に新規利用者を受け入れることができなかったことと、移行先の準備も行ったため利用者数は知りつぼみとなった。12 月より利用者、家族、地域住民への説明と理解をいただくこととなった。利用者、家族にとっては生活スタイルの大幅な見直しと変更を余儀なくされ、不安の声も多く聞かれた。丁寧に個別対応をさせていただくことと、利用者同士が互いに相談しあい今後の生活について話されていることに助けられた。地域の方々からは、生活介護に事業所が変わることについての不安が聞こえてくることはなく受け入れていただけた。

■重点方針■

重点方針		その人らしい生き方の支援			
利用者支援目標	目標を持ち生活の充実を図る。	具体策	出来る事、やりたいことを設定し、実現するためモニタリングを通じ、通所介護計画に明記していく。	実施内容	介護計画更新時にご本人、家族と相談し計画を立てて実行する。
	本人の能力を活かす支援。		誰かの役に立つことで、感謝される体験をする。		保育園で使用するおもちゃなどを注文いただき、みんなで協力して作成、直接子供たちに届けてそれを使って遊ぶ様子を見守る。
			QOL と IADL の向上を図るため、掃除、洗濯、洗い物、机拭きなど役割を持ち、出来ることで活躍していただく。		職員がすべてをしてしまうことなく、利用者様に自主的にやっていただけるようにする。
			法人内外の人的、物的資源やノウハウを有効活用し、利用者に提供する。		町内のサロン活動への参加を促し、情報交換をしながら継続に繋げている。
	在宅生活の継続（法人内外の資源の再確認）				

重点方針		家族と支える利用者の暮らし			
家族支援目標	家庭生活に役立つ活動の充実。情報の共有。	具体策	家庭で出来ていること、事業所で出来ていることの情報共有する為の家庭訪問。	実施内容	日々の活動の状況の伝達と、介護計画更新時に家庭訪問し、情報交換する。
			事業所での生活の様子を実際に見ていただく。個別参観の実施。		家族に説明し促すもなかなか実現できなかった。 他の用事で来られた時に説明し少し見ていたいた。
	家族の力を引きだす。		家族の介護負担軽減も図りつつ、介護技術の講習や制度の説明を行う。		家庭での困りごとについてのアドバイスや、事業所での関わり方、様子も含めて実際に家庭でやって見せたりする。
重点方針		地域で支えあう環境づくり			
地域支援目標	住民が町の中で活躍できる環境づくり。	具体策	町内行事における屋台運営を、和気藹藹座談会の一員として利用者、職員と一緒に参加していただく。	実施内容	町内行事での屋台運営にて和気藹藹クムレとして行事に参加している方々にも手伝っていただき一緒に汗を流す。
			座談会参加者にボランティアとして話し相手や業務に協力していただく機会をつくる。		散歩中に出会った方々をお誘いし、一緒にお茶を飲んだりすることで、利用者も含めた話などが出来た。
			見守りが必要な家庭に対する支援を地域住民とともに使う。		民生委員さんとの情報交換や和気藹藹座談会時に住民の方からも情報いただいている。
	運営推進会議の開催		町内会役員、民生委員、庄駐在所等、との情報の共有をはかる。		町内会役員、民生委員さんと情報交換しながら開催する。次回の開催時期を決めていたが、事業変換について話をさせていただく。

■中期経営計画に対する事業所単独の取組み■

目標	具体策	実施内容
庄新町公民館を災害避難場所とする取り組みをスタートさせる。	町内会、民生委員、駐在所、社協、支援センターとの共同検討会を開催する。	協同の検討会の開催には至っていないが、町内会、民生委員、駐在所と話をしている。
65歳を迎える方、40歳以上で第2号保険者特定疾患をお持ちの方の障がいサービスから介護保険サービスへの移行モデル作成。	グループ内での対象者選定と、他事業所とも連携を図り情報収集する。	実際に65歳以上の精神疾患をお持ちの方、措置入院からの介護保険サービスへの移行のケースがある。

■第三者評価に対する取組み■

取組み内容	実施内容
障がいサービスから介護保険サービスへのスマートな移行モデルをつくる。	介護保険事業から障がいサービス事業へ変更し、障がいサービスからの介護保険サービスへのスマートな移行を目指す。
ケア場面ごとの大切にする事項を作成する。	テーマを決めて検討作成をする。

■地域公益事業活動■

活動内容	実施内容
ひろば栗の家を中心として地域ニーズを把握することで、設備や人材を活用し、必要なサービスの提供や災害時のきょうりょくたいせいの構築を行います。生活困窮者支援として①一時的な住まいの場の調整、②中間的就労の場を提供します。	オレンジカフェでの体操や講義を実際に行う。 赤ちゃんを庄新町の方々にも勧め一緒に参加する。
生活困窮者に対する無償の緊急ショートステイの提供（食事、入浴を含む）	実績なし

■行事報告■

行事名	実施予定月	実施内容
和気藹藹座談会	毎月第3土曜日 13時30~ 15時まで	参加者の方からの声によりテーマを決め、ともに学び楽しむことにより住民同士の交流を深めるとともに、誰もが安心して暮らせる街づくりを目指した活動をする
庄新町盆踊り大会	8月	町内会の一員として町内会に協力し、準備片付け反省会まで参加させていただき。焼きそば屋台として400食を提供し、和気藹藹座談会のメンバーや行為にしている町内の方にも屋台の手伝いをしていただきともに汗を流す。
庄新町敬老のつどい	9月	庄新町町内会の敬老会に通所利用者も参加させていただき健康体操をさせていただく。町内会役員、町内の高齢者の皆様との交流となる。
庄新町文化祭	10月	通所介護で作った手工芸作品の展示と、準備片付けに参加させていただく。手工芸作品については後日作り方を教えてほしいと訪問いただき、利用者様が教えてあげることができた。
人権フェスタ庄	11月	庄地区人権学習推進委員会としてフェスティバルの運営、手工芸コーナーとしてブースを担当し子供たちを中心にクリスマスツリーブルクリを行った。
庄新町朝市	12月	年末に開催し準備片付け、反省会まで参加させていただく。餅つき担当として参加し、利用者も朝市に参加することで町内の方との交流を図る。

■利用者状況■

I 利用者動向													単位:人			
■通所介護 定員10名																
項目/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	差異	累計月	差異
実績計	116	116	115	124	151	142	123	135	121	88	97	95	95	-	1,423	-
介護	87	85	86	91	114	119	99	110	96	70	85	83	83	-	1,125	-
介護予防	29	31	29	33	37	23	24	25	25	18	12	12	12	-	298	-
計画	110	115	120	125	130	135	140	145	155	160	165	170	170	-75	1,670	-247
介護	80	85	85	90	90	95	95	100	100	105	105	110	110	-27	1,140	-15
介護予防	30	30	35	35	40	40	45	50	55	55	60	60	60	-48	535	-237
昨年度実績	100	87	86	91	99	94	96	88	93	75	96	119	119	-24	1,124	299
介護	92	80	76	83	86	81	79	73	76	59	69	82	82	1	936	189
介護予防	8	7	10	8	13	13	17	15	17	16	27	37	37	-25	188	110
開所日実績	21	22	22	21	23	22	22	21	21	20	20	23	23	-	258	-
開所日計画	22	22	22	21	22	22	21	21	21	20	20	23	23	0	257	1
昨年度実績	22	21	22	23	21	22	22	21	21	20	21	23	23	0	259	-1
稼働率	55.2%	52.7%	52.3%	59.0%	65.7%	64.5%	55.9%	64.3%	57.6%	44.0%	48.5%	41.3%	41.3%	-	55.1%	-
昨年度稼働率	45.5%	41.4%	39.1%	39.6%	47.1%	42.7%	43.6%	41.9%	44.3%	37.5%	45.7%	51.7%	51.7%	-10.4%	43.3%	11.7%

●利用者支援目標

利用者とご家族と協力して、無理だとあきらめていたやりたいことを実現する活動を続けて行く。その一つとして最後まで自分の家で生活したいという正直な思いを受け入れ、共有して行ける信頼関係を築いていく。また、地域の協力を仰げる関係づくりを目指す。

本人の能力を活かし、誰かに喜んでもらえる事、誰かの役に立つことをしていただくことで、地震の存在意味を感じていただき、心を動かすことで身体を動かしていただけるケアを行う。

■保護者・家族との交流■

年2回の家族会の開催を予定していたが2回目については、通所介護事業の廃止についての話と今後の法人の目指すところについて一軒ずつすべての家庭を訪問し説明し、ご理解とご協力のお願いをして回らせていただいた。

■事業所研修■

研修項目	実施月	実施内容
介護保険 総合事業について	4月	倉敷市での要支援者に対するサービスが総合事業として変更になることについての理解。
介護技術	7月	介護技術の基本についての復習
認知症ケア	11月	認知症ケアに対する考え方の復習

■ワークライフバランスに対する取組み■

- ・週2回（火曜、木曜）を定時退社日として設定し実施する。
- ・有給休暇5日以上の計画的取得の実施

■防災・安全・衛生活動■

- ・年2回の避難訓練の実施と、その際に家庭での災害時の対応について個別に検討し確認する。
- ・町内会清掃活動への参加
- ・ごみステーション清掃、資源ごみ回収当番 各年1回
- ・うがい、手洗いを基本とし、アルコール消毒等の衛生器具を用いて感染予防（持ち込まない、持ち出さない）に努める。
- ・送迎業務において、車両の安全運転に関する啓発や運転管理を行う。

■その他特記事項■

平成24年6月にスタートした通所介護事業所 クムレを平成29年3月末で閉所した。利用者、家族、地域住民に丁寧に説明させていただいた。なぜ？どうして？困るなど様々な反応をいただいた。しかし皆様に、社会の情勢、社会福祉法人としてのクムレの役割、今後の通所介護から生活介護への変更と職員はそのまま残るという説明をすることで理解を得ることができた。今後の住宅街の中での民家改修型の生活介護の新たな挑戦をご支援いただきたい。

平成 28 年度事業報告

事務局

■事業実施概要■

平成 28 年度は、平成 29 年 4 月 1 日施行の改正社会福祉法への対応及び月次決算や事務処理の合理化に取り組み、改正社会福祉法で法人に求められる体制作りを行った。具体的には、定款の変更、評議員選任解任委員会の開催、各種規程を整備し新体制作りを行った。また、会計・労務管理ソフトの入れ替え月次決算が可能になり法人の経営状態を把握し適正な事業運営のサポートを行った。

■重点方針■

重点方針		社会福祉法改革への対応			
総務 ・ 涉外 ・ コン プライ アンス 目標	<ul style="list-style-type: none"> 社会福祉法制度改 に備えた新たな組織管 理体制への移行 	具 体 策	<ul style="list-style-type: none"> 理事会、評議員会の 人選を含めた体制作り 事業所訪問しコンプ ライアンス体制作り 	実 施 内 容	<ul style="list-style-type: none"> 新制度対応のための 定款及び規程の整備。 評議員選任・解任委員 会開催。
	<ul style="list-style-type: none"> 建築物の計画的な修 繕と維持管理と再投資 計画の推進 		<ul style="list-style-type: none"> 老朽化が進んでいる 建築物があるため、「建 築物長期修繕計画」に基 づく計画的な修繕と 維持管理 		<ul style="list-style-type: none"> 長期修繕計画は未作 成。今後の資金繰りを 含め作成。
	<ul style="list-style-type: none"> 経費削減の継続的な 取組み 		<ul style="list-style-type: none"> 物品購入システム導 入後の効果の確認・購 入先見直し 		<ul style="list-style-type: none"> 平 27 年 12 月に導 入したアスクルアリーナ の効果検証ができな かった。経費削減を推 進する上で H29 年度 取り組む。
	<ul style="list-style-type: none"> 情報発信とグループ ウェアの活用 		<ul style="list-style-type: none"> HP を活用し、制度 や事業に関わる情報提 供とグループウェアを 活用した業務の効率化 		<ul style="list-style-type: none"> 経営協や社協から 情報をグループウェア を通じて事業所と共 有。
	重点方針	働きやすい職場・労働環境作り			
人事 ・ 労務 目標	<ul style="list-style-type: none"> ワーク・ライフ・バラ ンスの推進 	具 体 策	<ul style="list-style-type: none"> 定時退社デー実施の 継続 有給取得の推進 	実 施 内 容	<ul style="list-style-type: none"> 毎月のグループ会議 で定時退社及び有給取 得率の状況を報告し、 次月の取り組みの指標

				にした。
	・処遇体系の見直し		・規程の整備及び実施の準備	
	・職員間のコミュニケーションを図る		・法人内のクラブ・サークル活動の後援	
	・専門資格取得促進及び表彰制度		・規程の整備 ・実践発表会等での表彰	
重点方針		内部決算実施に向けた体制の構築		
財務・経理目標	・月次決算の適正な実施	具体策	・チェックリストに基づく確認	実施内容
	・予算執行の適正な管理		・予算実績管理を年から月ベースで実行	
	・事務作業の標準化		・業務プロセスとスキルの明文化、手順書の作成	
	・事務処理の合理化		・インターネットバンキングの導入 ・ファイリングの見直し	

■中期経営計画に対する事業所単独の取組み■

目標	具体策	実施内容
法人活動の見える化	事業報告書および事業計画書のHP上で公開	・平成29年度事業計画をHPの情報公開ページに掲載済み。事業報告書も掲載予定。
会計監査の実施	内部補正予算及び決算と会計事務所による監査の実施	・法人内部で予算から決算まで完結し、会計事務所による監査を実施予定。

■第三者評価に対する取組み■

取組み内容	実施内容
-------	------

対象事業所の受審の後方支援として、評価機関との連絡窓口、報告会を実施する。	平成29年1月20日にコンサルテーション、21日に報告会を開催。
---------------------------------------	----------------------------------

■地域公益事業活動■

活動内容	実施内容
栗坂地区の清掃活動に参加	溝掃除と空き缶拾いに参加
栗坂地区の稻作に参加	4月～1月にかけて稻作からどんど焼きのイベントを開催。地元大学生も参加。
各拠点でのよろず相談会の実施	未実施

■行事報告■

行事名	実施予定月	実施内容
辞令交付式	4月1日	辞令交付、入社式
理事会・評議員会	5月28日	決算他の審議
法人説明会	6月11日	法人説明会
第1回新採用職員試験	7月3日	入職試験
理事会・評議員会	8月28日	一次補正他の審議
内定者交流会	10月8日	内定者の交流
第2回新採用職員試験	10月16日	入職試験
第3回新採用職員試験	11月13日	入職試験
互例会	1月4日	新年挨拶、抱負他
内定式	1月7日	内定証書授与、先輩職員との交流
理事会・評議員会	1月28日	二次補正他の審議
新採用職員宿泊研修	2月15日～18日	理念、組織、マナー等の勉強
理事会	2月15日	防犯対策入札参加業者選定
理事会・評議員会	2月24日	防犯対策落札業者決定、不動産取得
理事会・評議員会	3月25日	三次補正、新年度事業計画の審議

■保護者・家族との交流■

クムレ後援会を通して保護者会・家族会の役員と意見を交換。

■事業所研修■

研修項目	実施月	実施内容

エクセル	6月	よく使う関数について
労務について	8月	高額医療費制度、労務法改正について
年末調整について	10月	年末調整書類の記載について

■ワークライフバランスに対する取組み■

- 正規職員削減に伴い、法人イベントを正規職員で振り分け業務を分担。

■防災・安全・衛生活動■

- ストレスチェックを大規模事業所で実施。

■その他特記事項■

- 特になし

委員会活動報告書

教育・研修

リスクマネジメント

広報

交通安全・防災

人権倫理

業務改善

安全・衛生

平成28年度 振り返り（C）と課題（A）

委員会名：教育・研修委員会

作成者：中谷

委員会の目的	人財育成の視点に立ち、専門研修及び実践活動を通してクムレ職員への育成支援を行う	対策・行動（予定）	要望等
活動内容の進捗	成果・問題点・課題		
1 事業グループ専門研修の推進	<p>I 一年間計画に沿って概ね実施できた。</p> <p>①日程・場所</p> <ul style="list-style-type: none"> 休日を利用するなどして集中研修日を設けることにより、業務に支障なく研修を行いうことができた。 グループによつては、時間帯、研修場所への考慮が必要だったとの反省があがつた。 <p>②研修内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 前年度の反省や課題を踏まえて事前に講師と内容を確認、検討するようになしたが、グループによつてバラつきがあつたようである。 緊急時の対応（災害、不審者対応）については、グループでの専門研修で実施、あるいは、グループの実態に合わせて事業所内での実施（チームによるロールプレイに重点化）にするなどしていく。 	<p>①時間帯や場所については、今年度の反省を踏まえ、グループに所属する事業所の勤務形態を考慮して計画する。</p> <p>また、引き続き、集中研修日を設ける等、グループで工夫していく。</p>	

<p>③その他</p> <ul style="list-style-type: none"> 各種研修の区別（研修体系や意義、ねらい） がついておらず、研修が多すぎて負担を感じているとの声がある。 	<p>③各種研修の意義や目的を理解できるように伝え上で、各事業所（拠点）での研修計画を立案する必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 各種研修の意義や目的を理解できるように職員に伝えて上で各事業所（拠点）での研修計画を立案、実施して欲しい。また、事業所の特性により、事業所内研修の計画、実施は行なえばよいが、重点化は必要。 <p>II-①事業G会議時に進歩確認や必要なアンケートをしたことにより、各事業所からの協力も得られ、期日までに各種準備はできている。必要に応じて各グループの担当委員が助言者とのパイプ役もしていた。</p> <p>II 実践発表の推進と発表会の開催（企画・運営）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進捗管理、助言者とのパイプ役 <p>②マニュアルをもとに企画、運営を行つた（行つている）が、担当者もかわり、初めて活用することで、不明確な部分も判明してきており、現存のマニュアルに加筆・修正に入れ込む。</p>
--	---	--

<p>学会発表（岡山県保健福祉学会）への推進をていく必要がある。また、会の形態も前年度とは異なる為、新たな内容も含める必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 助言者に実践発表の中から学会発表への推薦（選定）をしてもらい、所属する事業所責任者に連絡。（各統括に原稿及びPPの内容確認をしてもらう。）学会に関する各種連絡は、事務局の委員が担当。 内容（組立、原稿、PP含む）の精査について検討が必要。 内容（組立、原稿、PP含む）に關しての助言・指導者の明確化 学会の特性や「研究発表」を理解した上で的確な助言、指導ができる人を担当とする。
<p>IIIその他</p>	<ul style="list-style-type: none"> 委員会のメンバー発表が遅く、急に委員になつたと言われて、引継ぎや準備ができず困惑した、との声があつた。

平成28年度 振り返り（C）と課題（A）

委員会名：リスクマネジメント委員会

作成者：樋口 奉弘

委員会の目的	(1) リスクマネジメントの基本である、報告、連絡、相談ができるやすい風通しの良い職場作り (2) 委員会メンバーがリスクマネジメント研修において学んだ事、委員会の中で深めた事を各事業グループの事業所責任者、法人の職員に伝え、自己研鑽を図る (3) 法人内の職員に福祉施設におけるリスクマネジメントのあり方を伝え、事例についての水平展開、及びフォローを行い、気付きの視点を向上させる
活動内容の進捗	成果・問題点・課題 1、各グループに持ち帰つて共有を図るのは困難。 ○グループ会議から他グループへの水平展開に必要な情報の提供を行い意見交換はできている 【内容】服薬、ファイルの持ち出し（個人情報）、車両、怪我（噛み付き、転倒など）など ⇒継続した取り組み

活動内容の進捗	成果・問題点・課題 1、各グループに持ち帰つて共有を図るのは困難。 ○グループ会議から他グループへの水平展開に必要な情報の提供を行い意見交換はできている 【内容】服薬、ファイルの持ち出し（個人情報）、車両、怪我（噛み付き、転倒など）など ⇒継続した取り組み	対策・行動（予定） 1、・他グループへの周知の方法の明確化 ・要因分析と今後の方向性の視点（良い分析をしている事業所の方法や考え方を知る）	要望等
	2、意見を出し合い事例の検討を行うにて、統一性が図れない状況に気付く（村岡先生・岡本統括の助言）。 事故・ヒヤリ・気付きの定義を検討決定特に意見が上がつてこないことから問題なく定義が浸透していると判断する。	2、「不適合の定義」の活用 管理者の判断の道標として利用	

<p>3、リスクパトロールの実施（全事業所、事務局）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的と実施方法の検討 ○昨年度に継続リスクパトロールの実施を行った。意義や目的として、様々な意見から報告や周知の体制、是正の仕方②報告書の管理③要因分析などのよい事例④工夫している良い取り組みを内容とした。結果については、各グループ訪問者でまとめ（書面）て全事業所に発信する <p>⇒実施途中</p>	<p>3、ただ結果を発信するのではなく、リスクとはなども付け加えて発信する予定</p> <p>4、グループ会議リスク書式の見直しと気付き○グループ会議リスク報告書の書式は統一しているが、記入方法がまちまちであった。また気付きカードが作年度から開始されたが反映されておらず検討課題となる。</p> <p>⇒実施</p>	<p>3、(秦) リスクマネジメントの考え方</p> <p>や目的の視点（事故・苦情、業務標準、分析など）を入れた、リスクパトロールの実施</p> <p>4、気付きを多く感じ取れる法人として目。各グループ会議で気付きの視点、重要性を発信する。気付きの件数は多くはないが件数と気付きが比例しているかは不明である</p> <p>5、4の記入方法を全事業所の統一を図るために記入例を作成したが、是正の受け止め方が曖昧であるため、まず委員会メンバーで是正について統一を図る。</p> <p>6、リスクパトロールでの表彰制度はせず、全事業所への情報提供を目的とした</p> <p>⇒未実施</p>
---	--	---

<p>7、自己研鎖（研修、ベンチマーク） ⇒未実施</p>	<p>7、県のリスクマネジメント研修への参加 受講予定</p> <p>7、全社協上級リスクマネジャー養成講座 受講予定</p> <p>8、今後の課題と方向性 ・意見苦情（クライシスマネジメント）</p> <p>8、 • 第3者評価から苦情解決について話をする。 苦情解決責任者・苦情窓口責任者・第三者委員の明記（重要事項説明書）から統一が図れていない。各事業所の窓口・責任者が誰かが理解できているか、明記したもののが貼り出しているか、窓口がどのような対応をしてどのように繋げていけばよいか認識、周知されていないのが現状ではないか。そこからの取り組みとなるのではないかと話し合う。</p> <p>• 要因分析と方向性（課題解決の方法） ら繋げていくことが困難な事業所がある。</p> <p>• 委員会としては問題意識を高めて、全事業所に発信機能を持つ</p> <p>• 全事業所の苦情受付などの明記の確認発信 • クライシスマネジメントを学ぶ</p>
-----------------------------------	--

委員会名：広報委員会

平成28年度 振り返り（C）と課題（A）

作成者：中山

委員会の目的	(1) 広報誌を通してクムレの取り組みやこれから取り組むことを利用者家族、地域住民、関係機関に分かり易く発信する。 (2) ホームページを通して各事業グループからの具体的な取り組みをタイムリーに情報発信する。 (3) 地域に魅力ある情報発信ができる視点を持ち、広報活動をする。		
活動内容の進捗	成果・問題点・課題	対策・行動（予定）	要望等

<p>かった。</p> <ul style="list-style-type: none"> 法人内の職員が広報誌についてどのように感じているのかあまり分からなかった。 依頼を法人内外にかけても、サービス事業所のことを知っている。または、そこで働いている職員を知っている人からの提供に留まっており、法人の行っているサービスあまり広報誌では伝わっていないと感じた。 	<p>ルをしているため、広報委員も何かしら所属する事業グループの催し者等に参加して、雰囲気を感じながら、どのように事業所を魅力的に見せるのか知ることも必要かと感じる。</p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 写真を撮りに行くことで、所属する事業所のサービス内容を知ことができ、その事業所の良いところなどを広報担当して、見せ所などが少し理解できだと感じる。 リニューアル後、相談メールが来ており、以前より見やすいHPになると感じる。 以前のHPに比べ見やすくなつたとの意見が多く聞かれている。 広報委員会を中心に新しいホームページの移行作業ができたと思う。 <p>新しいホームページでの情報発信の具体的な方法については、これから整理する必要がある。</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 中身については4月からの動きに合わせて隨時変更していく必要がある。また、事業所間で偏りが出ないよう、委員会の中で確認していく必要がある。 タイムリーな情報発信が必要。 全グループの事業所が偏りなく記事を出すことが出来るようにする。 記事をアップする際の統一ルールを確認・策定していく。 ホームページのリニューアルを行い、1ヶ月経過したが、記事の更新は順調に見える。今後この状態が継続できるかが問題。
	<ul style="list-style-type: none"> 定期的に記事をアップしていくように各事業所に発信、また記事を上げやすいようにフォローする必要がある。 情報発信の方法についての新たなマニュアルを整備する。 都度、各事業所の更新状況の確認を行なながら、必要と思われるることを検討し、周知していく。 マニュアルはある程度の物にしておき、写真の大きさ等に関して規定は無くても良いとも感じる。「～ねばならない」の所が増えると、負担感が増えると思われる。また、業務過多になることが予想されるためHP専門の職員配置が出来ればと考える。 委員会として担っていく業務などを整理しフローチャートできるといい。

<p>・各事業所に広報委員担当を新たに作ったが、結局のところ、写真の添付の方等に統一性が保たれていない。説明会を行っているが、なぜそれをするべきなのかといったところが、事業所広報担当に伝わりきっていない。</p> <p>・退職者が出たときの対応を明確にし、早期に対応が出来る状態にする（法人・リクルート）</p>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度は業者さんが全面的に作成をした。 ・業者が制作した為、映像も綺麗で統一感があつたと思う。 ・専門職の方が作成したことでの、クオリティの高い内容の物が出来ている。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・退職者の把握をしていく必要がある。退職者の把握と、毎年制作をし直さないといけないと思う。 ・写真がNGな方や退職者など、修正が必要な場合の対応策を考えていくべき。 	<p>・頻繁に更新しなくてもよい状態にして行くため、退職者などの把握と対策が必要。</p> <p>・HP専門の職員配置が出来れば</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マスコミへの情報提供する際のルートを委員会メンバーで確立しておく必要がある。 ・マスコミに情報提供する際のルートを確立しておくる必要がある。 <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新聞に取り上げられたり、取材があったりした。 ・新聞、ラジオといったメディアに取り上げられることが多く見られ、社会に對してアピール出来ていた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・積極的な情報提供ではないため、マスコミに対してどのように働きかけていくのか、ルートを確立しておくことが必要なのではないか。 ・ケーブルテレビは契約しないと視聴が出来ないと視聴が出来ない為、NHKなど民族のテレビ局に取り上げてもらうルート確立が必要。 <p>【魅力ある情報発信】</p> <p>各事業所の取組みについて、新聞やテレビ等に取り上げられ、取材を受けることがあった。</p> <p>“魅力ある情報発信”について具体的な取り組みを広報委員会で話し合う。</p>
--	--	---

	広報委員会にて魅力ある情報発信について更に検討する必要があると思う。	
その他	<p>【要望】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度初めの委員会では何をどのようにしていく委員会か会議かまたは別に説明して欲しい。業務内容がよく理解できないまま、担当の仕事が増えていくため、理解し実行するまでに自信がもてない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・業務内容や作業手順がある程度決まっている物から整理をしていく

平成28年度 振り返り（C）と課題（A）

委員会名：交通安全・防災委員会

作成者：久保

委員会の目的	(1) 安全運転	(1) 公用車の安全運行、交通事故発生予防	(2) 防災	(1) 災害発生時の対応策を策定	
活動内容の進捗	成果・問題点・課題			対策・行動（予定）	要望等
交通安全					
1. 安全運転啓蒙活動					
①交通事故発生状況の発信 交通事故発生状況をwawaofficeの掲示板等で 発信、周知を図った。	①全体に周知したこと自体がこれまでなか つたことであり、画期的だったが、周知し たことによる効果はどうだったのか、効果 をどのようにして測るのかが課題。	①周知内容を受けて各事業所が何を行 ったのかを報告。1か月後を目途に取 り組みの結果を報告。	②参加チームを増やすためにグループ ウェアを通して参加を呼びかける。参 加者に簡単なアンケートあるいは聴き 取りを行い、意識向上が図れたかどう か等、効果を測る。	③設置する目的をはっきりさせたうえ で、設置する必要があるのかないの か、あるのであれば対象車はどれにす るのか等を具体的にする。	④①と同じ
②無事故無違反チャレンジ200日への参加 期初に参加を法人全体に呼びかけ、委員会のほ か2チーム（あしたばから）参加あり。	②参加したことによる効果は不透明だが、 取り組みとしては良いことだと思う。参加 チーム数が少ないことが課題。	②参加チームを増やすためにグループ ウェアを通して参加を呼びかける。参 加者に簡単なアンケートあるいは聴き 取りを行い、意識向上が図れたかどう か等、効果を測る。	③設置することが目的になってしまった。 ドライブレコーダー設置の目的や対象車、予算 化等検討したが具体的に決まらなかつた。	④①と同じ	④①と同じ
④交通事故分析 事故発生の報告書を委員で確認し、交通事故發 生状況の発言時に見解を示した。	④①と同じ				

2. 帳票・フォーム	<p>①自動車関連帳票の確認 10～11月に帳票の確認を全事業所訪問確認し、不備がある事業所には委員から改善するよう指導を行なった。</p> <p>②マニュアル・フォーマットの見直し運用開始。</p> <p>③マニュアル・フォーマットの見直し運用開始。</p> <p>④安全運転管理者の育成 安全運転管理者講習への参加。</p> <p>⑤安全運転講習 新採用職員研修等で教育・研修を実施。</p>	<p>①整備が不十分な事業所もあつたが、概ね整備されていた。面談時間や訪問時間がとられることが課題。</p> <p>②特に問題なく運用されている。</p> <p>③マニュアル・フォーマットの見直し運用開始。</p> <p>④安全運転管理者の育成 安全運転管理者講習への参加。</p> <p>⑤安全運転講習 新採用職員研修等で教育・研修を実施。</p>	<p>①今後は帳票をデータで送つてもらうなどして平易に行えるようにする。 安全運転管理者がいる事業所（車両保有台数が5台以上・マイクロバス所）をピックアップして訪問し、実情を把握する。</p> <p>②必要に応じて改訂する。</p> <p>①毎年受講することで初心に帰れ、法律等の最新情報を探る。</p> <p>②実施による検証は出来ていないが、新採用職員研修で伝えることで安全運転への意識を向上している。</p> <p>防災</p> <p>1. 防災対策の枠組み作り ①拠点、事業所での避難訓練・マニュアル作り ②防災対策設備・備品の検討</p> <p>2. 防災対策設備・備品の整備を進め各事業所での防災対策整備、備品の整備を進めた。</p> <p>①BCPを策定することで、意識は高まる。合同訓練での課題を抽出し解決策を検討し取り組む。</p> <p>②BCP策定の中で必要な備品について検討し、予算化、整備する。</p>
------------	--	---	---

<p>③BCP（事業継続計画）策定 委員会メンバーが所属する事業所をモデルケースとして策定途中。</p>	<p>③委員が所属する事業所で検討したが、項目が多く具体的に考えにくいものがあつた。</p>	<p>①特に成果無し ①活動の検討 岡山県社協が3月に研修を開催予定。</p>	<p>②災害支援ボランティア登録と活動ボランティア登録済み。熊本地震で救援物資を輸送。</p>	<p>4. 地域・社協との連携 ①栗坂町内会との合同災害訓練 町内会長には意向は伝えており、賛同は得ている。 ②倉敷市社協との連携についての協議市社協との話ができていない。</p>	<p>③BCP策定を進めることの大変さ ①県社協の動きを見ながら進める。 ①研修に参加予定。</p>	<p>②引き続き各研修に参加し、スキルアップを図る。 ①BCP策定を進める中で地域との合同災害訓練を進める。 ②状況を見ながら連携を進める。</p>	<p>①活動効果の検証を実施し、無事故無違反を継続する。次年度もスローガンとヒヤリハット動画の配信を継続し啓蒙活動を行なう。 ②BCP策定の中でコラボできるもの ②未実施</p>
--	--	---	---	--	--	--	---

コラボできていない。 ③ベンチマーク ベンチマークは出来ていない。	があれば検討する。 ③先駆的な取組みをされている法人 (例えば経営協でB C Pを作成した法人等を視察する)
---	--

平成28年度 振り返り（C）と課題（A）

委員会名：人権倫理委員会

作成者：森安

委員会の目的	活動内容の進捗	成果・問題点・課題	対策・行動（予定）	要望等
(1) 人権・権利擁護について学び、人権・権利擁護についての意識を高める。 (2) 法人内の職員の人権・権利擁護についての意識の向上を図る。 (3) 利用者の権利を守る活動の促進を図る。	<p>○人権・権利擁護についての学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員会メンバーの勉強会の実施（外部研修を含む） ・乳児保育園、コトノハ、夜間保育園、にじいろ、子育て支援センター、クラシス・野菜畠の見学 ・ケース検討（人権倫理に関する課題）実施できないない 	<p>○事業所見学の実施の結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業所（乳児保育園、コトノハ、幼児保育園、夜間保育園・子育て支援センター・にじいろ、コトノハ・野菜畠）の見学・話し合いを通して、それぞれの事業所の環境や業務などを知ることができ、権利擁護に関する取り組みや課題なども知ることができた。 ・事業所訪問の結果と思われるが、人権関係の相談が委員会メンバーに入ることがあった。委員会としてどのような対応ができるかの検討が必要。 	<p>・各事業所の課題の解決のために、人権倫理委員会としてできることを考えていく。できることは実施する。</p>	
	<p>○人権・権利擁護についての意識啓発活動（研修・研修資料作成他）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援・発達支援・自立支援事業グループの人の権倫理に関する専門研修の実施 	<p>○研修の実施の結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門研修によって、職員の意識を高めることができた。（発達、子育て4月に実施済 	<p>・今年度、自立支援グループで実施した研修と同様の方法で、子育て支援</p>	

<p><u>委員会のメンバーが各事業グループの人权に関する研修を実施した。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <u>研修の手順書・テキスト等の作成</u> <u>自立支援グループでの研修を実施</u> 	<p>事業グループ、発達支援事業グループでの研修を行う。このような方法で、毎年、職員の意識等の変化を見るために、同様の研修を行う。</p> <p>自立支援グループは11月に実施。講師は内田マネージャーと郷原リーダーが担当、3回に分けて同じ内容の研修を実施した。</p> <p>事前アンケートをとり、結果を分析、それとともにグループワークを行った。受講した職員は、かなり深く、人権について考えることができたと思われる。</p> <p>○虐待対応マニュアルの整備（マニュアル活用等の促進を含む）</p> <ul style="list-style-type: none"> <u>子育て支援事業グループの虐待対応マニュアルの作成</u> <p>・倉敷市の虐待対応マニュアルを更新した場合は、子育て支援事業支援グループのマニュアルの改訂を行う。</p>
--	--

平成 28 年度 振り返り (C) と課題 (A)

委員会名：業務改善委員会

作成者：上村

委員会の目的	(1) 業務改善の推進を図ること (2) 表彰制度の実施	活動内容の進捗	成果・問題点・課題	対策・行動（予定）	要望等
委員会メンバーの事業所内での業務改善の取り組み状況の進捗報告・情報共有	・委員会メンバーの所属している事業所の取り組みは、今年度の実践発表でもテーマとして取り上げている	・月 1 回の委員会開催だが、全メンバーが集まって開催がほとんど出来ていない	・次年度も引き続き現場の中での実践を通じての業務改善を行い、情報発信を行っていく	・次年度の開催曜日や時間帯の検討が必要	
業務改善のための、現状の課題抽出のアンケートを実施（回収、集計）	・集まった意見のフィードバックの方法	・出てきた課題を、どのように改善のサイクル（PDCA）に乗せていくか	・PDCA サイクルの視点で業務改善を行っていけるような発信、進捗確認、成功事例等を法人内で水平展開		

平成28年度 振り返り（C）と課題（A）

委員会名：安全衛生委員会

作成者：財前 亘

委員会の目的	法人内の職員の健康増進や働きやすい職場づくりについて検討する	対策・行動（予定）	要望等
活動内容の進捗	成果・問題点・課題		
1. ストレスチェックについて ・今年度のストレスチェックは、医師の面接も含め終了している。 ・今年度の実施の流れについて整理している。	傾向として低く出ている ・来年度、担当者が変わっても実施できるよう、マニュアル作成	モチベーションを上げる工夫が必要 今年度の流れをもとに次回の委員会までに、たたき台を作成。	
2. 次年度に取り組むことについて ・腰痛予防の推進 ・広報誌の発行 ・ストレスチェック ・職員健康診断の窓口・・・委員会メンバーや行ついくかを検討。 ・委員による事業所巡回	予防的観点からの改善課題の抽出 実効性のあるものを法人へ依頼	健康診断と同義で実施 次年度実施体制について 衛生管理者の推進 他委員会との兼ね合い	